

墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

1997

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

1997

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会



調査地B区



有孔罽付土器 (40号住居址出土)



人の手をモチーフにもつ土器片（土器廃棄場出土）



40号住居址有孔罎付土器出土状態



特殊遺構土器出土状態



久保上ノ平遺跡調査地（南方より）

序

本報告書は、久保上ノ平地跡に、南箕輪村が墓地公園の造成工事を、続いて南箕輪村土地開発公社が宅地造成工事を行うに当たり、平成7年4月から9月まで、遺跡の記録保存のため実施した緊急発掘調査の記録であります。発掘は墓地公園予定地の約1,000㎡、宅地開発予定地の約2,000㎡を対象として行いました。

調査の結果、この遺跡は縄文時代中期、弥生時代後期、奈良平安時代の三時期にわたる複合遺跡であることが明らかとなりました。縄文中期の遺構では、古付浅鉢型土器を中心とした祭祀行為を思わせる土器配列、遺物には人の手を写実的に表現した土器破片、人体文様の付いた有孔罎付土器など、特徴のあるものが出土しました。周溝墓が密集して発見されたことも特筆すべきことと思います。また、平安時代の住居跡からは灰軸陶器がまとまって出土しており、当時の生活を考察するのに大きな手掛かりを与えてくれることでしょう。このような特徴をもつもの以外にも、遺構・遺物が数多く、高い密度で出土しており、発掘・整理に神経を使い、たいへんな時間を必要としました。本報告書は記録性に重点を置いて記述・編集してありますので、村郷土館に保管してある出土品や発掘記録とともに、研究の資料として役立てていただければ幸いです。

現地検討会にお招きした明治大学教授（現学長）の戸澤充則先生は「この遺跡の立地、地形からして地域の中核となる大規模な拠点集落であると推定できる。集落はどのような広がりをもっているか、特殊遺構は集落全体の中でどう位置づくか、土器の配列はどうなっているかなど、全体として解明されて、そのもつ意味がわかってくるであろう」と、今後の調査、整理分析についてのご示唆をいただきました。今後の課題として取り組みたいと思います。

9月末、現場の作業を終了するに当たり、私は調査団の皆さんに「今、こうして地表に姿を現した遺構を眺めて思うことは、4～5,000年も前にこの土地に暮らしていた人々のことです。争いもなく、おおらかで、自然の恵みに感謝し、自然の偉大さへの畏れと慎みをもって生活していたことであろうと思います。祭祀跡と推測される特殊遺構をみて、その思いをさらに深くしました。また、周溝墓に眠っていた人達には、お騒がせをして申し訳ありませんでした。残してくれた物は、大切に保存し子孫に伝えてまいります」と挨拶しました。そのあと、特殊遺構と周溝墓に酒を献じ、調査団20余名で黙禱を捧げました。日の陰った発掘現場に静寂の一時が流れ、目をあげると、昔の人達も仰いでいたであろう南アルプスの山々が夕日に輝き、くっきりと聳えておりました。

試掘からはじまって、発掘、出土品の整理、復元、報告書の作成に携わっていただいた調査員、作業員の皆さん、本当にありがとうございました。発掘現場に何回となく足を運んでご指導いただいた県文化課・県立歴史館をはじめとする諸先生方、発掘に手を貸していただいた近隣の学芸員の方々、その他多くの皆さんにたいへんお世話様になりました。心から感謝申し上げます。

南箕輪村教育委員会

教育長 杉 澤 崇

例 言

- 1 本書は長野県上伊那郡南箕輪村1164-1他7筆に所在する久保上ノ平遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は南箕輪村による墓地公園の造成と南箕輪村土地開発公社による宅地造成に伴い、南箕輪村教育委員会が行ったものである。
- 3 この遺跡の名称を当初、丸山遺跡として調査を行ったが、調査地の地字名から久保上ノ平遺跡と名称変更した。このことから本報告書では旧称を使用せず、久保上ノ平遺跡と記述している。
- 4 本報告書は発掘調査の結果を公開することに重点をおき、作成・編集した。
- 5 発掘調査は平成7年4月6日から平成7年9月20日まで行い、引き続いて整理作業及び報告書の執筆・編集を行った。
- 6 本書作成における作業は以下のように分担した。
 - 遺構図の整理・トレース 五十嵐正子・福澤京子・友松 諭
 - 遺物の実測・トレース 太田祥二・小澤よね子・飯塚美喜子・平澤克久・友松 諭
 - 拓影図作成 飯塚美喜子・松澤英太郎・友松 諭
 - 写真図版作成 松澤英太郎・友松 諭
- 7 本書の執筆・編集は友松 諭が行った。
- 8 本書で掲載した図版の縮尺は、遺構図1:40、1:60、1:80に統一した。
- 9 遺物実測図は1:3、1:4を基準にしているが、小個体の場合に2:3、1:2を用いた。
- 10 土器の復元は福沢幸一氏に委託し行った。
- 11 航空写真の撮影は瞬ジャスティックに委託し行った。
- 12 試掘調査から本書の作成までの間、下記の機関、個人の方々にご指導、ご協力を頂いた。
 - 機関 長野県教育委員会・長野県立歴史館・南箕輪村久保区
南箕輪村文化財専門委員会
 - 個人 赤松 茂・飯塚政美・伊藤 修・神村 透・唐木孝雄・小池 孝・小平和夫
柴 登巳夫・島田哲男・白鳥喜一郎・新谷和孝・戸澤充則・福島 永・松原和也
丸山敏一郎・三上徹也・宮下健司・宮脇正実 (敬称略 五十音順)
- 13 本書で報告した各記録、出土遺物は南箕輪村教育委員会で保管している。

本文目次

口 絵

序

例 言

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 遺跡の位置	1
第2節 自然環境	2
第3節 歴史的環境	2
第4節 基本層序	6
第2章 調査の経緯	8
第1節 調査の契機と経過	8
調査日誌	11
第2節 調査の体制	15
第3章 調査結果	16
第1節 縄文時代の遺構と遺物	16
(1) 竪穴住居址	16
3号住居址 5号住居址 13号住居址 24号住居址 25号住居址	
27号住居址 28号住居址 29号住居址 30号住居址 31号住居址	
32号住居址 33号住居址 34号住居址 35号住居址 37号住居址	
38号住居址 40号住居址 41号住居址	
(2) 土器廃棄場	91
(3) 特殊遺構	91
(4) 配石遺構	108
(5) 土 坑	109
第2節 弥生時代の遺構と遺物	111
(1) 竪穴住居址	111
4号住居址 16号住居址 18号住居址 19号住居址 23号住居址	
(2) 周溝墓	123
1号周溝墓 2号周溝墓 3号周溝墓 4号周溝墓 5号周溝墓	
6号周溝墓 7号周溝墓 8号周溝墓 9号周溝墓	
(3) 屈溝址	131

第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物	133
(1) 竪穴住居址	133
1号住居址 2号住居址 6号住居址 8号住居址 9号住居址	
10号住居址 11号住居址 12号住居址 15号住居址 17号住居址	
20号住居址 21号住居址 22号住居址 26号住居址 36号住居址	
39号住居址	
第4節 その他の遺構と遺物	168
(1) 竪穴住居址	168
7号住居址 14号住居址	
(2) 掘立柱建物址	168
1号掘立柱建物址 2号掘立柱建物址	
(3) 柱穴遺構	171
(4) 溝状遺構	171
(5) 遺構外出土遺物	171
第4章 総 括	174

引用参考文献

図 版

插图目录

第1图	遗迹位置图	1	第32图	28号住居址出土文物实测图	39
第2图	地形·地质区分图	3	第33图	28号住居址出土土器拓影图	40
第3图	周围遗迹分布图	5	第34图	29号住居址出土文物实测图	40
第4图	土層柱状图	7	第35图	30号住居址实测图	41
第5图	调查范围图	9	第36图	30号住居址出土文物实测图①	42
第6图	遺構全体图	10	第37图	30号住居址出土文物实测图②	43
第7图	3号住居址实测图	16	第38图	30号住居址出土文物实测图③	44
第8图	3号住居址出土土器拓影图	17	第39图	31号住居址实测图	46
第9图	5号住居址实测图	17	第40图	31号住居址出土文物实测图	47
第10图	5号住居址出土文物实测图	18	第41图	31号住居址出土土器拓影图	47
第11图	5号住居址出土土器拓影图	18	第42图	32号住居址出土文物位置图	48
第12图	13号住居址实测图	19	第43图	32号住居址出土文物实测图①	49
第13图	13号住居址出土文物实测图①	20	第44图	32号住居址出土文物实测图②	50
第14图	13号住居址出土文物实测图②	21	第45图	32号住居址出土文物实测图③	51
第15图	13号住居址出土土器拓影图	21	第46图	32号住居址出土文物实测图④	52
第16图	24号住居址实测图	22	第47图	32号住居址出土文物实测图⑤	53
第17图	24号住居址出土文物实测图	23	第48图	32号住居址出土文物实测图⑥	54
第18图	25号住居址出土文物实测图①	24	第49图	32号住居址出土文物实测图⑦	55
第19图	25号住居址实测图	25·26	第50图	32号住居址出土文物实测图⑧	56
第20图	25号住居址出土文物实测图②	27	第51图	32号住居址出土文物实测图⑨	57
第21图	25号住居址出土文物实测图③	28	第52图	33号住居址出土文物实测图①	58
第22图	25号住居址出土文物实测图④	29	第53图	32·33号住居址实测图	59·60
第23图	25号住居址出土土器拓影图	30	第54图	33号住居址出土文物实测图②	61
第24图	25号住居址出土文物实测图⑤	31	第55图	33号住居址出土土器拓影图	62
第25图	27号住居址实测图	33	第56图	34号住居址炉址实测图	62
第26图	27号住居址出土文物实测图①	34	第57图	34号住居址实测图	63
第27图	27号住居址出土文物实测图②	35	第58图	34号住居址出土文物实测图①	64
第28图	27号住居址出土文物实测图③	36	第59图	34号住居址出土文物实测图②	65
第29图	27号住居址出土土器拓影图	37	第60图	34号住居址出土文物实测图③	66
第30图	27号住居址出土文物实测图④	37	第61图	34号住居址出土文物实测图④	67
第31图	28·29号住居址实测图	38	第62图	34号住居址出土文物实测图⑤	68

第63图	35号住居址实测图	69	第97图	特殊遺構出土遺物实测图③	105
第64图	35号住居址出土遺物实测图①	70	第98图	特殊遺構出土遺物实测图④	106
第65图	35号住居址出土遺物实测图②	71	第99图	特殊遺構出土遺物实测图⑤	107
第66图	37号住居址出土遺物实测图①	72	第100图	配石遺構实测图	108
第67图	37·38号住居址实测图	73·74	第101图	配石遺構出土遺物实测图	109
第68图	37号住居址出土遺物实测图②	75	第102图	土坑27出土遺物实测图	110
第69图	37号住居址出土遺物实测图③	76	第103图	4号住居址出土遺物实测图	111
第70图	37号住居址出土遺物实测图④	77	第104图	4号住居址实测图	112
第71图	37号住居址出土遺物实测图⑤	78	第105图	16号住居址土層断面图	113
第72图	37号住居址出土遺物实测图⑥	79	第106图	16号住居址实测图	114
第73图	37号住居址出土土器拓影图	79	第107图	16号住居址出土遺物实测图	115
第74图	37号住居址出土遺物实测图⑦	80	第108图	18号住居址实测图	116
第75图	37号住居址出土遺物实测图⑧	81	第109图	18号住居址出土遺物实测图	117
第76图	37号住居址出土遺物实测图⑨	82	第110图	19号住居址实测图	118
第77图	37号住居址出土遺物实测图⑩	83	第111图	19号住居址出土遺物实测图	119
第78图	40号住居址实测图	84	第112图	23号住居址实测图	120
第79图	40号住居址出土遺物实测图	85·86	第113图	23号住居址出土遺物实测图①	121
第80图	41号住居址出土遺物实测图①	87	第114图	23号住居址出土遺物实测图②	122
第81图	41号住居址出土土器拓影图	88	第115图	1号周溝墓实测图	123
第82图	41号住居址实测图	89	第116图	2号周溝墓实测图	124
第83图	41号住居址出土遺物实测图②	90	第117图	3号周溝墓实测图	126
第84图	土器廃棄場出土有孔肩付土器拓影图	91	第118图	4号周溝墓实测图	127
第85图	土器廃棄場平面图	92	第119图	5号周溝墓实测图	128
第86图	土器廃棄場出土遺物实测图①	93	第120图	6号周溝墓实测图	128
第87图	土器廃棄場出土遺物实测图②	94	第121图	7号周溝墓出土遺物实测图	129
第88图	土器廃棄場出土土器实测图①	95	第122图	7号周溝墓实测图	129
第89图	土器廃棄場出土土器实测图②	96	第123图	8号周溝墓・西溝址实测图	130
第90图	土器廃棄場出土土器实测图③	97	第124图	9号周溝墓实测图	132
第91图	土器廃棄場出土土器实测图④	98	第125图	1号住居址实测图	133
第92图	土器廃棄場出土土器实测图⑤	99	第126图	1号住居址出土遺物实测图	134
第93图	特殊遺構出土土器位置图①	101	第127图	2号住居址实测图	134
第94图	特殊遺構出土土器位置图②	102	第128图	2号住居址出土遺物实测图	134
第95图	特殊遺構出土遺物实测图①	103	第129图	6号住居址焼土範圍图	135
第96图	特殊遺構出土遺物实测图②	104	第130图	6号住居址实测图	136

第131図	6号住居址出土遺物実測図①	137	第150図	20号住居址実測図	155
第132図	6号住居址出土遺物実測図②	138	第151図	20号住居址出土遺物実測図	156
第133図	8号住居址実測図	138	第152図	21号住居址カマド実測図	156
第134図	8号住居址出土遺物実測図	139	第153図	21・22号住居址実測図	157
第135図	9号住居址出土遺物実測図	140	第154図	21号住居址出土遺物実測図	158
第136図	9・10号住居址実測図	141	第155図	22号住居址出土遺物実測図	159
第137図	7・9号住居址土層断面図	142	第156図	26号住居址実測図	160
第138図	10号住居址カマド実測図	142	第157図	26号住居址出土遺物実測図	162
第139図	10号住居址出土遺物実測図	143	第158図	36・39号住居址実測図	163
第140図	11号住居址出土遺物位置図	144	第159図	36号住居址土層断面図	164
第141図	11号住居址実測図	145	第160図	36号住居址カマド実測図	164
第142図	11号住居址出土遺物実測図①	146	第161図	36号住居址出土遺物実測図①	165
第143図	11号住居址出土遺物実測図②	147	第162図	36号住居址出土遺物実測図②	166
第144図	12号住居址実測図	148	第163図	39号住居址出土遺物実測図	167
第145図	12号住居址出土遺物実測図	149	第164図	1・2号竪立柱建物址、柱穴遺構実測図	169・170
第146図	15号住居址実測図	150	第165図	遺構外出土土器拓影図	171
第147図	15号住居址出土遺物実測図	151	第166図	遺構外出土遺物実測図①	172
第148図	17号住居址実測図	153	第167図	遺構外出土遺物実測図②	173
第149図	17号住居址出土遺物実測図	154			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	6
第2表	土器廃棄場出土土器量一覧表	99
第3表	土坑一覧表	177
第4表	縄文時代の遺構出土土器観察表	178
第5表	弥生時代の遺構出土土器観察表	180
第6表	奈良・平安時代の遺構出土土器観察表	181
第7表	土偶観察表	187
第8表	その他の土製品	187
第9表	縄文時代の遺構出土石器観察表	188
第10表	弥生時代の遺構出土石器観察表	190
第11表	弥生時代の遺構出土鉄器観察表	190
第12表	奈良・平安時代の遺構出土鉄製品観察表	191

第13表	出土鉄滓一覽表	191
第14表	遺構外出土石器觀察表	191
第15表	遺構外出土鉄器觀察表	191

図版目次

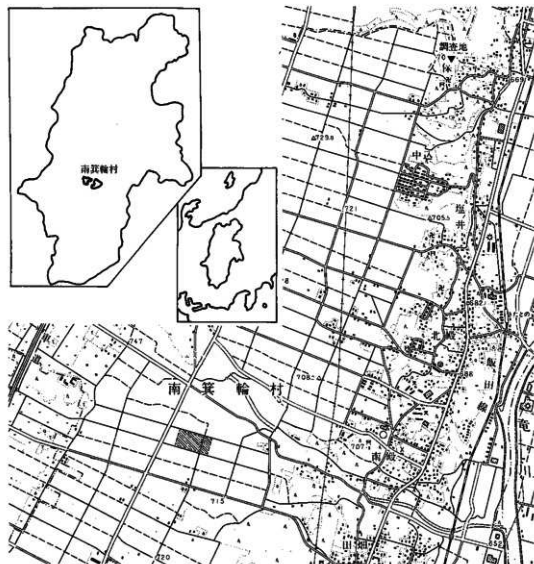
- 図版1 3号住居址 5号住居址 24号住居址 24号住居址炉址
- 図版2 25号住居址 25号住居址土層断面 25号住居址遺物出土状態 25号住居址炉址
- 図版3 27号住居址 27号住居址遺物出土状態 27号住居址土坑14遺物出土状態 28号住居址
28号住居址遺物出土状態
- 図版4 30号住居址 30号住居址炉址 30号住居址遺物出土状態 31号住居址 31号住居址炉址
- 図版5 32・33号住居址 32号住居址炉址 32号住居址遺物出土状態 33号住居址土坑17遺物出
土状態 33号住居址遺物出土状態
- 図版6 34号住居址 34号住居址炉址 34号住居址遺物出土状態
- 図版7 35号住居址 37号住居址 37号住居址遺物出土状態
- 図版8 40・39・36号住居址 40号住居址遺物出土状態 40号住居址土層断面 41号住居址
- 図版9 特殊遺構 特殊遺構遺物出土状態
- 図版10 配石址 4号住居址 4号住居址炉址 4号住居址遺物出土状態
- 図版11 16号住居址 18号住居址 18号住居址炉址
- 図版12 18号住居址遺物出土状態 19号住居址 19号住居址炉址 23号住居址 23号住居址炉址
23号住居址遺物出土状態
- 図版13 1号周溝墓 2号周溝墓 3号周溝墓 4号周溝墓 5号周溝墓 6号周溝墓 7号周
溝墓 9号周溝墓
- 図版14 1号住居址 2号住居址 6号住居址 6号住居址カマド周辺遺物出土状態 6号住居
址遺物出土状態
- 図版15 8号住居址 9号住居址 9号住居址カマド袖部分 9号住居址遺物出土状態
- 図版16 10号住居址 10号住居址カマド 11号住居址 11号住居址カマド 11号住居址遺物出土
状態
- 図版17 12号住居址 15号住居址 15号住居址カマド 15号住居址遺物出土状態
- 図版18 17号住居址 17号住居址カマド 20号住居址 20号住居址カマド 20号住居址遺物出土
状態 21・22号住居址 21号住居址遺物出土状態 21号住居址カマド
- 図版19 21号住居址カマド 26号住居址 26号住居址カマド 36・39号住居址 36号住居址カマ
ド 36号住居址遺物出土状態
- 図版20 36号住居址遺物出土状態 39号住居址カマド 土坑1 土坑1土層断面 掘立柱建物址、
柱穴遺構
- 図版21 13号住居址出土土器 24号住居址炉址埋設土器 25号住居址炉址埋設土器 25号住居址
出土土器

- 図版22 27号住居址出土土器 28号住居址出土土器
- 図版23 30号住居址出土土器 30号住居址炉址埋設土器 32号住居址出土土器
- 図版24 32号住居址出土土器 32号住居址炉址埋設土器
- 図版25 32号住居址出土土器 33号住居址出土土器 33号住居址出土器台 34号住居址出土土器
- 図版26 34号住居址炉址埋設土器 34号住居址出土土器 35号住居址出土土器 37号住居址出土土器
- 図版27 37号住居址出土土器
- 図版28 40号住居址出土土器 41号住居址出土土器 特殊遺構出土土器
- 図版29 特殊遺構出土土器 配石址出土土器
- 図版30 土坑27出土土器 25号住居址出土顔面把手 34号住居址顔面把手 34号住居址出土土偶
土器廃棄場出土土製品 土器廃棄場出土土偶 32号住居址 出土土偶 34号住居址出土土偶
- 図版31 4号住居址炉址埋設土器 4号住居址出土土器 16号住居址出土土器 16号住居址出土土製品 18号住居址炉址埋設土器 18号住居址出土土器 19号住居址炉址埋設土器 23号住居址出土土器 23号住居址炉址埋設土器
- 図版32 1号住居址出土土器 6号住居址出土土器 8号住居址出土土器 8号住居址出土転用硯 9号住居址出土土器 11号住居址出土土器 11号住居址出土陶器
- 図版33 11号住居址出土陶器 11号住居址出土土器 12号住居址出土土器
- 図版34 15号住居址出土土器 15号住居址出土陶器
- 図版35 17号住居址出土土器 20号住居址出土土器 21号住居址出土土器 22号住居址出土土器
- 図版36 26号住居址出土土器 36号住居址出土陶器 36号住居址出土土器
- 図版37 5号住居址出土石器 13号住居址出土石器 24号住居址出土石器 25号住居址出土石器
27号住居址出土石器 28号住居址出土石器 30号住居址出土石器 32号住居址出土石器
- 図版38 32号住居址出土石器 33号住居址出土石器 34号住居址出土石器 35号住居址出土石器
37号住居址出土石器 41号住居址出土石器
- 図版39 土器廃棄場出土石器 27号住居址出土石鏃 29号住居址出土石鏃 41号住居址出土石鏃
土器廃棄場出土石鏃 23号住居址出土不定形石器 34号住居址 出土石鏃 土器廃棄場出土 石鏃 土器廃棄場出土不定形石器 16号住居址出土石器 18号住居址出土石器
19号住居址出土石鏃 23号住居址出土石器
- 図版40 12号住居址出土鉄製品 36号住居址出土鉄製品 39号住居址出土鉄製品 調査地内出土鉄滓 遺構外出土鉄製品 11号住居址出土鉄製品 6号住居址 出土鉄製品 20号住居址出土鉄製品 19号住居址出土鉄製品 7号周溝墓出土鉄製品

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置

久保上ノ平遺跡は南アルプスと中央アルプスにはさまれた伊那谷北部の天竜川右岸の段丘の突端、標高702.0mにあり、南箕輪村1164番地1他7筆(久保上ノ平)で、村の北端の集落のすぐ西に位置している。段丘上段から2段目の比較的狭い段丘面で、段丘の西は切り開かれた田畑が山麓まで続き、東は集落に続き水田が広がり、北には北沢川が流れている。遺跡からは眼下に天竜川



第1図 遺跡位置図

1:25,000

により形成された沖積地に広がる水田地帯と、南アルプスの山麓を一望することができ、景観のたいへん良いところである。

第2節 自然環境

南箕輪村は長野県伊那盆地北部の広く開けた地域の天竜川右岸に位置している。地形的にみると西に位置する木曾山脈経ヶ岳山地群に属する経ヶ岳南東部の飛地を除いては、その麓を扇頂とする扇状地と天竜川により形成された沖積地からなっている。

扇状地は一部天竜川、小沢川の複合扇状地になっているが、ほとんどが大泉川により形成されたものである。山麓から段丘突端部までの幅は最大で約4.5km、標高は700mから900mに及び、東へ約2度のゆるやかな傾斜地となっている。古くは山林や原野だったが、現在では広大な農耕地域となっている。

扇状地扇端部は、雛壇状に段丘が形成されている。また、扇状地特有の湧水からなる小河川の侵食により形成された沢が10箇所みられる。

天竜川沿いに続く段丘は最大で標高差約40mを測り、一部には断層の影響を観察できるところがあるため、その地形形成は大泉川や天竜川等、河川の流出や侵食だけではないことが推定される。

自然水系としては西の山地より流れる大泉川・大清水川・戸谷川のほか、前述した段丘崖を源流とする北沢川・南沢川・滝ノ沢川等の小河川が天竜川に流れ込んでいる。

西の山麓から流れ出る河川は扇状地扇央部では伏流し水量は激減するが、扇端部付近で再び湧出する。また、扇端部には多くの湧水がみられる。この湧水は水量及び水温が比較的安定しているので、現在ではそれを利用したワサビ栽培が行われている。

これら扇端部からの湧水量と水質は、昭和3年に扇状地を横切る形でつくられた灌漑用水幹線水路の西天竜水路の完成とそれにとりもなう大規模な開田により変化したといわれる。

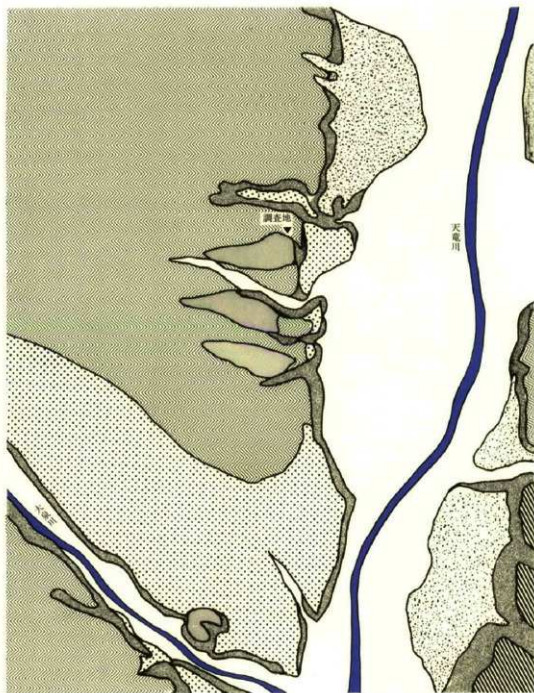
沖積地は昭和27年から29年にかけて実施された土地改良事業により水田地帯となったが、それ以前は天竜川により形成された自然堤防による後背湿地と扇状地扇端部からの湧水により、幾つもの沼が点在する大湿地帯であった。近年この地域は宅地化がすすんでいる。

第3節 歴史的環境

南箕輪村には現在確認されているもので49の遺跡があるが、そのほとんどは扇状地を東流する大泉川・戸谷川・大清水川の両岸と、扇状地扇端部の天竜川右岸段丘上に位置している。

他に天竜川沖積地に箕輪遺跡があり、北隣の箕輪町と地続きで大遺跡の一角を占めている。

これらの中でも著名なものは「神子柴遺跡」である。神子柴区大清水地籍に位置する同遺跡は



凡 例

1 : 25,000



忠孝面
中期段丘面
中期段丘面
供段丘面目



供段丘面目
供段丘面目
供段丘面目

第2図 地形・地質区分図

昭和33年に発見され、神子柴型石器一括（重要文化財指定）の検出をみた。

縄文時代ではこれまでに天伯遺跡・大芝東遺跡・北高根A遺跡・高根遺跡・南高根遺跡などの調査で遺構、遺物が確認されている。これらの調査では早期・前期の遺構は確認されていないが、神子柴遺跡の第3次調査で押型文土器の破片が出土している。また、大芝東遺跡・南高根遺跡・北高根A遺跡においても早期から前期にかけての土器片が出土している。住居址は天伯遺跡・大芝東遺跡・北高根A遺跡で確認されている。これらは前期末から後期にかけてのもので、量的には中期の遺構・遺物が多い。晩期では遺構の確認はないが、神子柴遺跡・南高根遺跡で土器片が出土している。

弥生時代では本村での遺跡の検出数は少なく、天伯遺跡・北高根A遺跡・北垣外遺跡でわずかにみられる。北垣外遺跡から中期の住居址が検出されているが、それはわずかでほとんどは後期にあたるものである。また、沖積地の箕輪遺跡からは水田の検出はできなかったものの、土器・打製石斧・石鏃等の遺物が出土している。

古墳時代では、子持勾玉と直刀が出土した丸山古墳が造られているほか、北垣外遺跡より扁円筒形土製品が出土し、古墳時代屋内祭祀関連の資料の追加をみた。また、天伯遺跡においては多くの住居址が検出され、そのなかから脚部を欠いてはいるが須恵器高台付壺や五鈴鏡など注目すべき遺物が出土している。

なお、発掘調査によるものではないが、宮ノ上遺跡より初期土師器高台付壺や五鈴鏡など注目すべき遺物が出土している。

奈良・平安時代をみると、集落はさらに各河川の河岸段丘周辺でも西の山麓付近にまで広がるようになる。古代東山道との関連も含め、今後の検討課題の一つである。

また、宮の上遺跡からは平安時代中期の火葬焼骨が埋葬された、しっかりとした石組みによる墳墓がほぼ完全な形で出土している。焼骨を埋納してあった灰釉陶器短頸壺は完形で出土し、村指定文化財となっている。

中世には天竜川右岸の段丘縁辺にその地形を利用して、棚木城・中込城・倉田城・有賀城・内城などの城館が築かれている。



- ①久保上ノ平 ②久保下 ③南垣外 ④天王原 ⑤向垣外 ⑥箕輪 ⑦山の神 ⑧内城 ⑨天伯 ⑩塩ノ井 ⑪上人塚 ⑫垣外 ⑬東垣外 ⑭大泉 ⑮栗宮 ⑯北垣外 ⑰西垣外 ⑱荻河原 ⑲秋葉神社 ⑳宮ノ上 ㉑羽場 ㉒田畑 ㉓神子榮

第3図 周開遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	地 籍	時 代						備 考
			旧石	縄文	弥生	古墳	平安	中世	
1	久保上ノ平	久 保		○	○	○	○		
2	久 保 下	久 保				○			
3	南 垣 外	久 保		○	○				
4	天 王 原	久 保					○		
5	向 垣 原	塩ノ井		○	○	○	○		
6	箕 輪	塩ノ井・久保 木下・三日町		○	○	○	○	○	昭和57年～平成6年度調査
7	山 の 神	塩ノ井		○	○				
8	内 城	北 殿		○		○			
9	天 伯	塩ノ井		○	○	○	○		昭和42年度調査
10	塩ノ井	塩ノ井			○				平成6年度調査
11	上 人 塚	塩ノ井		○			○		
12	垣 外	塩ノ井		○					
13	東 垣 外	北 殿			○	○			
14	大 泉	大 泉			○	○	○		
15	柴 宮	北 殿		○					
16	北 垣 外	北 殿			○	○	○		平成2年度調査
17	西 垣 外	北 殿		○	○		○		
18	荻 河 原	大 泉		○					
19	秋葉神社	北 殿		○	○				
20	宮ノ上	南 殿		○		○			平成元年度調査
21	羽 場	田 畑		○					
22	田 畑	田 畑		○					
23	神 子 柴	神子柴	○	○			○		昭和33年度調査

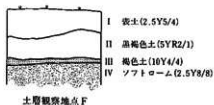
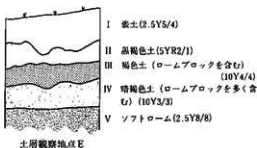
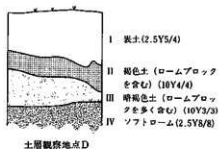
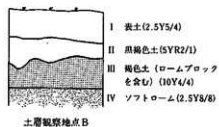
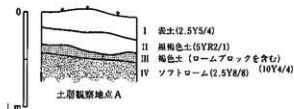
第4節 基本層序

久保上ノ平遺跡は西から東方向に傾斜している段丘面に位置している。調査地は長期間にわたる耕地として活用されており、土層堆積状態も場所により大きく異なっている。

基本層序を示すと思われるものはA地区土層観察地点Eに見られる。Ⅰ層が表土または耕土、Ⅱ層が黒褐色土、Ⅲ層が褐色土、Ⅳ層が暗褐色土、Ⅴ層がソフトローム層となる。

ソフトローム層から上の土層をみたとき、もっとも土壌の堆積がみられるのは調査地の中央部から西側にかけての一部である。このことから調査地では、北方向から南方向にかけて基盤層がなだらかにくぼんだ谷状となっていることが考えられる。

調査地東側の土層観察地点C・GではⅠ層の下層部とⅡ層の上層部に黒褐色土が斑状に含まれる部分がみられることから、耕地の造成及び耕作による攪乱が認められる（第4図・第6図参照）。



第 4 図 土層柱状図

第2章 調査の経緯

第1節 調査の契機と経過

天竜川右岸の段丘上に位置する遺跡は、天伯遺跡や北垣外遺跡にみられるように縄文時代から平安時代にかけての集落が分布しているが、大泉川・戸谷川などの天竜川支流の河岸段丘沿いに位置する遺跡と比較すると密度は非常に高い。

平成7年度に南箕輪村で墓地公園の造成を久保区の字上ノ平地郷において計画したため、村教育委員会は造成予定地が天竜川右岸段丘上に位置し、過去に大規模な圃場整備が行われていない、ほぼ自然の地形をとどめていることから、遺跡が埋蔵されていることを想定してトレンチによる試掘調査を平成6年12月に実施した。

調査の結果、平安時代の住居址数軒とこれに伴う遺物を確認したほか、縄文土器・石器等の遺物を採取した。

これらの結果をもとに、翌年の平成7年4月より墓地公園駐車場部分を除く約1,000㎡の発掘調査を行った。

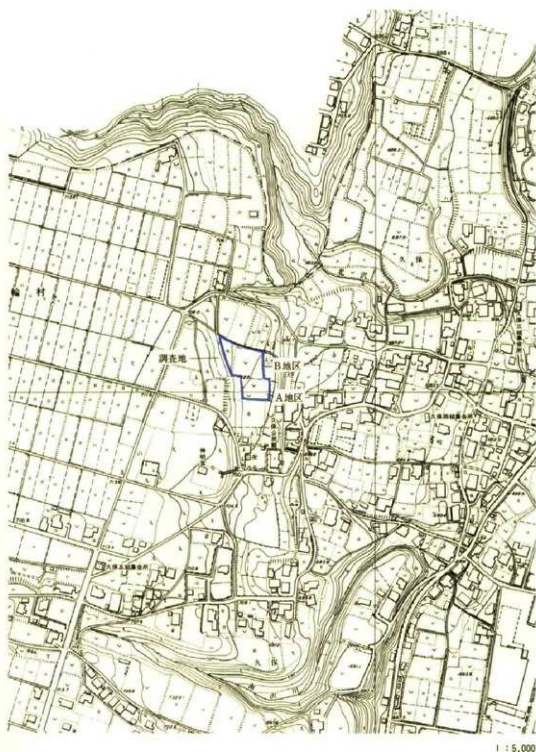
この調査期間中に隣接する周知の遺跡において、南箕輪村土地開発公社による宅地造成計画が具体化したため、墓地公園予定地の調査に引き続き約3,000㎡の発掘調査を実施することとなった。

宅地造成予定地内の遺構の広がりを確認するため、墓地公園予定地に接していない約1,000㎡をグリットによる試掘調査を実施した結果、遺構が認められなかったため、宅地造成予定地の調査面積は2,000㎡とした。

これにより調査を円滑にすすめるために墓地公園予定地をA地区、宅地造成予定地をB地区とし、各区ごとにグリットを設定した。グリットは2m×2mとし、南東端南側から東西列をA～Yのアルファベット、南東端東側より南北列を算用数字で表した(第6図参照)。

B地区の調査は、A地区の断面調査で確認した遺構の包含層上面まで重機で掘削し、弥生～平安時代の遺構の上面確認・検出と並行して、トレンチによる縄文時代の遺構の確認と検出を行った。

調査期間は、A地区の調査を4月6日から5月26日まで行い、B地区の調査は5月31日から9月20日まで行った。



第5図 調査範囲図

調査日誌

平成6年12月

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 12月1日 | 調査地の草刈りを行う。 | 12月14日 | トレンチ4・5・6で住居址を確認する。続いてトレンチの上面確認を行う。 |
| 12月5日 | 8本のトレンチの設定をする。 | 12月15日 | トレンチ2・5で住居址を確認する。続いてトレンチの分層を行う。 |
| 12月9日 | テント・機材の搬入を行う。 | 12月19日 | トレンチの分層と記録を行う。 |
| 12月12日 | 重機によりトレンチを掘削。続いて上面確認を行う。
掘削土中より土師器・縄文土器片が出土。 | 12月20日 | トレンチの分層と記録を行う。本日で試掘を終了する。 |
| 12月13日 | トレンチの上面確認を行う。午前中に雨が降り始めたため作業を中止する。 | 12月26日 | 県教育委員会文化課指導主事、村保健福祉課長、村教育委員会教育長及び担当者で現場の視察を行う。 |

平成7年4月

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------------------|
| 4月6日 | 重機による表土剥ぎと上面確認を行う。住居址3軒を確認。 | 4月17日 | 上面確認と並行して4号・8号・10号住居址の検出にはいる。 |
| 4月7日 | グリットの設定と上面確認を行う。住居址3軒を確認。 | 4月18日 | ほぼ上面確認を終了する。1号・3号・6号住居址の検出にはいる。 |
| 4月10日 | 上面確認を行う。住居址3軒を確認。 | 4月19日 | 雨天のため作業中止。 |
| 4月11日 | 上面確認と並行して南側壁面の調整及び分層を行う。 | 4月20日 | 9号住居址の検出にはいる。 |
| 4月12日 | 雨天のため作業中止。 | 4月21日 | 2号・5号住居址の検出にはいる。 |
| 4月13日 | 上面確認を行う。住居址1軒と柱穴群を確認。 | 4月24日 | 6号住居址の検出にはいる。 |
| 4月14日 | 上面確認を行うが、午後になり雨天のため作業中止。 | 4月25日 | 雨天のため作業中止。 |
| | | 4月26日 | 各遺構の検出を行う。 |
| | | 4月27日 | 各遺構の検出及び記録を行う。 |
| | | 4月28日 | 各遺構の検出及び記録を行う。 |
| | | 4月30日 | 現地説明会を行う。 |

平成7年5月

- | | | | |
|------|------------|------|-----------------|
| 5月1日 | 雨天のため作業中止。 | 5月8日 | 各遺構の検出と記録。 |
| 5月2日 | 雨天のため作業中止。 | 5月9日 | 各遺構の検出と記録。周溝墓を2 |

基確認する。

5月10日 周溝墓と柱穴群の検出にはいる。

5月11日 各遺構の検出と記録を行う。

5月12日 各遺構の検出と記録を行う。午後
は天候不順のため作業中止。

5月15日 雨天のため作業中止。

5月16日 雨天のため作業中止。

5月17日 一日中、天候不順であったが調査
を行う。

5月18日 住居址の検出をほぼ終了。記録を
行う。

5月19日 あらたに周溝墓1基を確認。検出
にはいる。

5月22日 雨天のため作業中止。

平成7年6月

6月1日 重機での表土剥ぎと上面確認を行
う。A地区で確認した周溝墓のつ
づきと、あらたに2基の周溝墓を
確認する。

6月2日 重機による表土剥ぎと上面確認を
行う。周溝墓2基と住居址4軒を
確認する。

6月5日 重機による表土剥ぎと上面確認を
行う。調査地北西部で多量の縄文
土器片が出土する。

6月6日 重機による表土剥ぎと上面確認を
行う。

6月7日 重機による表土剥ぎと上面確認を
行う。

6月8日 上面確認を行う。午後にグリット
の設定をして、上面確認で出土し
た遺物の取り上げを行う。

6月9日 雨天のため作業中止。

5月23日 遺構の記録を行う。

5月24日 遺構及び調査地北側の土層断面を
記録する。

5月25日 遺構の記録を行う。

5月26日 遺構造の記録と調査地の片付けを
行い、検出遺構の全景写真を撮っ
て調査を終了する。午後北に隣
接する宅地造成予定地西側の試掘
を行う。

5月30日 宅地造成予定地をB地区とし、畑
地の表面採集を行う。縄文土器片
の他、各種陶磁器片を採取する。

5月31日 重機によりB地区畑地部分の表土
剥ぎと上面確認を行う。

6月12日 上面確認を行う。住居址2軒を確
認する。

6月13日 雨天のため作業中止。

6月14日 上面確認を行う。住居址2軒と柱
穴を確認する。

6月15日 上面確認と並行してトレンチを4
本設定し、うち3本を掘削する。
13号住居址の一部で床面を確認す
る。

6月16日 トレンチの掘削。黒土層中で住居
址を1軒確認する。

6月19日 トレンチをあらたに4本設定して
掘削する。縄文土器が集中して出
土した部分の写真撮影をする。

6月20日 トレンチの掘削。ロームマウンド
を確認する。17号住居址の検出に
はいる。

6月21日 トレンチの掘削。住居址1軒を確認

- する。また、規則的な配列がされた縄文土器2個体が2箇所出土する。
- 6月22日 トレンチの掘削。配列がされた縄文土器からほど近いところで底が打ち抜かれた台付浅鉢型土器が出土する。
- 6月23日 雨天のため作業中止。
- 6月26日 トレンチの掘削。あらたに周溝墓1基を確認する。天候不順のため午前中で作業を中止する。
- 6月27日 周溝墓の上面確認と住居址の検出にはいる。
- 6月28日 遺構の検出を行う。11号住居址は火災家屋であることがわかる。
- 6月29日 遺構の検出を行う。住居址の土層断面の記録をとる。
- 6月30日 遺構の検出を行う。土器の配列された遺構の調査を行う。

平成7年7月

- 7月3日 雨天のため作業中止。
- 7月4日 雨天のため作業中止。
- 7月5日 雨天のため作業中止。
- 7月6日 雨天のため作業中止。
- 7月7日 連日の雨天により遺構の検出は中止する。トレンチ掘削時の排土を移動する。
- 7月10日 各遺構の検出と記録を行う。トレンチの分層と記録をする。
雨により住居址内に流れこんだ泥を取り除く作業をする。
- 7月11日 各遺構の検出と記録を行う。
- 7月12日 雨天のため作業中止。
- 7月13日 各遺構の検出と記録を行う。
- 7月14日 雨天のため作業中止。
- 7月17日 雨天のため作業中止。
- 7月18日 各遺構の検出と記録を行う。午前中に小学校で見学。
- 7月19日 各遺構の検出と記録を行う。午後村理事者視察。
- 7月20日 雨天のため作業中止。
- 7月21日 雨天のため作業中止。
- 7月24日 各遺構の検出と記録を行う。遺物の取り上げをはじめる。
- 7月25日 各遺構の検出と記録を行う。
- 7月26日 各遺構の検出と記録を行う。12号住居址南であらたに2軒の住居址を確認。
- 7月27日 各遺構の検出と記録を行う。
- 7月28日 一時雨天となるが、作業をつづける。
- 7月29日 各遺構の検出と記録を行う。

平成7年8月

- 8月1日 各遺構の検出と記録を行う。
- 8月2日 各遺構の検出と記録を行う。8号周溝墓上面確認。
- 8月3日 各遺構の検出と記録を行う。午前中に伊那北高校歴史部見学。
- 8月4日 各遺構の検出と記録を行う。

- | | | | |
|-------|--|-------|---------------------------------------|
| 8月7日 | 各遺構の検出と記録を行う。調査地北側でトレンチにより縄文の住居址1軒を確認する。 | 8月18日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| 8月8日 | 各遺構の検出と記録を行う。昨日のトレンチの拡張をする。 | 8月21日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| 8月9日 | 各遺構の検出と記録を行う。トレンチの拡張を引き続き行う。住居址2軒をあらたに確認する。 | 8月22日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| 8月10日 | 各遺構の検出と記録を行う。午後、雨天のため作業中止。 | 8月23日 | 各遺構の検出と記録を行う。トレンチによる遺構の確認を終了し、検出にはいる。 |
| 8月11日 | 各遺構の検出と記録を行う。トレンチによりあらたに確認した住居址は7軒となる。特殊遺構より人の手をかたどった土器片が出土する。 | 8月24日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| 8月17日 | 各遺構の検出と記録を行う。県立歴史館主事の三上氏、調査指導のため視察。 | 8月25日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| | | 8月26日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| | | 8月27日 | 各遺構の検出と記録を行う。B地区の遺物を郷土館へ搬入する。 |
| | | 8月28日 | 各遺構の検出と記録を行う。特殊遺構の配列された土器の取り上げ。 |
| | | 8月29日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| | | 8月30日 | 各遺構の検出と記録を行う。 |
| | | 8月31日 | 雨天のため作業中止。 |

平成7年9月

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 9月1日 | 各遺構の検出と記録を行う。 | 9月13日 | 各遺構の検出と記録を行う。38号住居址を確認する。 |
| 9月2日 | 各遺構の検出と記録を行う。 | 9月15日 | 雨天のため作業中止。 |
| 9月4日 | 各遺構の検出と記録を行う。 | 9月16日 | 雨天のため作業中止。 |
| 9月5日 | 各遺構の検出と記録を行う。 | 9月18日 | 各遺構の検出と記録を行う。39・40・41号住居址を確認する。 |
| 9月6日 | 各遺構の検出と記録を行う。 | 9月19日 | 各遺構の検出と記録を行う。40号住居址より人体文のみられる有孔銅付土器が出土する。 |
| 9月7日 | 各遺構の検出と記録を行う。 | 9月20日 | 各遺構の検出と記録を行う。本日で作業終了のため片付けを行う。 |
| 9月8日 | 各遺構の検出と記録を行う。7号周溝墓南より36号住居址を確認する。 | 9月21日 | 調査地B地区の航空撮影を行う。 |
| 9月9日 | 各遺構の検出と記録を行う。明治大学戸沢教授、村教育委員会関係者他、遺跡を視察。 | | |
| 9月11日 | 各遺構の検出と記録を行う。 | | |
| 9月12日 | 各遺構の検出と記録を行う。37号住居址を確認する。 | | |

第2節 調査の体制

○試掘調査 調査担当者 友松 諭（南箕輪村教育委員会社会教育係学芸員）

調査補助員 唐澤孝男（南箕輪村教育委員会社会教育係主査）

調査作業員（五十音順）

伊藤亮平 小澤よね子 春日 正 唐澤容子 山田武志

○発掘調査 調査団長 杉澤 崇（南箕輪村教育委員会教育長）

調査担当者 友松 諭（南箕輪村教育委員会社会教育係学芸員）

調査員 福沢幸一

調査作業員（五十音順）

有賀 悟 飯塚美喜子 五十嵐正子 池上今朝人 伊藤 忍

伊藤順子 伊藤亮平 宇治由一 太田祥二 小澤よね子

工藤 洋 工藤 学 倉田しげ子 倉田睦子 桑澤正典 小松孝臣

清水よし子 城倉三成 征矢謙吾 征矢志づ子 田中真人

中坪ひとみ 馬場啓司 原 公夫 原 春子 平澤克久 福澤京子

福村恵美子 藤澤のり子 伯耆原 正 堀 五百治 堀 千恵子

本田秀明 松澤英太郎 山田武志

○事務局（平成8年度）

杉澤 崇（南箕輪村教育委員会教育長）

唐澤 隼 男（南箕輪村教育委員会教育次長）

唐澤 由 江（南箕輪村教育委員会社会教育係長）

唐澤 孝 男（南箕輪村教育委員会社会教育係主査）

有賀 秀 樹（南箕輪村教育委員会公民館主事）

松澤英太郎（南箕輪村社会教育指導員）

第3章 調査結果

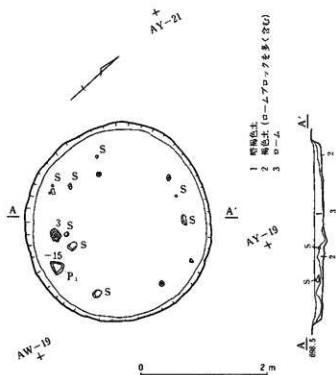
第1節 縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居址

3号住居址 (第7図)

A地区で検出した。長軸3.1m、短軸2.9mの不整楕円形を呈する。壁残高は15cm～12cmである。周溝、炉址は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ叩き締められているが、貼り床は全体的に軟弱である。ビットは1基検出したのみで他には検出できなかった。このビットが主柱穴になるのかは判然としない。

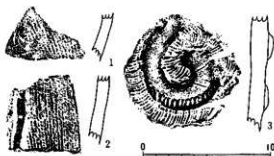
遺物は少なく、覆土中層より縄文土器片 (図8-1～3) が数点出土しているのみである。よって本址の時期は判然としないが、縄文時代中期中葉であることが考えられる。



第7図 3号住居址実測図

5号住居址 (第9図)

A地区で検出した。住居址の約3分の2程は調査区外になるため全容は不明であるが、不整楕円形を呈すると思われる。壁残高は15cm～6cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム

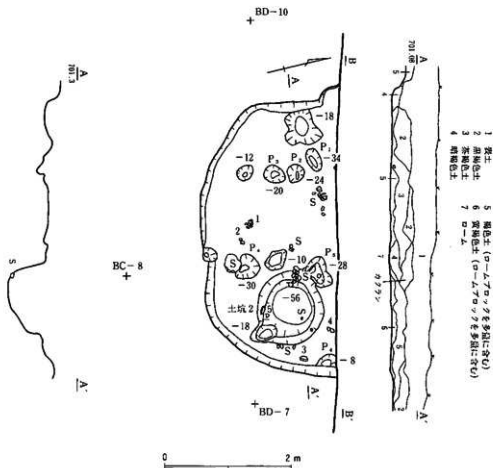


第8図 3号住居址出土土器拓影図

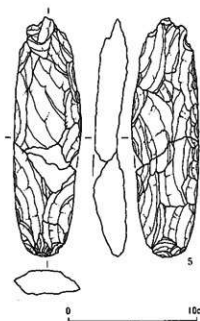
側の比較的張床の良好な部分の床下に長軸112cm、短軸108cm、深さ56cmの土坑2があり、この覆土中層から拳大の黒曜石が出土している。

炉址は調査区内からは検出できなかった。遺物は土器片（図11-1～4）が覆土中層及び床面直上より出土しているが、数は少ない。他に打製石斧（図10-5）が出土している。

本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期後葉であると思われる。



第9図 5号住居址実測図



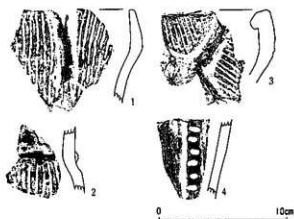
第10図 5号住居址出土遺物実測図

ム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。東側に張り出し部分がみられるが、床面とのレベルがほぼ同一であることから本址に伴うものと思われる。ピットは11基検出した。本址には炉址が2基認められることから、主柱穴には新旧関係のあることが考えられ、位置的にみて、 $P_1 \sim P_8$ が旧柱穴であると思われる。新しい主柱穴は $P_9 \sim P_{11}$ と思われるが、旧柱穴を再利用していることが考えられる。このうち P_9 と P_8 は底部に貼り床を有する。

炉址は2基検出した。炉址1は長軸78cm、短軸69cmの不整楕円形で、深さ15cmに掘りくぼめた地床炉である。内部には焼土が認められる。炉址2は住居址中央よりやや北側に位置し、長軸111cm、短軸78cmの不整楕円形で深さ14cmに掘りくぼめた石囲炉と思われる。内部には焼土が認められ、炉石が抜き取られた跡がみられる。この2つの炉址はほぼ同一のレベルにある。ピットの位置及び2つの炉址等から、この住居址は拡張または重複していることが考えられる。

遺物は炉址2の周囲から深鉢型土器(図13-1・2)、覆土上層及び中層より土器片(図15-1~15)が出土したほか、覆土中層より石斧(図13-3~5)、また、 P_1 より石斧(図14-8)、 P_{11} より石斧(図13-3、図14-7)の石器が出土している。

本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉から後葉にかけてのものであると思われる。

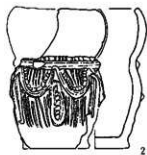
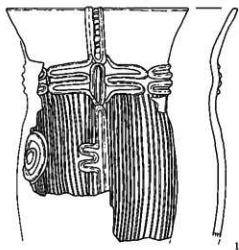


第11図 5号住居址出土土器拓影図

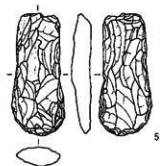
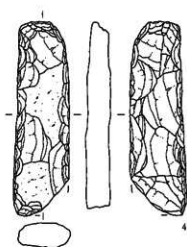
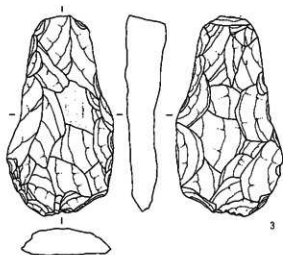
13号住居址 (第12図)

B区で検出した。長軸6.6m、短軸5.58mの不整楕円形を呈する。主軸はN-4°-Eを示す。壁残高は33cm

~13cmである。周溝は検出できなかった。床面はロー

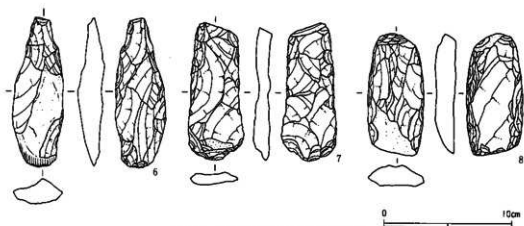


0 10cm

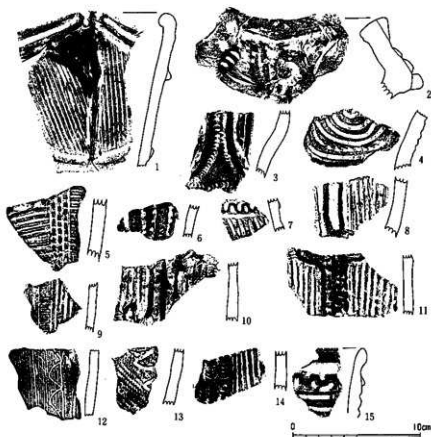


0 10cm

第13图 13号住居址出土遺物実測図①



第14図 13号住居址出土遺物実測図②



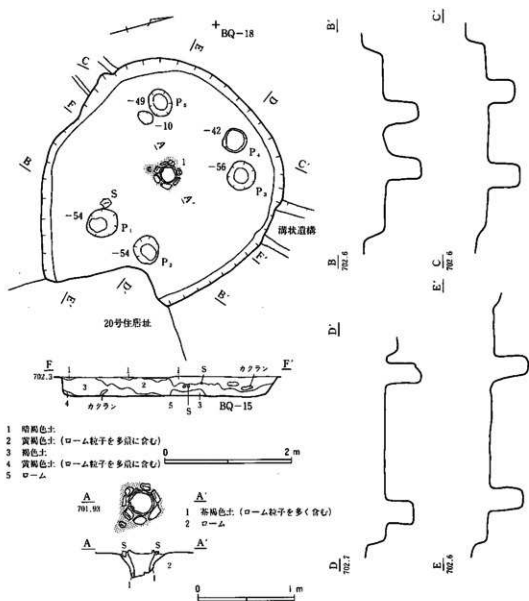
第15図 13号住居址出土土器拓影図

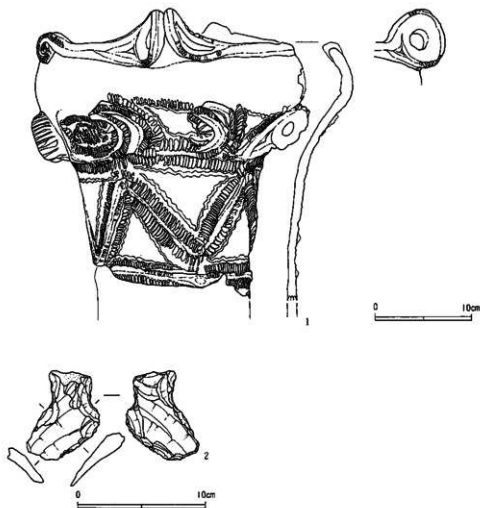
24号住居址 (第16図)

B地区で検出した。溝状遺構に南北の壁の一部と、20号住居址に東側壁と床面の一部を破壊されている。長軸4.2m、短軸3.5mの不整楕円形を呈する。主軸はN-41°-Wを示す。壁残高は36.5

cm~27cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ビットは5基検出したが、これらが主柱穴と思われる。炉址は炉石を有する石囲土器埋設炉で、住居址中央よりやや北側に位置しており、底部を欠いた深鉢型土器(図17-1)を埋設している。焼土は炉石の周囲にみられ、埋設土器内部の覆土には認められない。

遺物は少なく、覆土中層より石匙(図17-2)が出土しているのみである。本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。





第17図 24号住居址出土遺物実測図

25号住居址（第19図）

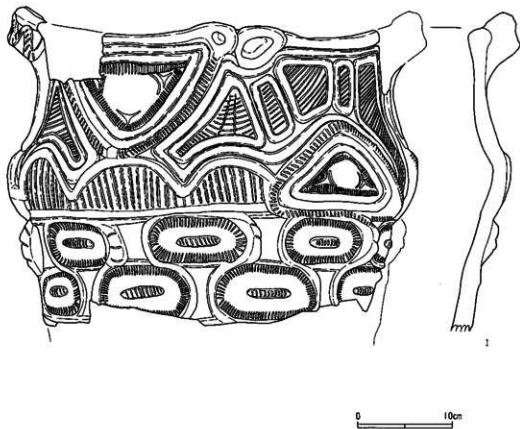
B地区で検出した。26号住居址及び土坑12に北側壁の一部、27号住居址に南西側壁の一部、31号住居址に南側壁の一部をそれぞれ破壊されている。長軸7.5m、短軸6.8mの不整楕円形を呈する。主軸はN-37°-Wを示す。壁残高は34cm~14cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。

ピットは19基検出した。主柱穴は $P_1 \sim P_{11}$ と思われ、 P_1 と P_9 を結ぶ線を軸として左右に4箇所の配置になると考えられる。 P_7 は P_9 との関連が考えられる。また、 $P_{12} \sim P_{14} \cdot P_{16}$ の位置から本址は拡張された可能性が考えられる。 $P_{18} \cdot P_{19}$ は位置的にみて31号住居址に伴うものであると思われる。 $P_1 \cdot P_{11} \cdot P_{13} \cdot P_{17}$ は断面形が袋状となっている。

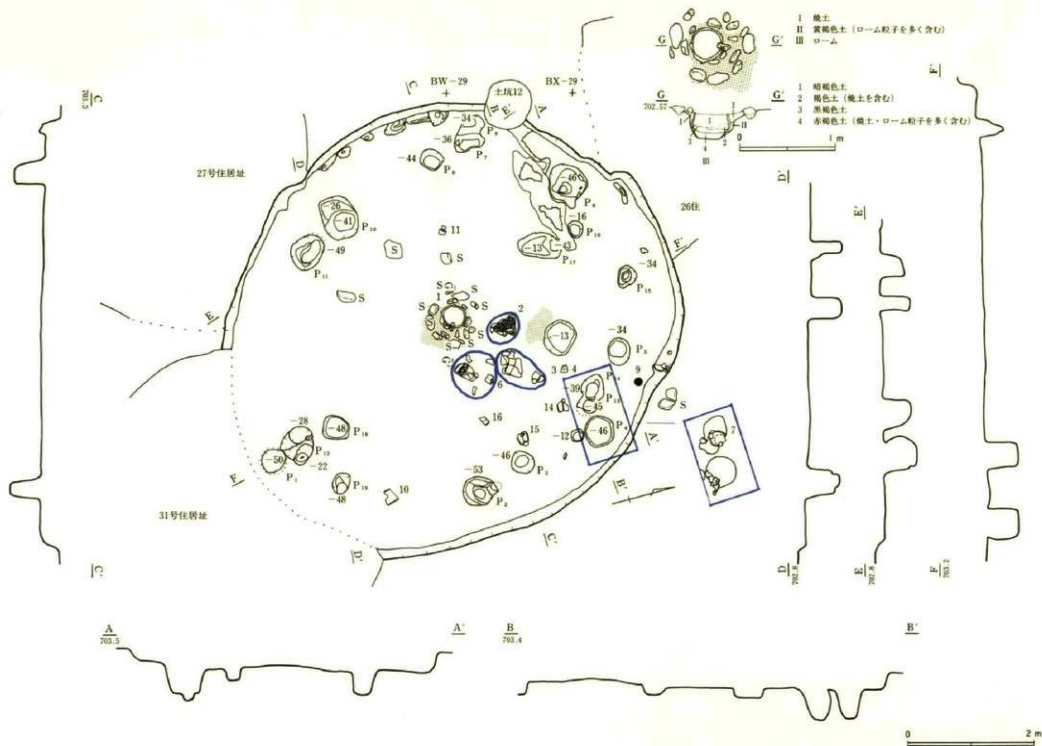
炉址は炉石を有する石囲土器埋設炉で、住居址のほぼ中央に位置する。埋設土器の内部は下層及び中層に焼土が認められ、その間には黒褐色土が堆積している。炉址の周囲及び、炉址北東側

の床面にも焼土が認められる。埋設土器は下部分を打ち欠いた深鉢型土器(図18-1)を埋設している。遺物は炉址周囲の床面直上より深鉢型土器(図20-2・3、図21-6・7)、覆土中層及び下層より深鉢型土器(図22-9)、有孔罎付土器片(図22-10)、土器片(図22-11~13、図23-1~9)、覆土中層より石器(図24-15~20)、北側壁付近の覆土中層より顔面把手付土器の把手部分(図22-14)が出土している。

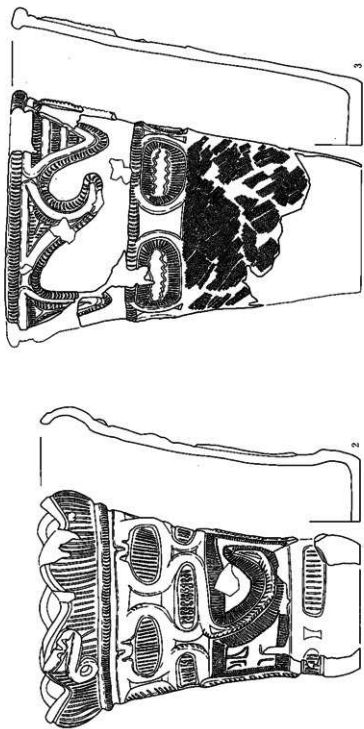
本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。



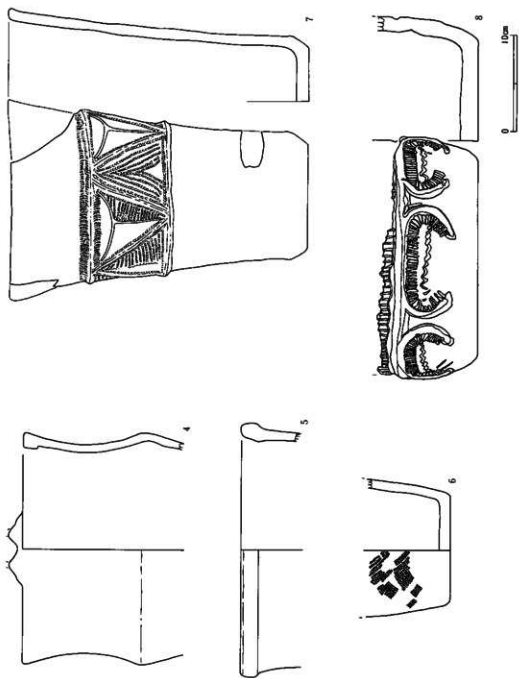
第18図 25号住居址出土遺物実測図①



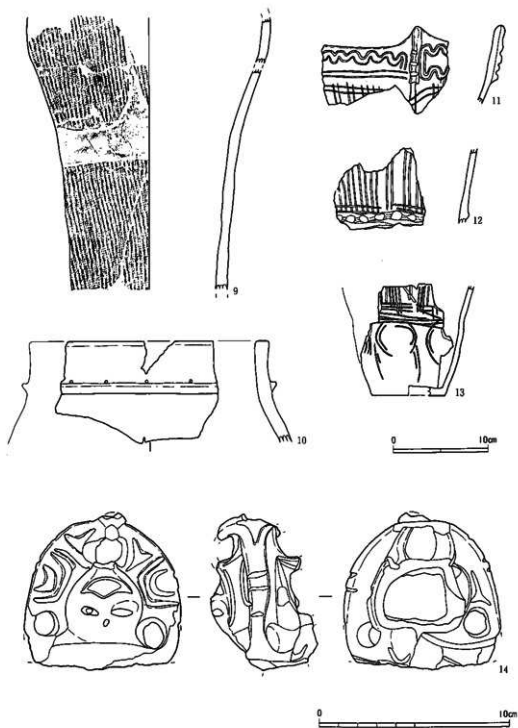
第19図 25号住居実測図



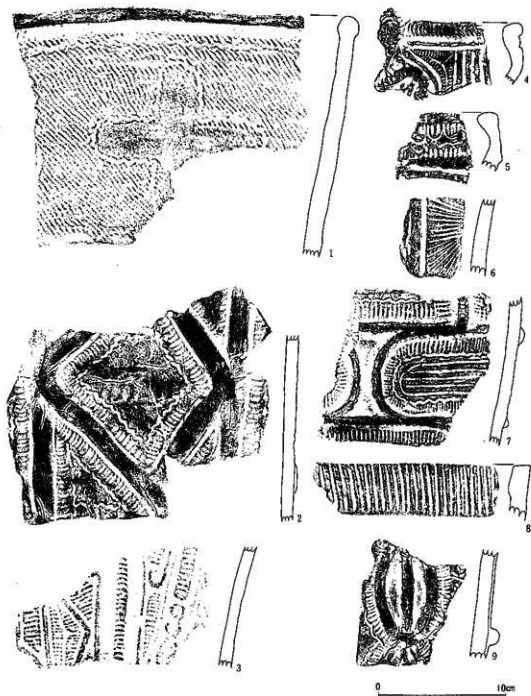
第20圖 25号住居址出土遺物実測図②



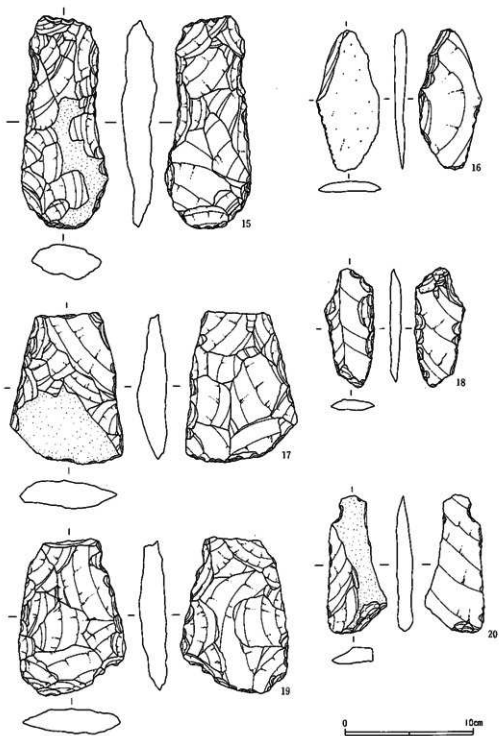
第21图 25号住居址出土器物实测图③



第22图 25号住居址出土遺物実測図④



第23图 25号住居址出土土器拓影图



第24図 25号住居址出土遺物実測図⑤

27号住居址（第25図）

B地区で検出した。25号住居址の南西側の壁の一部を破壊している。発掘中に東側壁を掘削してしまったためプランははっきりしないが、長軸5.0mの不整楕円形を呈すると思われる。主軸はN-51°-Wを示す。壁残高は18cm-11cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、強く叩き締められており東側の一部を除き締まりは全体的に良好である。ピットは5基検出したが、主柱穴はP₁~P₄であると思われる。P₃、P₄は断面形が袋状となっている。住居址北側にある土坑14の内部には正位に置かれた深鉢型土器がみられた。

炉址は地床炉で、住居址中央よりやや北西よりのP₃とP₄の間に位置している。長軸68cm、短軸51cm、深さ14cmの不整楕円形に掘りくぼめている。炉址内部及び周囲に焼土はみられない。炉址の縁辺には4個の石がみられるが、火熱を受けた跡が認められず、炉址に伴うものか判然としない。

遺物は炉址周囲の床面直上より深鉢型土器（図26-4・5、図28-11）、及び浅鉢型土器（図27-8・9）、土坑14より深鉢型土器（図26-1）、床面直上より石鏃（図30-14）、覆土中層より石匙（図30-12）、石斧（図30-13）等が出土している。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

28号住居址（第31図）

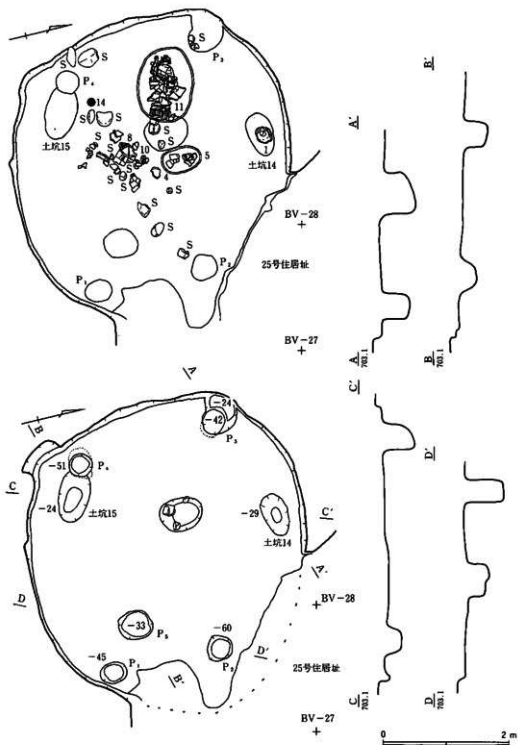
B地区で検出した。29号住居址を破壊している。また、囲溝址に南側壁の一部を破壊されている。住居址の2分の1程は調査区外に入るためプランは判然としないが、南北方向に主軸をおく不整楕円形を呈すると思われる。壁残高は22cm-13cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、強く叩き締められており締まりは全体的に良好である。ピットは7基検出したが、主柱穴はP₁~P₄であると思われる。P₄は底部が貼り床となっている。

炉址は石囲炉で2分の1程の検出であったため全容は判然としないが、深さ15cmに掘りくぼめている。炉石には部分的に火熱の跡が認められる。炉址の底部には焼土がみられる。また、P₃付近の床面にも焼土がみられる。遺物は炉址周囲から深鉢型土器（図32-1・2）、覆土中層より石斧（図32-3~5）が出土している。

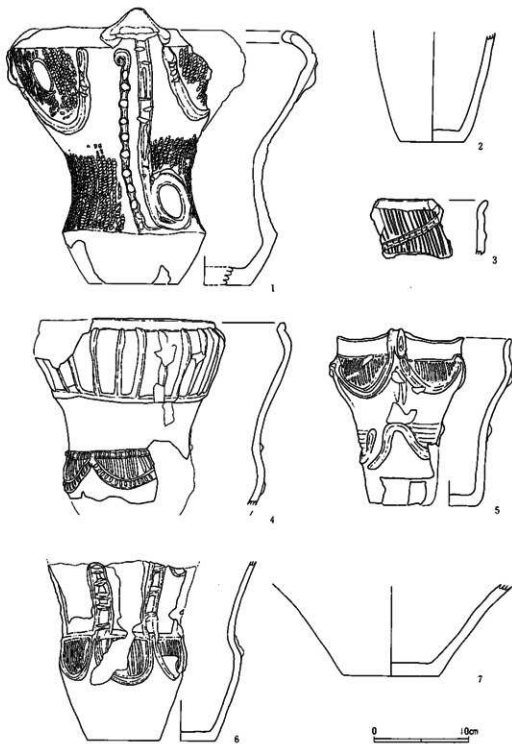
本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

29号住居址（第31図）

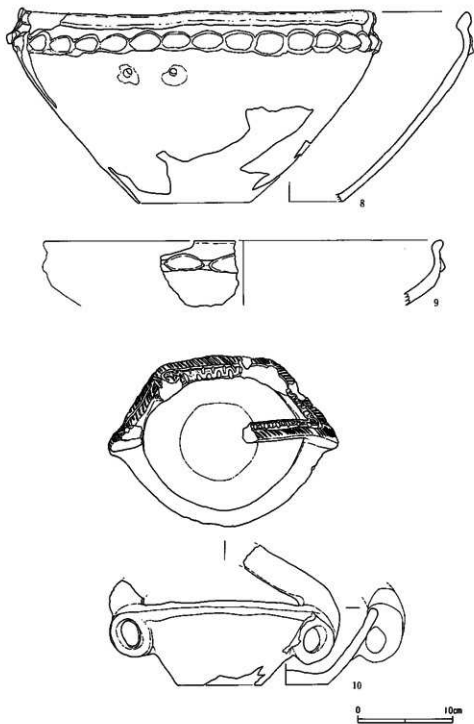
B地区で検出した。28号住居址の南壁付近から床面のみが検出できたためプランは不明である。遺物は覆土中層より土器片（図34-1）と石鏃（図34-2）が出土しているが、本住居址に伴うものか判然としない。よって本址の時期は不明である。



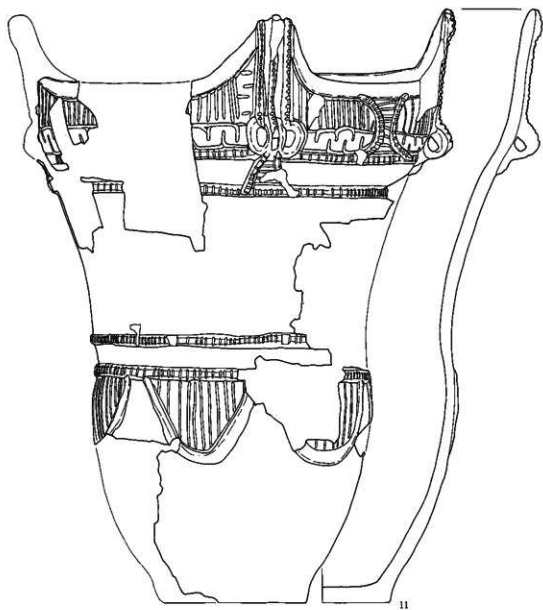
第25图 27号住居址实测图



第26图 27号住居址出土遺物実測図①

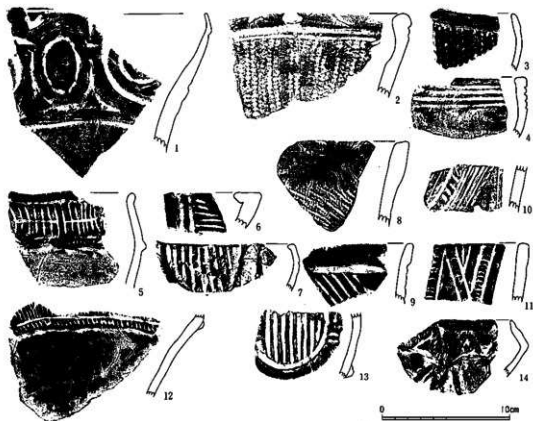


第27图 27号住居址出土遺物実測図②

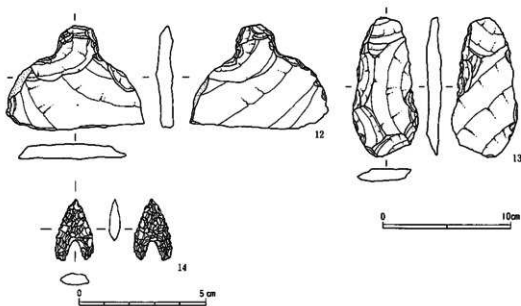


0 10cm

第28图 27号住居址出土遺物実測図③



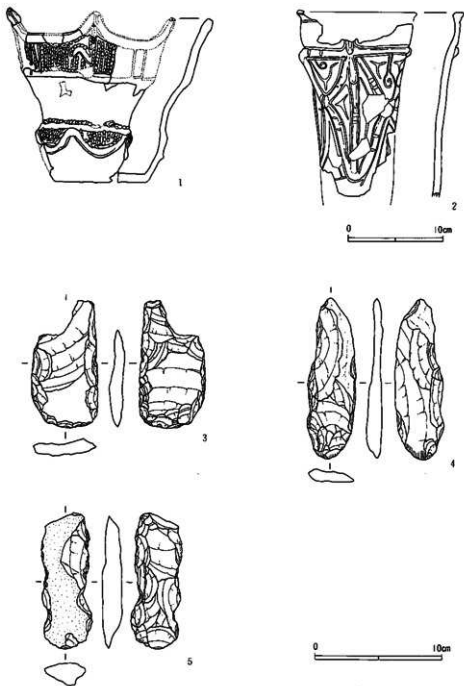
第29图 27号住居址出土土器拓影图



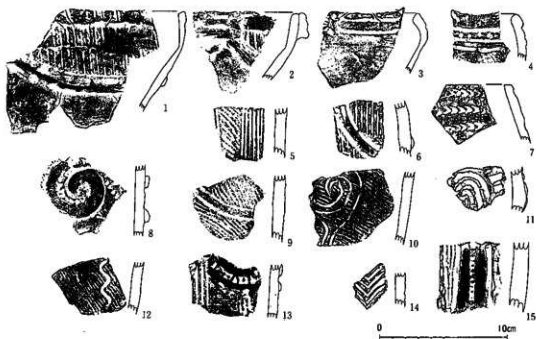
第30图 27号住居址出土遺物実測图④



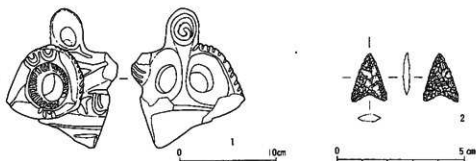
- 第31图 28·29号住居址实测图



第32図 28号住居址出土遺物実測図



第33図 28号住居址出土土器断片図

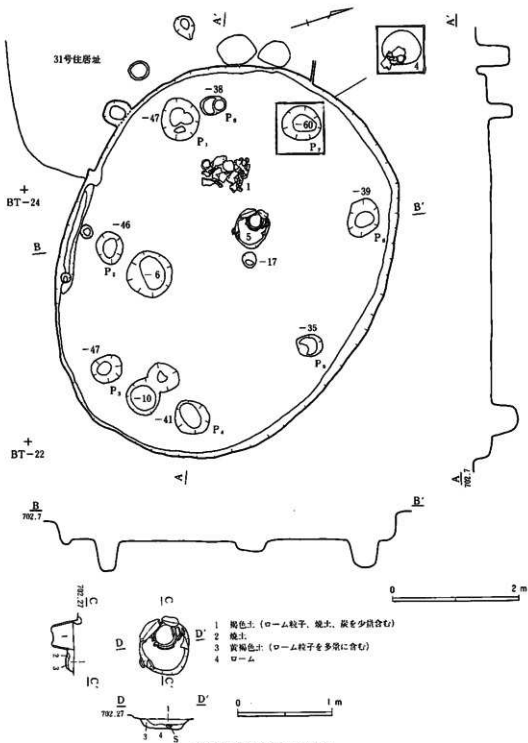


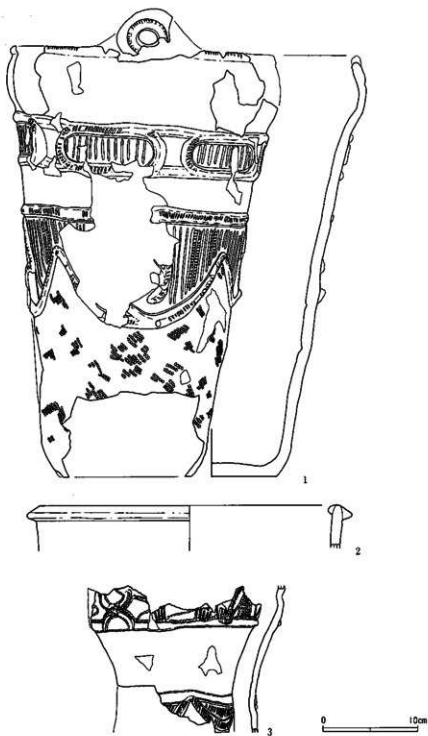
第34図 29号住居址出土遺物実測図

30号住居址 (第35図)

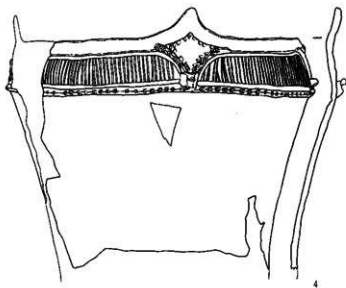
B地区で検出した。31号住居址に西側壁の一部を破壊されている。長軸6.3m、短軸5.05mの楕円形を呈する。主軸はN-40°-Wを示す。壁残高は43cm~20cmを測る。周溝は南側壁下にわずかにみられ、長さ1.8m、幅21cm~22cm、深さ8cm~9cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ビットは8基検出した。主柱穴はP₁~P₇であると思われる。P₃とP₄の間中点とP₇を結ぶ線を軸として左右に2本ずつの配置になっている。P₈は位置的にみて31号住居址に伴うものであると考える。P₂の東側には長軸74cm、短軸72cm、深さ10cmの不整円形に掘り込まれ貼り床を有するビット状のくぼみがみられる。

炉址は炉石を有する土器埋設炉で、住居址中央よりやや北側に位置している。長軸62cm、短軸

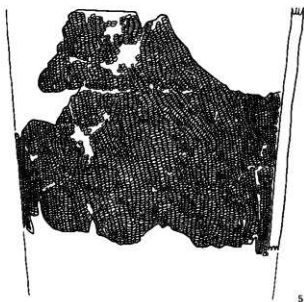




第36図 30号住居址出土遺物実測図①



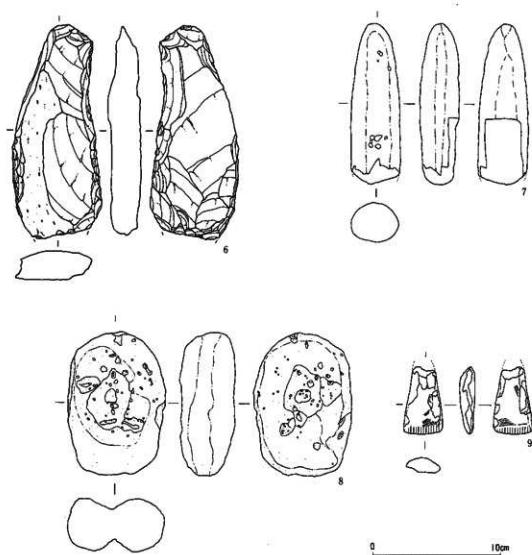
4



5

0 10cm

第37图 30号住居址出土遺物実測図②



第38図 30号住居址出土遺物実測図③

52cmの不整楕円形に掘りくぼめ、その北隅に上部と下部を打ち欠いた深鉢型土器(図37-5)の胴部を埋設している。炉址及び埋設土器の内部には焼土はあまりみられない。また、炉石においても火熱の跡は認められない。

遺物はP₁と炉址の間の床面直上から深鉢型土器(図36-1)が出土しているほか、覆土中層より石斧(図38-6・7・9)、凹石(図38-8)等が出土している。本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

31号住居址（第39図）

B地区で検出した。25号住居址の南側壁の一部と30号住居址の西側壁の一部を破壊している。発掘中に25号住居址と30号住居址との切り合い部分の壁を掘り崩してしまったため、プランははっきりとしないが、北西方向に主軸を示す、楕円形を呈していると思われる。壁残高は30cm～13cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ叩き締められている。全体的に締まりは軟弱で壁付近になる程弱くなる。はっきりとした貼り床は炉址の北側の一部でしか確認できなかった。

ピットは14基検出した。主柱穴は $P_1 \sim P_7$ であると思われる。このうち $P_1 \cdot P_2 \cdot P_7 \cdot P_{11}$ は断面形が袋状になっている。 $P_8 \sim P_{12}$ は深さ60cm～34cmで規則性はみられないが、炉址を囲むような位置となっているため本址は拡張されていることが考えられる。 P_{13} は位置的にみて25号住居址に伴うものであると思われる。

炉址は石囲炉と思われ、住居址中央よりやや北側に位置している。床面からほんのわずかに掘りくぼめたもので、床面とのレベル差はほとんどみられない。炉址の周囲には焼土が広がっている。一部のみ貼り床がみられることや、焼土が拡散していることから、炉址の一部は破壊されていることが考えられる。残存する炉石には部分的に火熱の跡が認められる。遺物は少なく、床面及び床面直上よりの出土はなく、覆土中層より土器片（図40-1・2）が出土しているのみである。本住居址の時期は遺物、周囲の住居址との切り合い関係等から縄文時代中期後葉であると思われる。

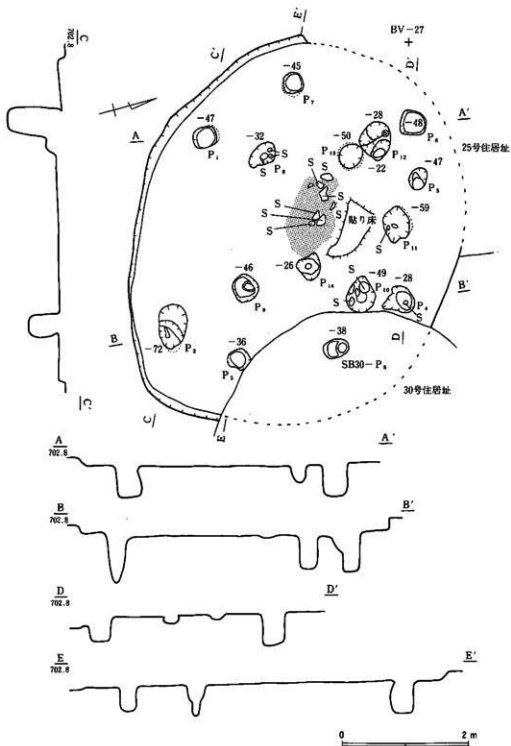
32号住居址（第42図・第53図）

B地区で検出した。33号住居址と土坑16に北側壁の一部を破壊されている。長軸6.0m、短軸4.8mの不整楕円形を呈する。壁残高は48cm～28cmである。周溝は壁下よりの検出はできなかったが、各ピットを結ぶ形で検出した。南北側の一部と東側で一部途切れている。深さ6cm～2cm、幅13cm～12cmである。

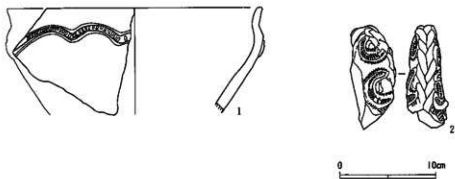
床面はローム層まで掘り込まれ強く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは10基検出した。主柱穴は周溝の検出位置から新旧の関係があるとみられ、新しい主柱穴は $P_1 \sim P_6$ 、古い主柱穴は $P_7 \sim P_{10}$ であると思われる。 $P_1 \cdot P_6$ はそれぞれ、2つのピットが重複していることが考えられ、住居址の中心に近いものが古い主柱穴の1つになると思われる。これらのピット内部壁面及び底部には小石が多くみられる。

炉址は土器埋設炉で、住居址中央よりやや西側に位置している。長軸108cm、短軸81cmの不整楕円形にはほぼ垂直に掘り込んだ深さ13cm～11cmの土坑状のくぼみに下部を打ち欠いた深鉢型土器（図46-10）を埋設している。住居址のプランに新旧関係がみられることから炉址においても新旧関係があるものと推測できるが、判断できるものがみられず判然としない。

遺物は住居址覆土の中層よりまとまった状態で多量の土器（図43-1、図44-2・3、図45-4～7、図46-11～13、図47-14・15）と石斧（図49-18～23、図51-30～31）、石匙（図50-25・26）、石



第39图 31号住居址实测图

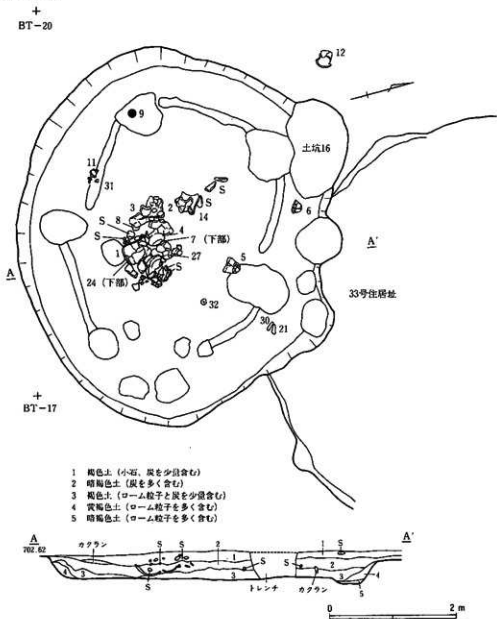


第40图 31号住居址出土遗物实测图

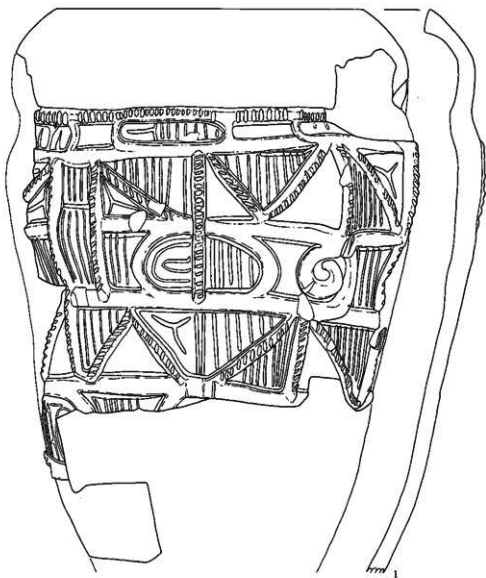


第41图 31号住居址出土土器拓影图

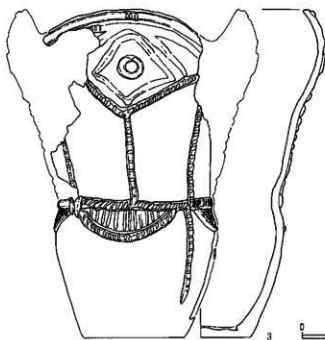
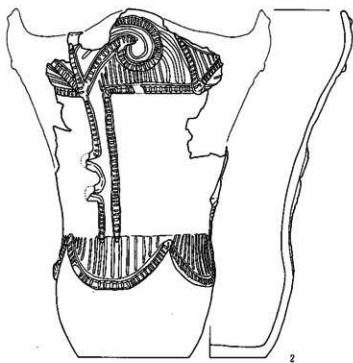
錘 (図50-27)、横刃型石器 (図50-28・29)、凹石 (図51-32) 等の石器、土偶の脚部 (図48-15-17) が出土している。床面からは浮いた状態で出土しており、吹上パターン状の廃棄遺物と思われる。土器は完形品がなく、いずれかの部分が欠けている。出土した土偶の脚部はいずれも覆土上層からの出土で、(図48-15・16)は胎土、焼成、文様から同一個体と考えられる。本住居址に伴うと思われる遺物はP₁の覆土より出土した深鉢型土器 (図45-9) と西側壁下より出土した土器底部 (図46-11)、炉址の埋設土器 (図46-10) がある。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。



第42図 32号住居址出土遺物位置図

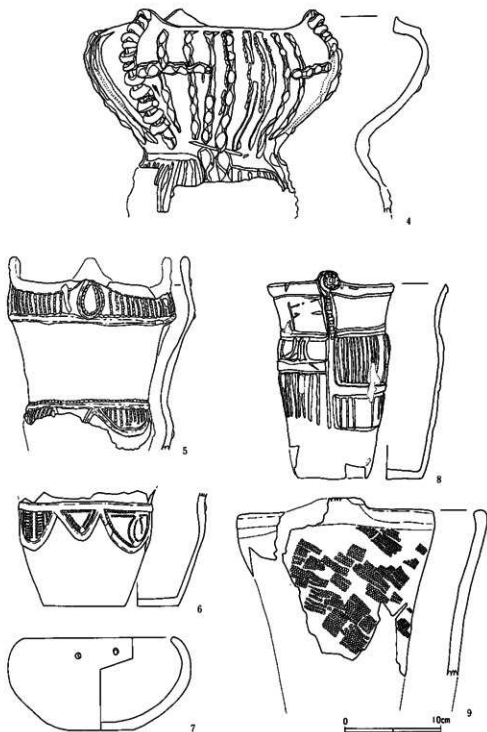


第43图 32号住居址出土遺物実測図①

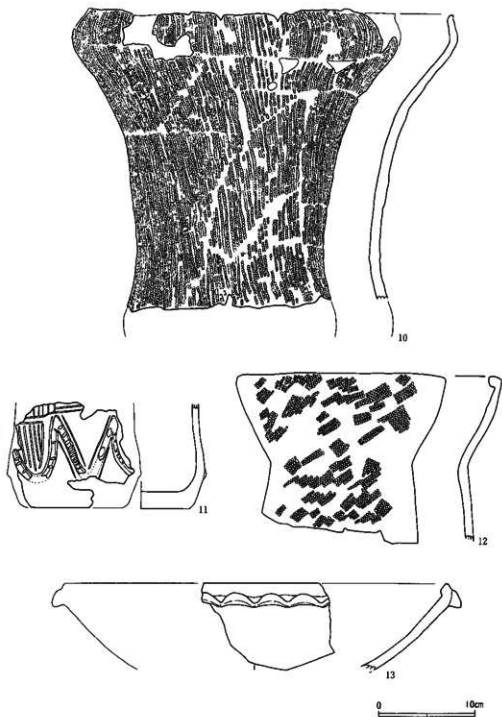


0 10cm

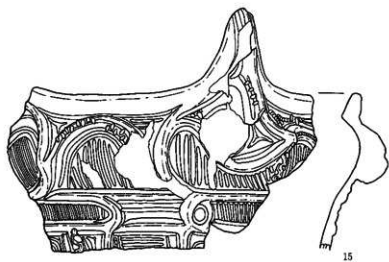
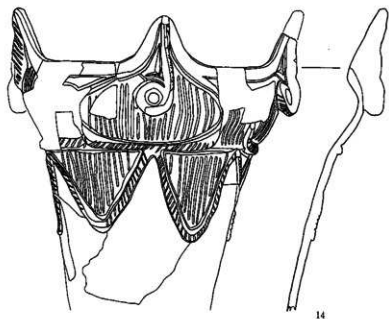
第44图 32号住居址出土遺物実測図②



第45图 32号住居址出土遺物実測図③

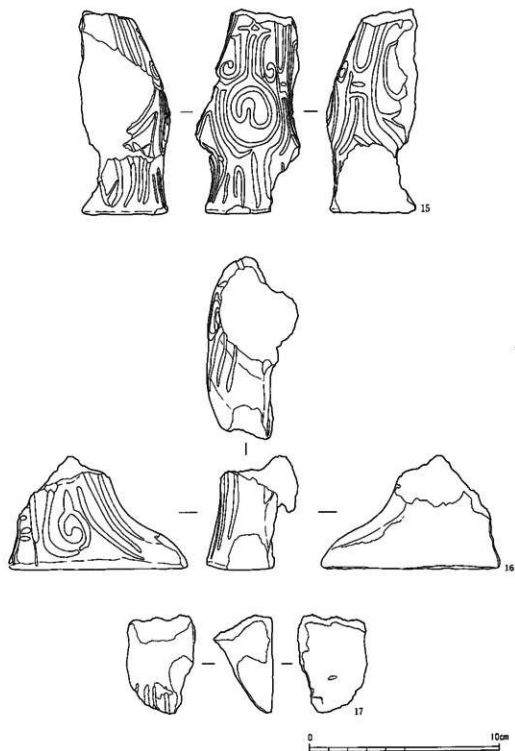


第46图 32号住居址出土遺物実測図④

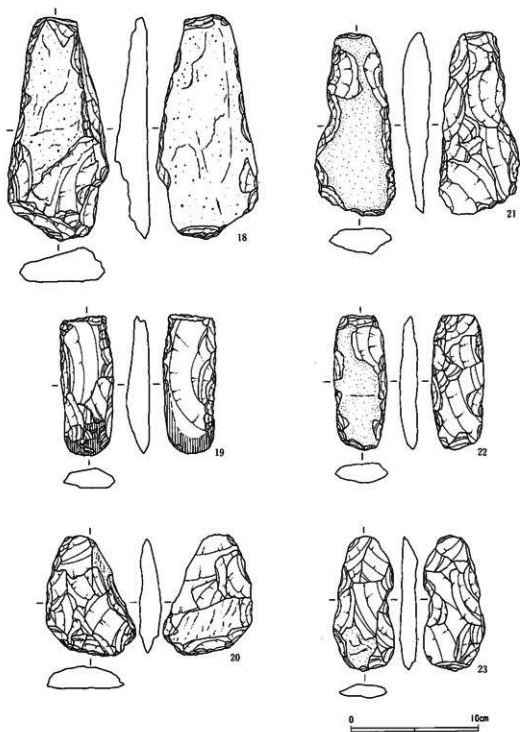


0 10cm

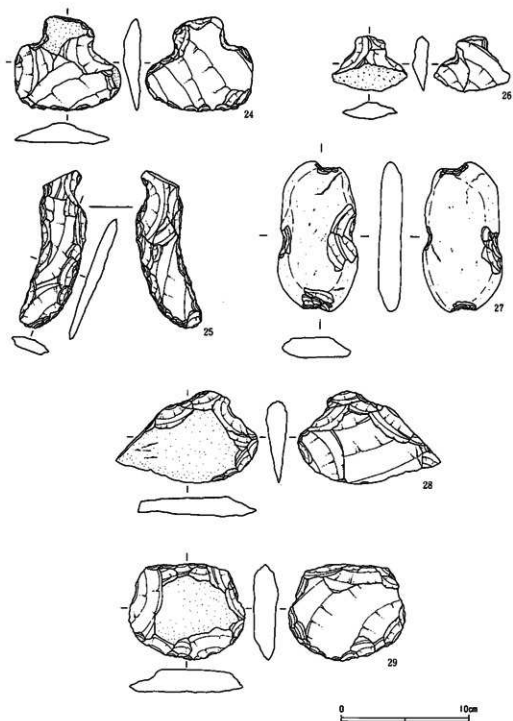
第47图 32号住居址出土遗物实测图⑤



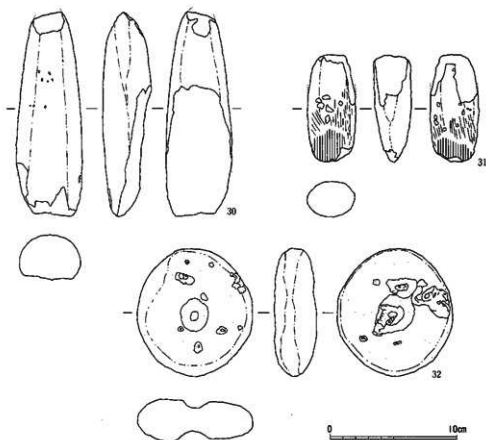
第48图 32号住居址出土遺物実測図⑥



第49図 32号住居址出土遺物実測図⑦



第50图 32号住居址出土遺物実測図⑧



第51図 32号住居址出土遺物実測図⑨

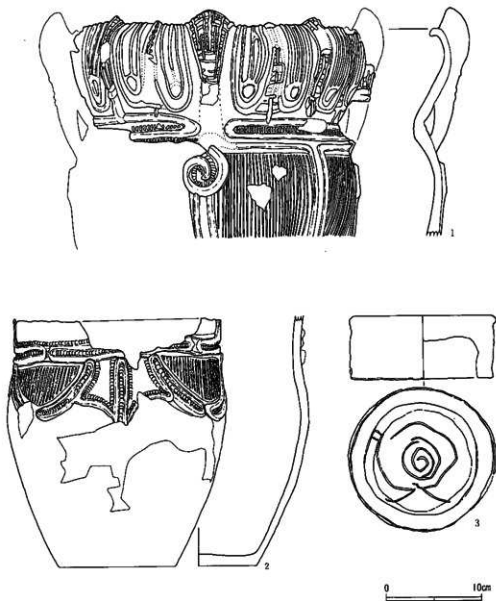
33号住居址（第53図）

B地区で検出した。32号住居址の北側壁の一部を破壊している。また、32号住居址を検出する際に南側の壁と床の一部を掘削してしまった。住居址の2分の1程は調査区外になるため、プランは判然としないうが不整楕円形を呈するものと思われる。壁残高は18cm～6cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、強く叩き締められており締まりは全体的に良好である。検出した住居址中央より西側の床面は攪乱により破壊されていた。

ピットは10基検出した。主柱穴は $P_1 \sim P_8$ であると思われる。 P_3 と P_{10} の間に長軸66cm、短軸51cmの歪んだ不整円形の土坑17がある。この土坑は断面形が袋状となっている。また、 $P_1 \cdot P_5$ も断面形が袋状となっている。

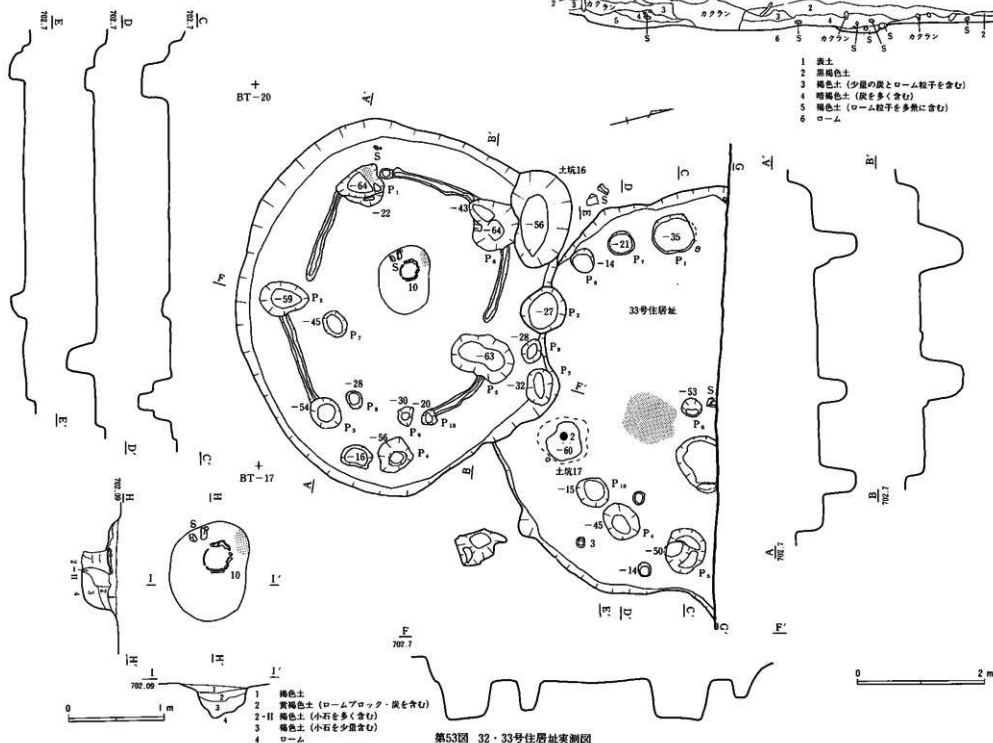
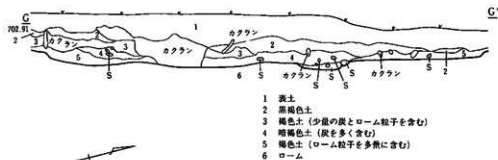
炉址は一部が調査区外に入るため全容は不明であるが、深さ15cm程の掘り込みをもつ石囲炉である。炉址の底部及び炉址より北西側の床面に焼土がみられる。炉石にはわずかに火熱の跡が認められる。

遺物は土坑17の底部より深鉢型土器（図52-28）と、東側壁下の床面直上よりほぼ完形で裏側に沈線による渦巻き状の文様が施された器台（図52-3）が出土している。また、覆土上層及び中層

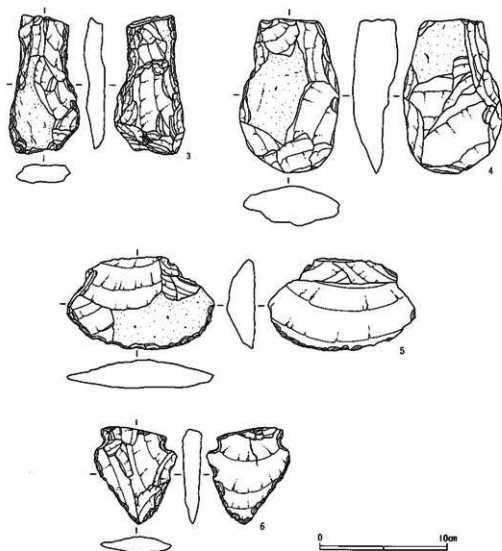


第52図 33号住居址出土遺物実測図①

より石斧（図54-3・4）、石匙（図54-6）、横刃型石器（図54-5）が出土しているが、本址に伴うものであるかは判然としない。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期後葉であると思われる。



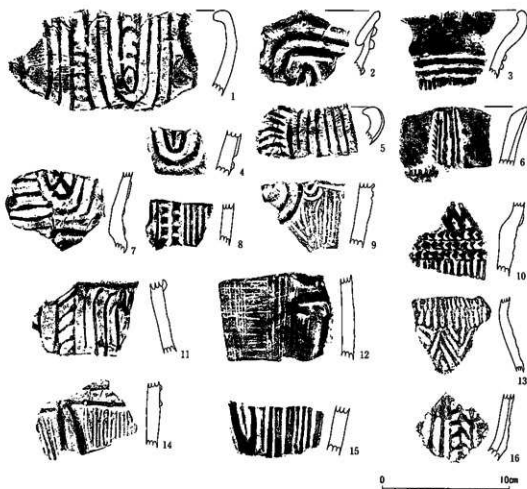
第53図 32・33号住居址実測図



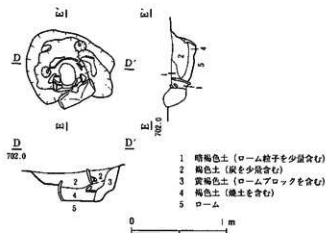
第54図 33号住居址出土遺物実測図②

34号住居址 (第57図)

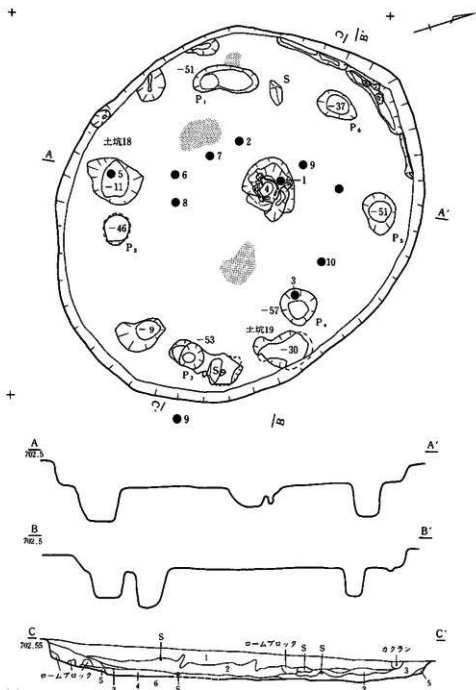
B地区で検出した。長軸6.3m、短軸5.3mの楕円形を呈する。主軸はN-34°-Wを示す。壁残高は34cm~12cmである。周溝は北西側の壁下にみられるのみで、他では認められなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、強く叩き締められており締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは6基検出した。これらが主柱穴であると思われる。深さは57cm~37cmで、P₃とP₆を結ぶ線を軸に左右2箇所の配置になっている。P₃は断面形が袋状となっている。P₃の西側に土坑18とP₆と東側壁の間に土坑19がみられる。それぞれ平面形は不定形で、土坑18の深さは11cm、土坑19の深さは30cmであり、断面形は部分的に袋状となっている。またP₃と土坑19の間には深さ20cm程のほぼ垂直に掘りくぼめた部分があり、内部に長さ45cmの縦長の砂岩がみられるが、立石であっ



第55図 33号住居址出土土器拓影図



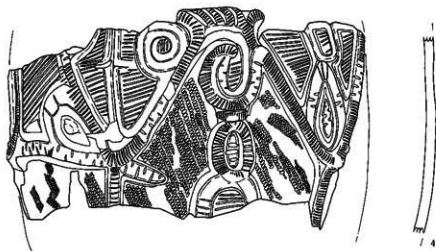
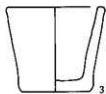
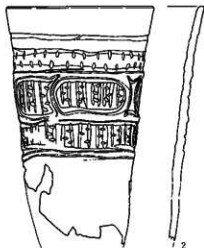
第56図 34号住居址炉址実測図



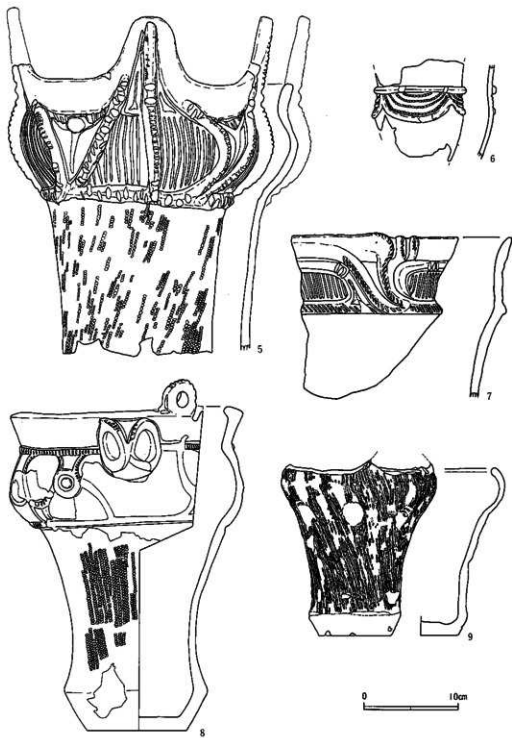
- 1 褐色土:
- 2 暗褐色土:
- 3 褐色土: (ローム粒子を少量含む)
- 4 黄褐色土: (ローム粒子を多量に含む)
- 5 暗褐色土: (ローム粒子を多量に含む)
- 6 ローム

0 2 m

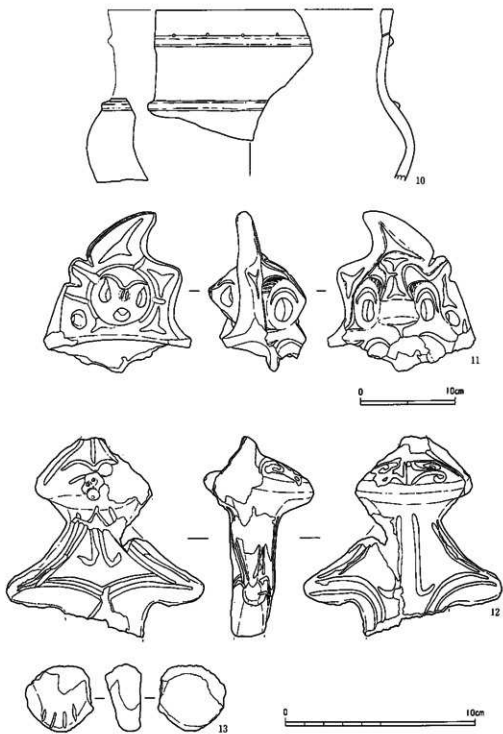
第57図 34号住居址実測図



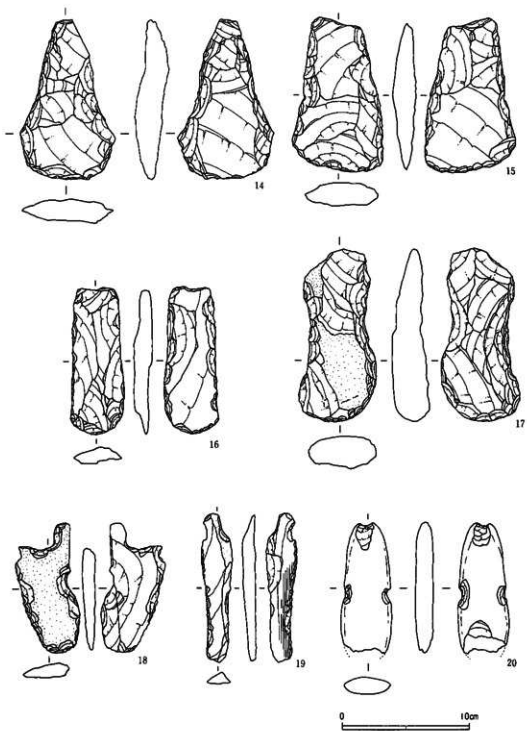
第58圖 34号住居址出土遺物実測圖①



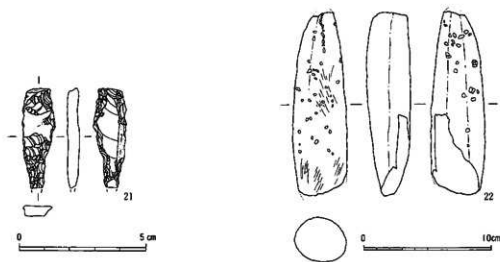
第59图 34号住居址出土遗物实测图②



第60图 34号住居址出土遺物実測図③



第61图 34号住居址出土遺物実測図④



第62図 34号住居址出土遺物実測図⑤

た可能性がある。

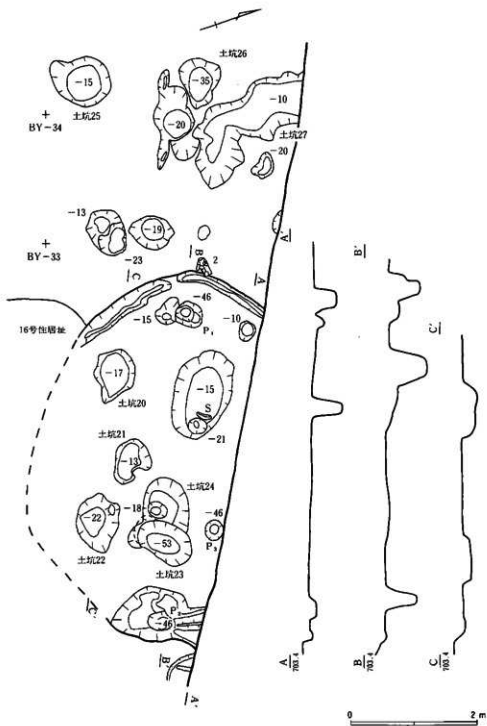
炉址は炉石を有する石囲土器埋設炉で、住居址中央よりやや北側に位置している。長軸95cm、短軸72cmの不整楕円形に掘り込んだくぼみの内部に上部と下部を欠いた深鉢型土器の胴部（図58-4）を埋設している。炉址の縁辺部は炉石が抜き取られた跡がみられる。炉址及び埋設土器の内部に堆積している土層にはあまり焼土はみられず、埋設土器内部の覆土下層にわずかに認められる程度である。また、炉址の東側の床面にも焼土が部分的にみられる。残存する炉石には火熱の跡は認められない。

遺物は炉址内部より浅鉢型土器（図58-1）、炉址周囲の床面直上より深鉢型土器（図58-2、図59-6～8）、土坑18の覆土より深鉢型土器（図59-5）、 P_4 の覆土より深鉢型土器（図58-3）が出土している。また住居址覆土中層より土偶（図60-12・13）、有孔銅付土器片（図60-10）、石斧（図61-14～17、図62-22）、石匙（図61-18・19）、石鏃（図61-20）、石錐（図62-21）等の石器が出土している。他に住居址外であり、本址に伴うものか判然としないが、南東側壁付近より顔面把手付土器の把手部分（図60-11）が出土している。

本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

35号住居址（第63図）

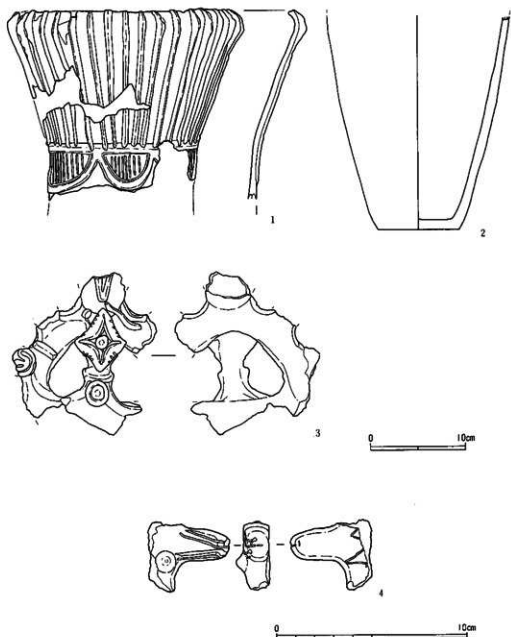
B地区で検出した。16号住居址に南側の壁及び床面を破壊されており、一部調査区外になるためプランは判然としないが、長軸5.9mの不整楕円形を呈していると思われる。壁残高は西側で22cm、東側で6cmである。周溝は東側壁下の一部と西側壁下にみられる。ピットは3基検出した。主柱穴は判然としないが、位置的にみて P_1 と P_2 のであると思われる。 P_1 は深さ46cmで、性格は判然としないが、本址に関連するものであると思われる。



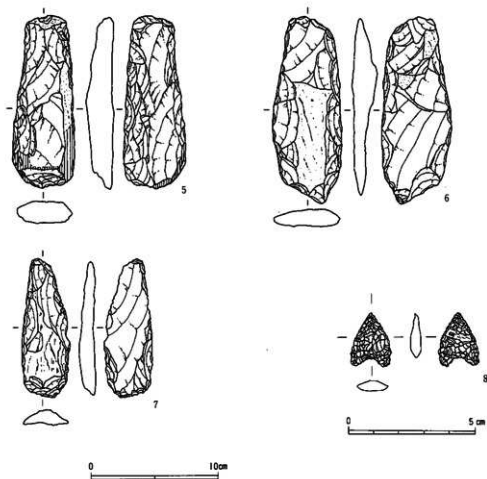
第63图 35号住居址实测图

炉址ははっきりとした跡がみられないが、P₁の東側に位置する土坑の覆土中に少量ではあるが炭が認められたため、これが炉穴であった可能性がある。

遺物は覆土下層より深鉢型土器(図64-1・2)、吊り手型土器の吊り手部分(図64-3)、覆土上層より土偶(図64-4)、覆土上層及び中層より石斧(図65-5~7)、石鏃(図65-8)が出土している。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。



第64図 35号住居址出土遺物実測図①



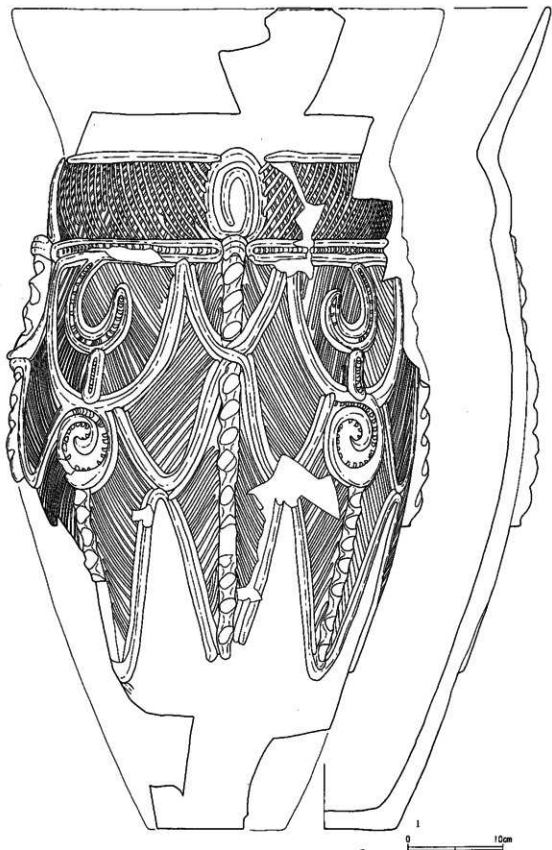
第65図 35号住居址出土遺物実測図②

37号住居址（第67図）

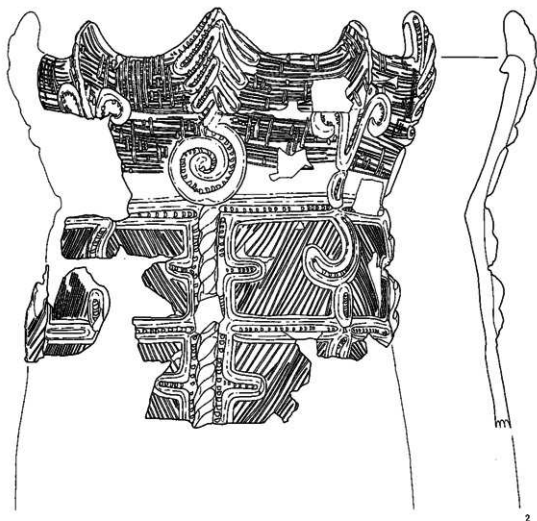
B地区で検出した。覆土及び床面に焼土及び炭が多くみられることから、火災により廃屋となり埋没した住居址であると考ええる。38号住居址の南東部分の壁と床面を破壊しており、住居址の北側部分が調査区外にはいるためプランは判然としないが、不整楕円形を呈しているものと思われる。主軸はN-85°-Eを示すものと思われる。壁残高は48cm～13cmである。東側の壁は検出できなかった。周溝は検出できた壁下の全域にみられ、幅21～6cm、深さ6～2cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締めりは全体的にたいへん良好である。

ビットは17基検出した。主柱穴は判然としないが新旧関係のあることが考えられ、 $P_1 \cdot P_2 \cdot P_3 \cdot P_4 \cdot P_5 \cdot P_7 \cdot P_8 \cdot P_{10}$ において重複がみられるため建替えの行われた可能性が考えられる。 P_1 と P_{10} は断面形が袋状となっている。

炉址は石囲炉で住居址中央よりやや西側に位置している。長軸90cm、短軸87cmの不整隅九方形で、深さ16cmに掘りくぼめた縁辺に8個の砂岩を方形に配置している。炉址の底部及び炉址東側



第66図 37号住居址出土遺物実測図①

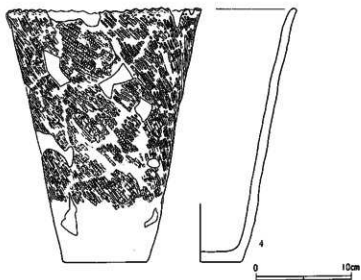
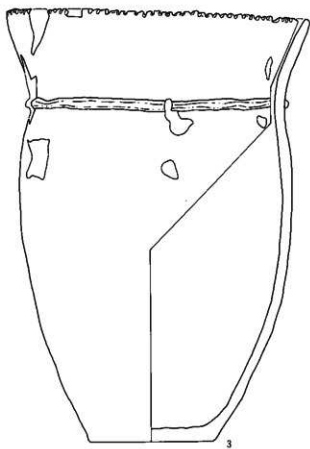


第68図 37号住居址出土遺物実測図②

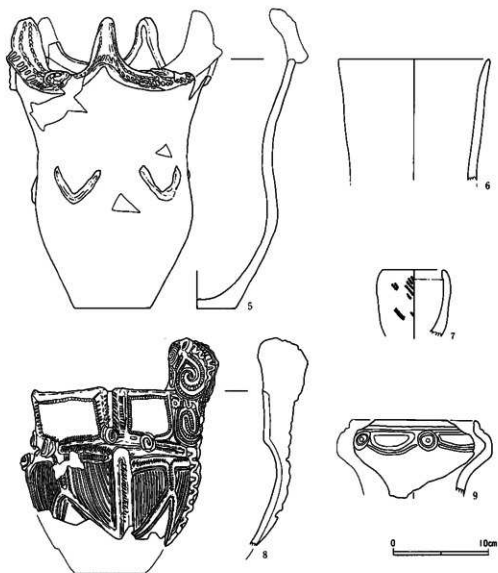
の床面には焼土が認められる。炉石には火熱の跡が認められる。

遺物は覆土下層より深鉢型土器（図66-1、図68-2、図69-3・4、図70-5～9、図72-13）、浅鉢型土器（図71-11・12）、床面より浅鉢型土器（図71-11）、覆土中層及び下層より、石斧（図74-14）、石匙（図74-15～17・19）、横刀型石器（図74-18）、石錘（図74-20）、凹石（図75-21～23）、石皿（図76-24、図77-25）の他、多量の土器片（図73-1～13）が出土している。

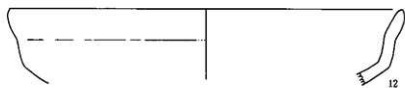
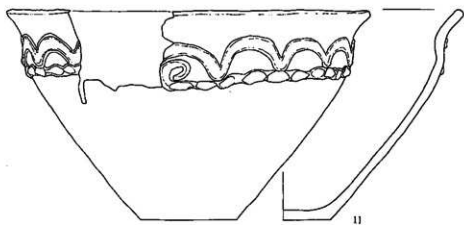
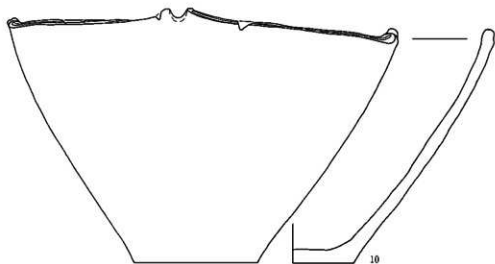
本住居址の時期は遺物などから縄文時代中期後葉であると思われる。



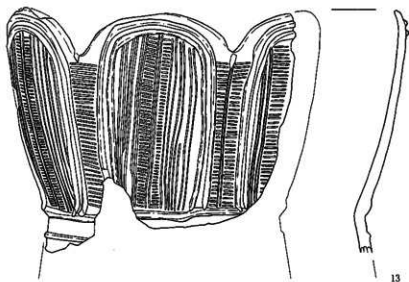
第69图 37号住居址出土遺物実測図③



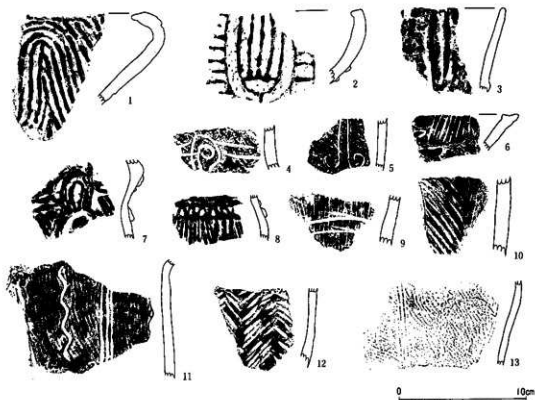
第70图 37号住居址出土遺物実測図④



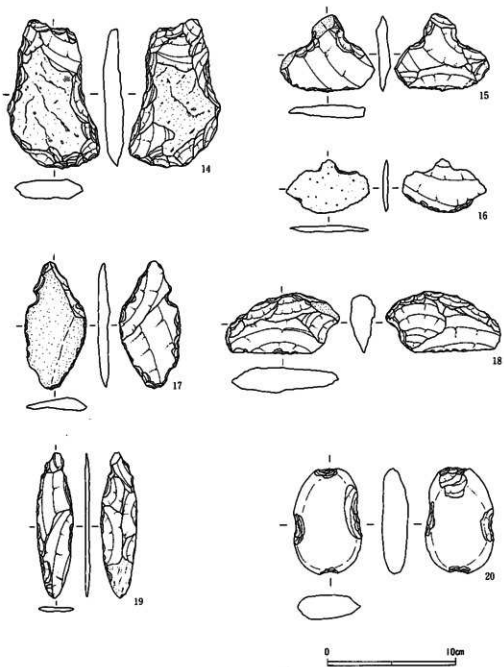
第71図 37号住居址出土遺物実測図⑤



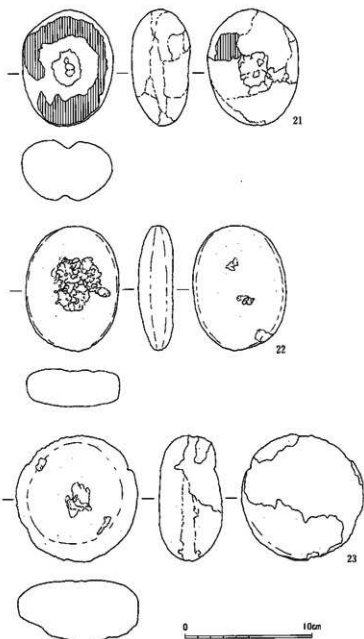
第72图 37号住居址出土物实测图④



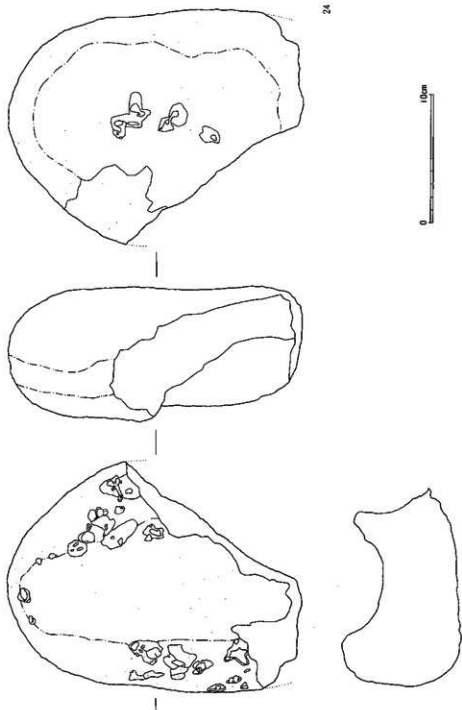
第73图 37号住居址出土土器拓影图



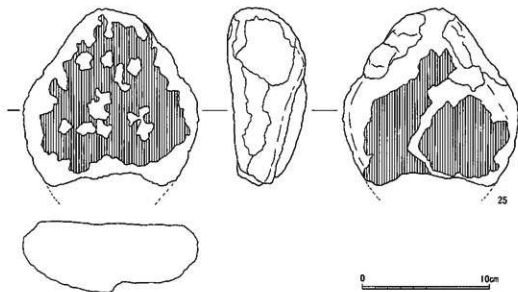
第74图 37号住居址出土遺物実測図⑦



第75图 37号住居址出土遺物実測図⑧



第76図 37号住居址出土遺物実測図③



第77図 37号住居址出土遺物実測図⑨

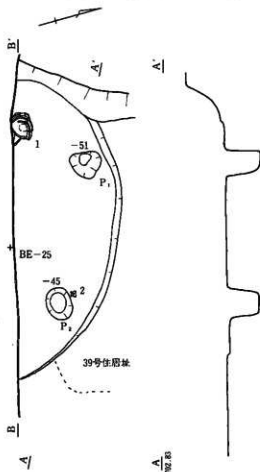
38号住居址 (第67図)

B地区で検出した。37号住居址に南東部分の壁及び床面を破壊されている。検出範囲がわずかであるためプランは不明である。壁残高は38cm～17cmである。周溝は検出した壁下全域に認められ、幅3cm～1cm、深さ14cm～9cmである。床面はローム層まで掘り込まれ強く叩き締められており、締まりはたいへん良好である。ピットは1基検出したが、これが主柱穴の1つになると思われる。

遺物は認められなかった。本住居址の時期は判然としないが、37号住居址との切り合い関係から、縄文時代中期後葉以前のものと思われる。

40号住居址 (第78図)

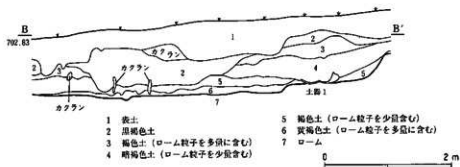
B地区で検出した。北側壁の一部を39号住居址に破壊されている。住居址のほとんどは調査区外であり、検出できた範囲はわずかであるためプランは不明である。壁残高は68cm～1.5cmである。東側の壁の一部及び周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ強く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。住居址北東部では貼り床は認められなかった。



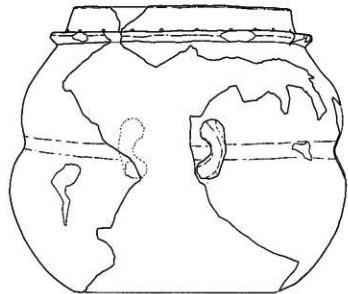
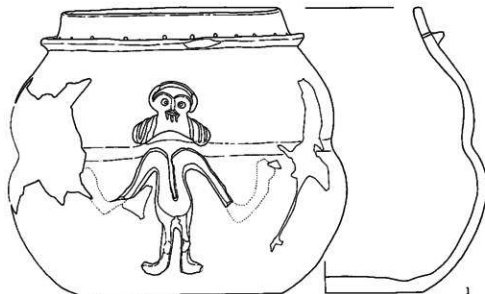
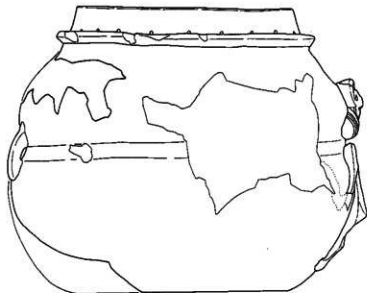
ピットは2基検出した。深さはP₁で51cm、P₂で45cmであり、これらは支柱穴であると思われる。

遺物は西側壁下より人体の全身が表現された人体文の付いた有孔銅付土器(図79-1)、P₂の北側から台付土器の台部(図79-2)がいずれも床面より出土している。他に土器片・石器等の遺物は認められなかった。

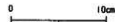
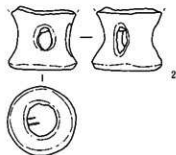
本住居址の時期は出土遺物が少なく判然としないが、縄文時代中期中葉頃であると思われる。



第78図 40号住居址実測図



土器の形物は中央がややくびれたジョタン形をなし、内外面は丁寧な土がけによる磨削が施され、赤色土層が認められる。人体文の位置は彩色がわずかな赤色土層が認められることから、人体文を含む土器全体に彩色が施されていたと思われる。口縁部の寸法は22箇所あり、土器正面に人体文、両側に横長の肥手が付く。人体文は高さ18.9cm、幅12.2cmで、胴部の一部と両手の肘より先の腕部分、及び左足つま先部分が剥落している。顔は楕円形につくられ、その下にへの字形の陰帯が付くもので、目は棒状の工具で突くあけられ、鼻はわずかに盛り上がっている。口は縦方向の浅線から縦方向に3本の浅線が加えられている。への字形の陰帯にはそれぞれ左右に3本の浅線が入る。胴部は縦と横れており、中央に溝がはいり、腕は肘部分より欠損しているが、剥落跡から両腕を左右に広げる形となることがわかる。左腕の剥落した部分の縁辺には赤色土層が残っており、この痕跡から手は腕と別々に付けられたことがうかがえる。胴部は磨きをもち、そのアインは出尻土面に磨き出す。脚は膝にふくらみをもち、足先が左右にひらく形となる。人体文は胴部から胴部の間に付けられており、腕のひも肩部分にはへの字の工具での磨削がある。全体的にパランスが整っており、人体をはっきりと表現している。土器の裏面に付く横長の肥手は1箇所が脱落するのみであるが、剥落した痕跡が認められるため2箇所が外側に同じ形で付いていたものと思われる。肥手は土器中央のくびれの部分に穴がくするように付けられている。



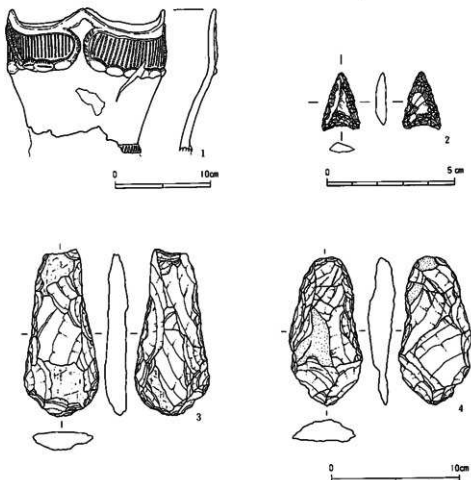
第79図 40号住居址出土遺物実測図

41号住居址（第82図）

B区で36号住居址の床下より検出した。長軸5.64m、短軸5.07mの不整楕円形を呈する。主軸はN-47-Wを示す。壁残高は西側壁で101cm、東側壁で22cmである。周溝は北東側壁下と北西側壁下で途切れるほかは、住居址壁下全域にめぐらされている。また、住居址内側の東側を除く部分に各ピットを結ぶ形で周溝がめぐらされており、この周溝上部の一部に貼り床がみられたことから本住居址は拡張されたものであると思われる。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。

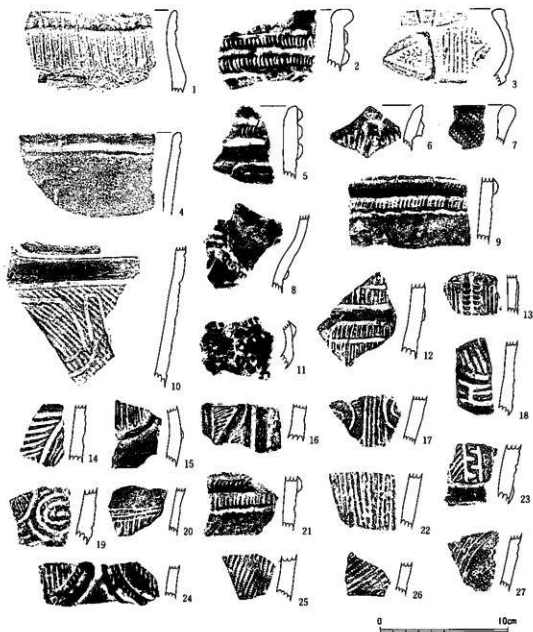
ピットは11基検出した。周溝の検出位置から新旧関係のあることが考えられる。新しい主柱穴はP₁～P₆と思われ、主軸を中心に左右3箇所の配置となっている。古い主柱穴はP₁・P₂・P₃・P₉が重複していることから、P₁～P₆・P₁₂であると思われる。

炉址は地床炉で、住居址のはば中央に位置している。長軸120cm、短軸93cmの不整楕円形で、深さ17.5cmに掘りくぼめられている。炉址底部にはわずかに焼土が認められる。

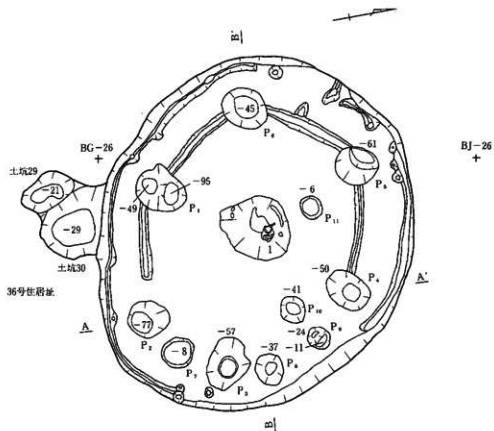


第80図 41号住居址出土遺物実測図①

遺物は少なく、炉址内部から深鉢型土器（図80-1）、覆土上層及び中層より石斧（図80-3・4）、石鏃（図80-2）、石皿（図83-5）が出土している。本住居址の時期は遺物などから縄文時代中期中葉であると思われる。

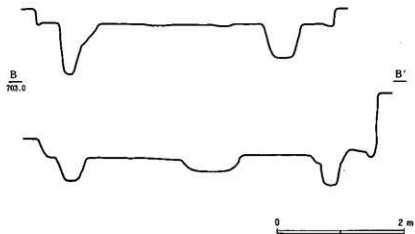


第81図 41号住居址出土土器拓影図

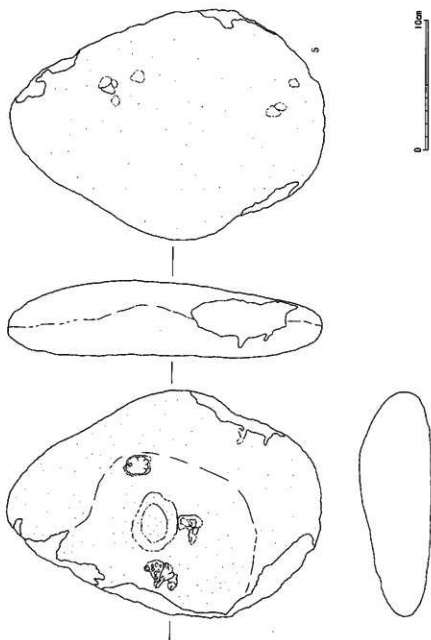


A
703.0

A'



第82图 41号住居址实测图



第83图 41号住居址出土遗物实测图②

(2) 土器廃棄場 (第85図)

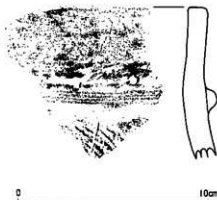
B地区で検出した。上面確認の際、暗褐色土層より多量の土器片が出土したため、下層に住居址のあることを想定してトレンチ調査を行ったが、遺構が認められなかったため土器廃棄場であると判断した。検出及び取り上げは、2 m×2 mのグリットを用いて行った。

出土した土器片は縄文時代中期中葉のものが主体となっているが、中期後葉のものが少量認められる。また、これらの土器破片にはローリングをうけた跡は認められない。

土器廃棄場からは土器破片の他に土偶(図86-1~5、図9-10)、人の手を表現した土器片(図87-7)、石斧(図

88-1~5、図89-6~7、図91-23~28)、石匙(図89-8~12、図90-16・17・22)、石鏃(図90-18~20)、不定石器(図90-21)、横刃型石器(図90-13~15)、石錘(図92-29・30)等が出土している。

廃棄場より検出した土器片の個数と重さを第2表で示した。また、範囲については第85図にあらわした。出土した土器の量は特殊遺構付近が特に多い。また、17号住居址の範囲(BQ-T-29-32)は掘り返しがされているため、出土している土器の量は周辺と比較して少なくなっていることが考えられる。



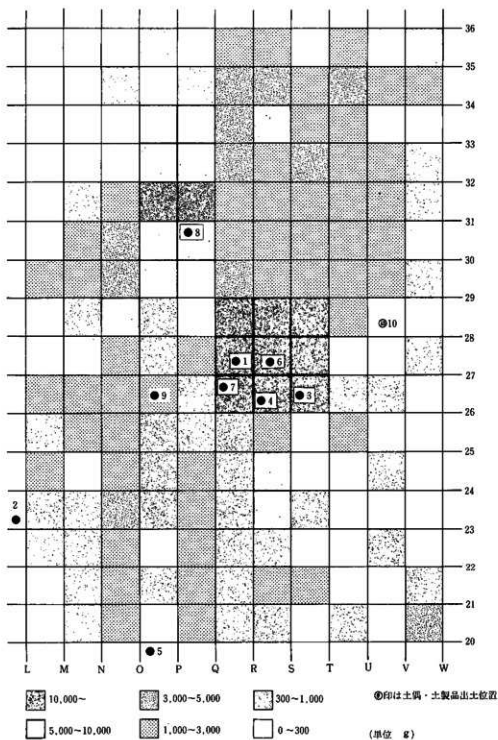
第84図 土器廃棄場出土有孔罎付土器拓影図

(3) 特殊遺構 (第93図・第94図)

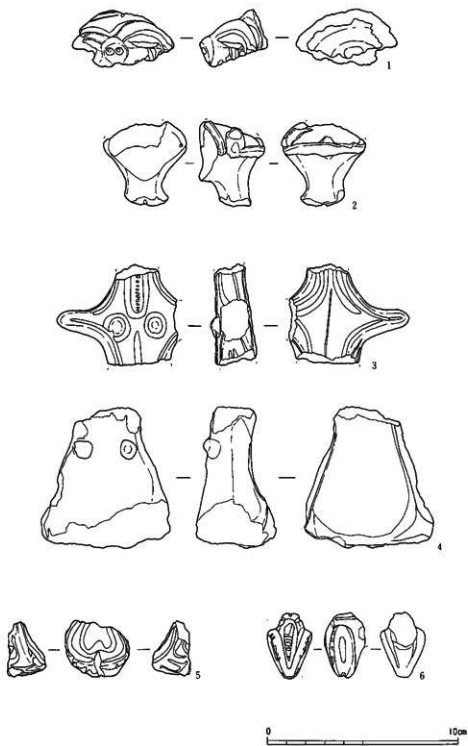
B地区で検出した。上面確認の際、暗褐色土層より多量の縄文土器片に混じって、原形個体で出土する縄文土器が認められた。当初、廃棄土器または住居遺構に伴う遺物と判断したが、埋設された台付浅鉢型土器(図95-1)とその周りから礫群が出土し、原形個体の土器はその周囲に集中していたこと、さらに個体で出土した土器の周囲及び下層において遺構にみられる床面、ヒット、壁、炉址などの施設がみられなかったことから、屋外遺構であると判断し、検出を行った。検出は2 m×2 mのグリットをさらに4分割し、1 m×1 mのグリットを新たに設定して記録を行った。

本址の中心部になると思われる台付浅鉢型土器は、底部が穿孔され逆位に設置された上に一部欠損した使用面のみられる不整円形の石(図99-10)が蓋をするような状態で出土した。土器の内部には、暗褐色土がみられるのみでその他の遺物は認められなかった。その東側には方形の砂岩が4個出土している。これらの石の一部には火熱を受けた跡が認められるものがある。他に浅鉢型土器の南側には平坦な砂岩がみられるが、形状に共通性はみられない。

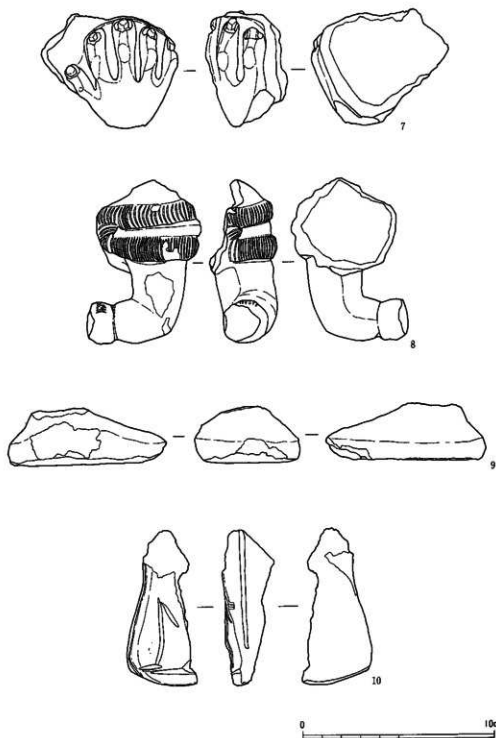
浅鉢型土器を中心とした半径3.8 m内からは深鉢型土器(図96-3、図97-4~7、図98-8・9)が7個体出土している。このうち、図97-4・5と図98-8・9の土器は並列した状態で口縁が南方を向いており、同一の方向性をもっている。また、図96-3、図97-6の土器においても南方または南西方向に口縁が向いている。配置されている土器の周辺には、これらと同時期の土器片が多く出土しているが、こ



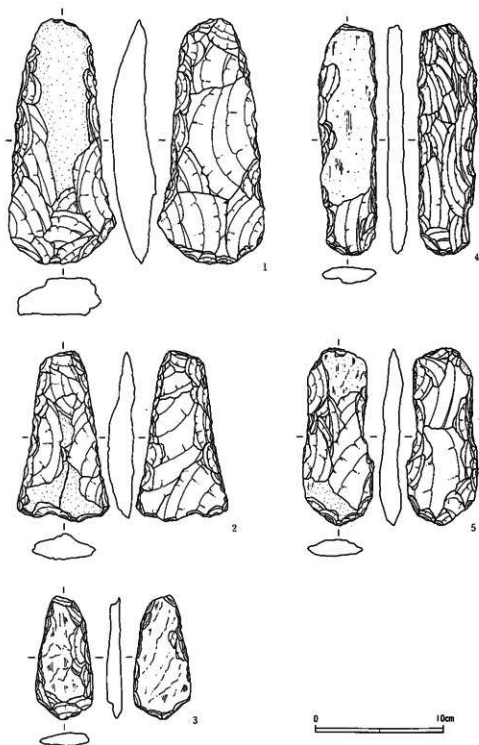
第85図 土器廃棄場平面図 (1:200)



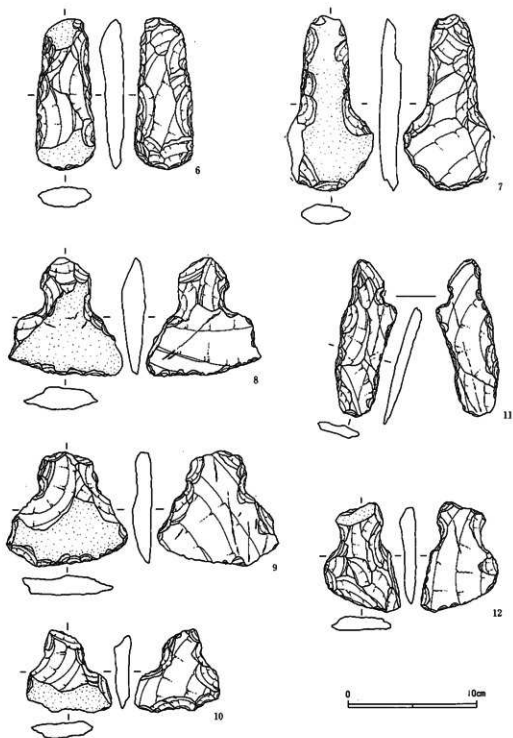
第86图 土器廃棄場出土遺物実測図①



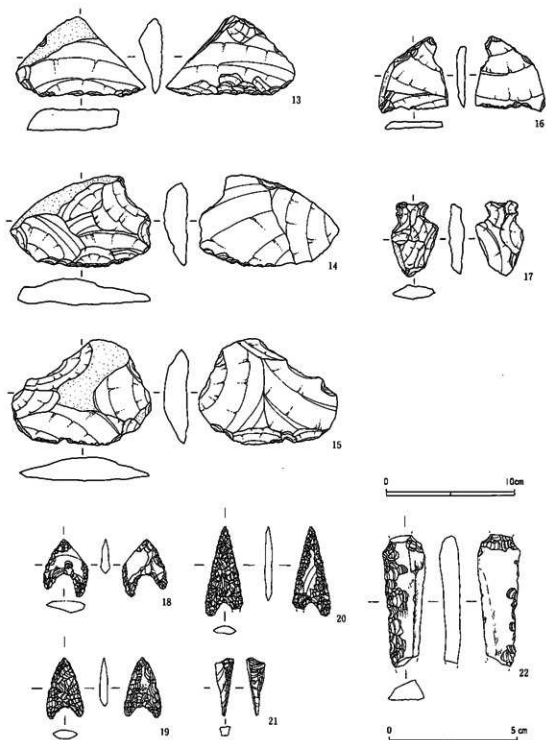
第87図 土器廃棄場出土遺物実測図②



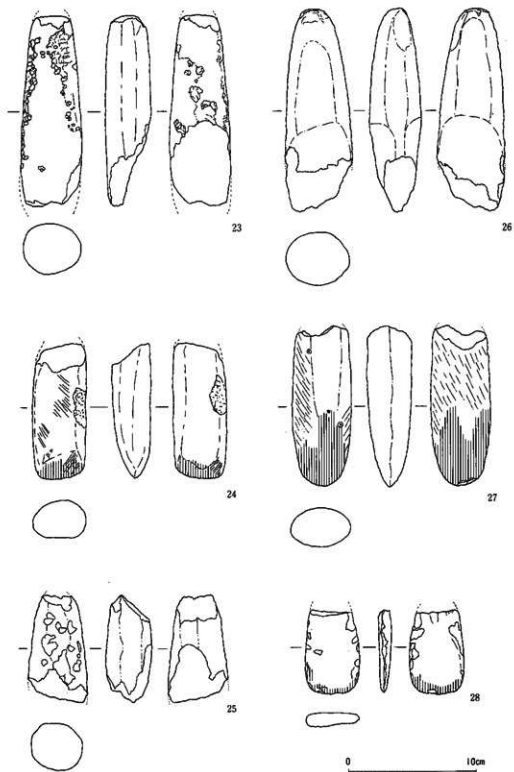
第88図 土器廃棄場出土石器実測図①



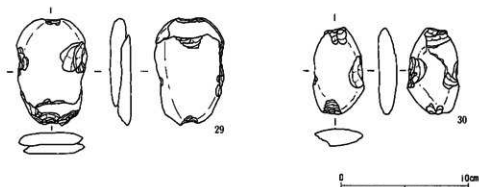
第89図 土器廃棄場出土石器実測図②



第90图 土器廃棄場出土石器実測図③



第91図 土器廃棄場出土石器実測図④



第92図 土器廃棄場出土土器実測図⑤

れらの中の一部には、火熱により表面がケロイド状になった、ゆがみのみられる土器片が認められる。

特殊遺構においては、炭化物及び焼土は認められなかった。図98-9の土器直上から、5本の指に爪や関節部分が写実的に表現された人の手をモチーフにもつ土器片が出土しているが、本址周辺が土器廃棄場になっているため、これが本址に伴うものかは判然としない。また、グリットBR・S-34・35より出土した土器(図95-2)は、口縁が南方を向いた状態で出土しているが、浅鉢型土器から離れた位置であり、時期の新しいものであることから、本址に伴わないものと思われる。

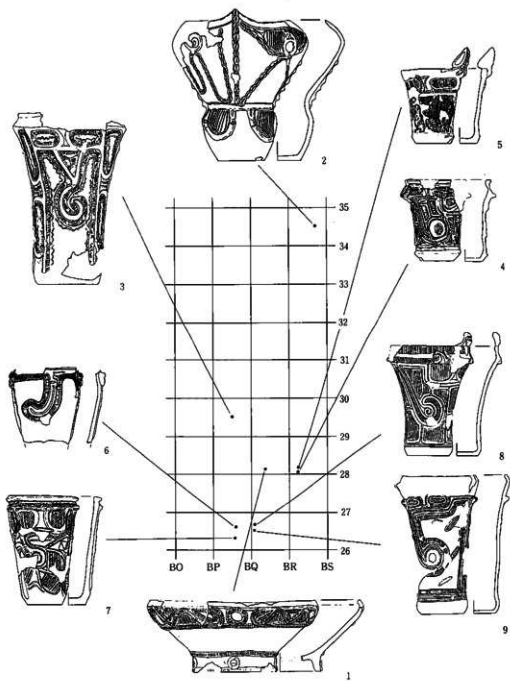
本址の時期は遺物等から、縄文時代中期中葉であると思われる。

第2表 土器廃棄場出土土器量一覧表(1)

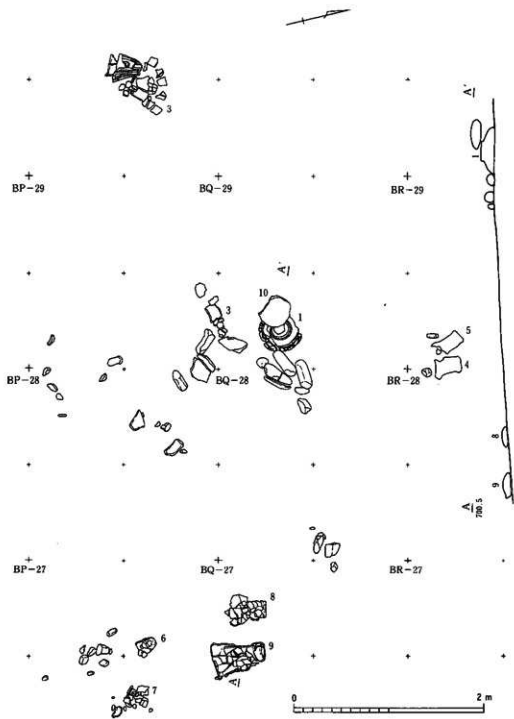
グリット	個数	重さ(g)	備考	グリット	個数	重さ(g)	備考
B J・K-20・21	11	125		BM・N-20・21	19	378	
B J・K-21・22	1	5		BM・N-21・22	19	378	
B J・K-24・25	2	55		BM・N-22・23	45	923	
B J・K-25・26	6	80		BM・N-23・24	19	378	
B J・K-29・30	11	175		BM・N-25・26	54	1,280	
B J・K-30・31	14	240		BM・N-26・27	54	1,280	
B J・K-31・32	1	15		BM・N-28・29	50	830	
B J・K-32・33	1	10		BM・N-29・30	78	1,370	
B K・L-20・21	62	1,210		BM・N-30・31	59	1,410	
B K・L-25・26	27	540		BM・N-31・32	21	555	
B K・L-26・27	4	20		BM・N-33・34	7	155	
B K・L-28・29	19	485		BN・O-20・21	74	1,301	
B K・L-29・30	10	170		BN・O-21・22	84	1,561	
B K・L-30・31	4	25		BN・O-22・23	109	2,001	
B K・L-32・33	2	25		BN・O-23・24	206	3,071	
B L・M-20・21	5	85		BN・O-24・25	125	2,386	
B L・M-21・22	12	205		BN・O-25・26	134	2,507	
B L・M-22・23	43	480		BN・O-26・27	159	2,492	
B L・M-23・24	65	835		BN・O-27・28	106	1,955	
B L・M-24・25	48	1,210		BN・O-28・29	296	5,595	
B L・M-25・26	19	375		BN・O-29・30	170	4,135	
B L・M-26・27	39	1,270		BN・O-30・31	181	3,405	
B L・M-28・29	7	160		BN・O-31・32	146	2,695	
B L・M-29・30	92	1,325		BN・O-32・33	11	140	
B L・M-30・31	6	85		BN・O-34・35	14	380	
B L・M-32・33	10	165		BO・P-20・21	1	25	

第2表 土器廃棄場出土土器量一覧表(2)

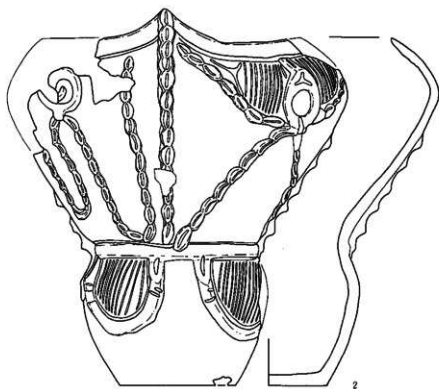
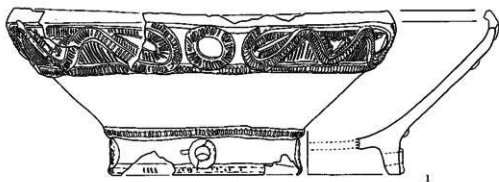
グリット	制数	重さ(g)	備考	グリット	制数	重さ(g)	備考
BO・P-21・22	23	380		BR・S-31・32	157	2,327	
BO・P-22・23	20	225		BR・S-32・33	128	2,605	
BO・P-23・24	33	600		BR・S-33・34	419	8,375	
BO・P-24・25	54	835		BR・S-34・35	254	4,590	
BO・P-25・26	19	379		BR・S-35・36	82	1,330	
BO・P-26・27	138	1,670	土偶No 9 出土	BS・T-20・21	7	115	
BO・P-27・28	32	420		BS・T-21・22	61	1,965	
BO・P-28・29	25	495		BS・T-22・23	2	35	
BO・P-29・30	328	8,399		BS・T-23・24	43	845	
BO・P-30・31	294	7,659		BS・T-25・26	3	50	
BO・P-31・32	484	11,164		BS・T-26・27	479	10,867	土偶No 3 出土
BO・P-32・33	360	9,034		BS・T-27・28	488	10,882	
BO・P-33・34	366	9,259		BS・T-28・29	510	12,352	
BO・P-34・35	6	190		BS・T-29・30	167	2,612	
BO・P-35・36	25	490		BS・T-30・31	138	2,052	
BP・Q-20・21	64	1,550		BS・T-31・32	141	2,342	
BP・Q-21・22	72	1,555		BS・T-32・33	169	4,000	
BP・Q-22・23	80	1,485		BS・T-33・34	21	700	
BP・Q-23・24	100	1,975		BS・T-34・35	8	70	
BP・Q-24・25	88	1,905		BT・U-20・21	57	975	
BP・Q-25・26	28	605		BT・U-23・24	2	5	
BP・Q-26・27	36	680		BT・U-24・25	2	75	
BP・Q-27・28	67	1,435		BT・U-25・26	58	1,540	
BP・Q-29・30	291	7,619		BT・U-26・27	40	685	
BP・Q-30・31	291	7,620	土偶No 8 出土	BT・U-28・29	88	1,405	
BP・Q-31・32	805	17,179		BT・U-29・30	139	2,252	
BP・Q-32・33	413	9,999		BT・U-30・31	120	1,932	
BP・Q-33・34	293	7,699		BT・U-31・32	145	2,232	
BP・Q-34・35	14	400		BT・U-32・33	161	2,835	
BQ・R-20・21	38	785		BT・U-33・34	87	1,360	
BQ・R-21・22	36	760		BT・U-34・35	205	3,185	
BQ・R-22・23	32	650		BT・U-35・36	94	1,525	
BQ・R-23・24	48	825		BU・V-20・21	3	30	
BQ・R-24・25	48	815		BU・V-22・23	23	495	
BQ・R-25・26	10	185		BU・V-23・24	3	35	
BQ・R-26・27	488	10,207	土偶No 7 出土	BU・V-24・25	20	440	
BQ・R-27・28	467	10,232	土製品No 1 出土	BU・V-25・26	2	15	
BQ・R-28・29	486	11,752		BU・V-26・27	16	300	
BQ・R-29・30	200	4,193		BU・V-28・29	5	30	土偶No 20 出土
BQ・R-30・31	106	2,153		BU・V-29・30	65	1,400	
BQ・R-31・32	77	1,733		BU・V-30・31	74	1,380	
BQ・R-32・33	154	3,745		BU・V-31・32	96	2,110	
BQ・R-33・34	171	4,295		BU・V-32・33	74	1,530	
BQ・R-34・35	88	3,210		BU・V-34・35	10	200	
BQ・R-35・36	67	1,455		BV・W-20・21	119	3,325	
BR・S-20・21	25	375		BV・W-21・22	31	785	
BR・S-21・22	84	1,780		BV・W-22・23	3	65	
BR・S-22・23	28	420		BV・W-23・24	2	15	
BR・S-23・24	249	6,095		BV・W-27・28	43	830	
BR・S-24・25	227	6,305		BV・W-28・29	4	55	
BR・S-25・26	69	1,440		BV・W-29・30	41	855	
BR・S-26・27	637	13,777	土偶No 4 出土	BV・W-30・31	4	130	
BR・S-27・28	610	15,707		BV・W-31・32	50	780	
BR・S-28・29	517	11,437		BV・W-32・33	15	420	
BR・S-29・30	145	2,542		BV・W-34・35	6	85	
BR・S-30・31	142	2,117		BV・W-35・36	25	385	



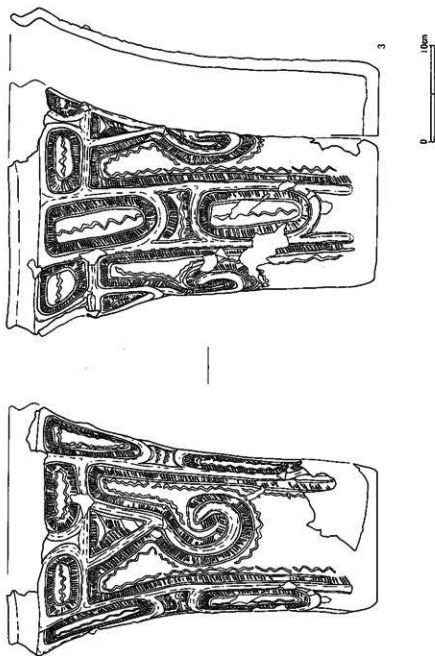
第93图 特殊造型出土土器位置图① (1:200)



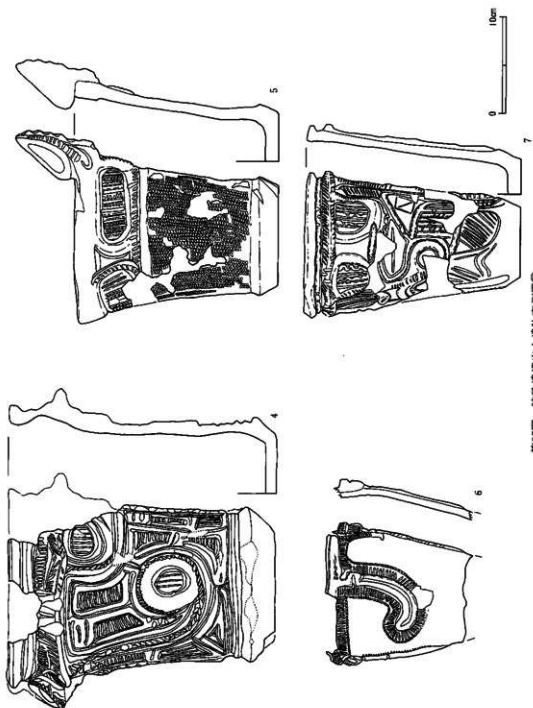
第94图 特殊结构出土土器位置图②



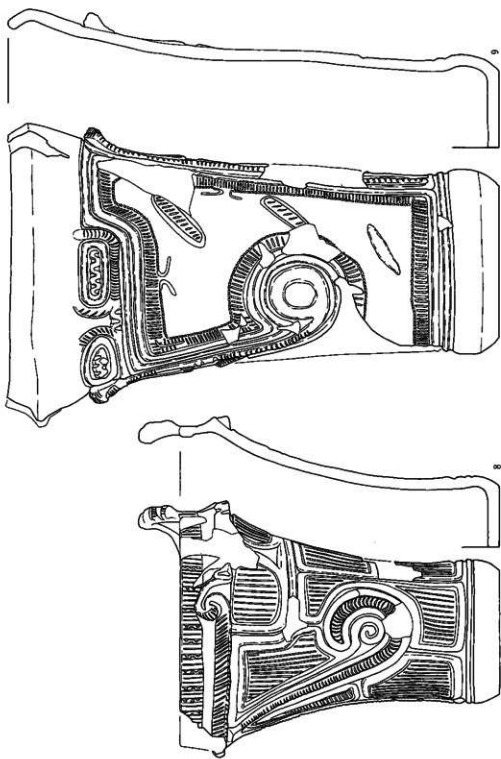
第95图 特殊造型出土文物实测图①



第96图 特殊纹样出土器物实例图②

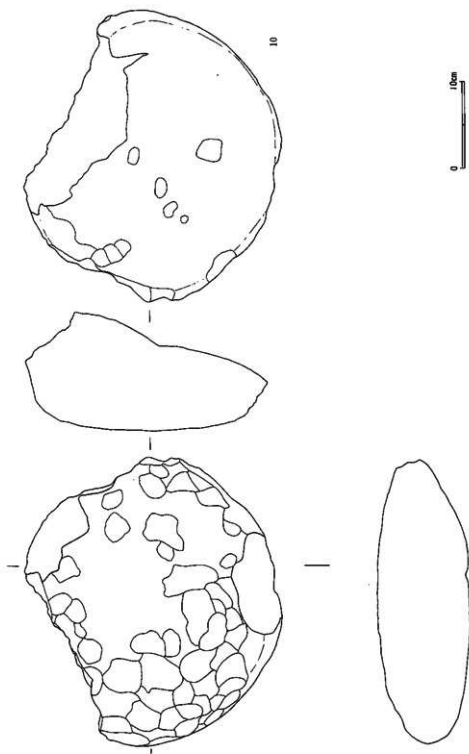


第97图 特殊遺構出土遺物実測図③



第98图 特殊造型出土器物式样图①

⑤ 西康藏族自治州 图65



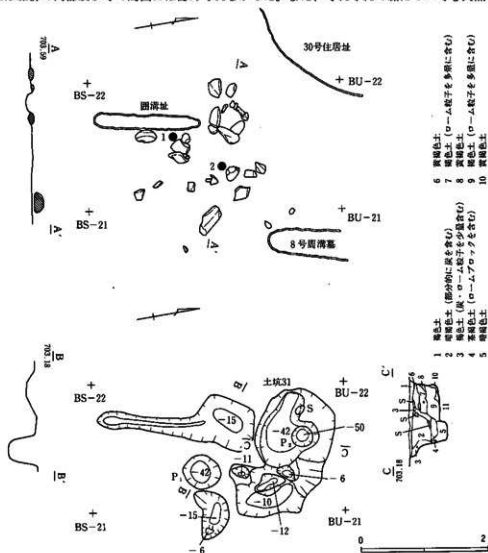
(4) 配石遺構 (第100図)

B地区で検出した。30号住居址南東側に位置している。遺構の上層に8号周溝墓及び圓溝址が構築されていることから本址の一部は破壊されていることが考えられる。

本址は上面確認を行っていた際、散乱した状態で礫群が出土し、その西側から方形に配置された礫群を検出した。炉址であることを想定して、周辺を調査したが、貼り床は認められなかった。

本址の東側に床面のみ検出できた29号住居址が位置しているが、29号住居址の床面とのレベルに差異があることから、これらは別々の遺構であると考ええる。

方形に配置された礫群は、長軸96cm、短軸72cm、深さ15cmの不整隅丸方形に掘りくぼめた縁辺に、東側に方形の砂岩をコの字型に平坦に配し、西側を傘大の砂岩で囲う形となっている。焼土は礫群の内部及びその周囲には認められなかった。また、それぞれの礫についても火熱を受け

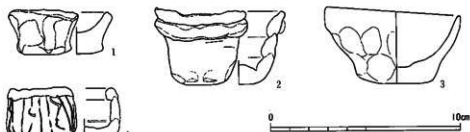


第100図 配石遺構実測図

た跡はみられない。

方形状に配置された礫群の東側にある礫群は砂岩とホルンフェルスで、大きさ及び形状に共通性はみられない。また、方形状に配置された礫群の周囲からは土坑31とビット2基を検出した。これらが本址に伴うものであるかは不明である。

遺物は、方形状に配置された礫群の東側礫群よりミニチュア土器(図101-1~4)が出土している。本址の時期は遺物が少なく判然としないが、縄文時代中期中葉から後葉頃であると思われる。

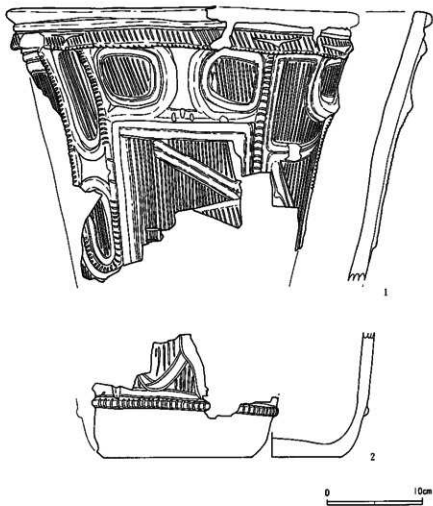


第101図 配石遺構出土遺物実測図

(5) 土 坑

調査地内より32基の土坑を検出した(第3表)。このうち住居址外より検出した土坑はいずれも、切り合い関係、形態、土層から縄文時代のものであると思われる。また、これらの土坑からは遺物の出土はほとんどみられないが、土坑27より深鉢型土器(図102-1・2)が出土している。

この土坑27は35号住居址と37号住居址の間に位置しており、周辺にビット状の掘りくぼみがみられることから、住居址のあった可能性がある。



第102図 土坑27 出土遺物実測図

第2節 弥生時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居址

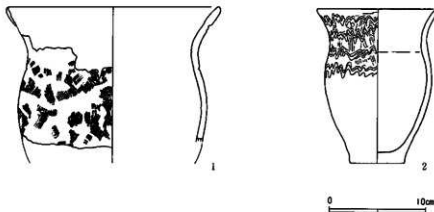
4号住居址 (第104図)

A地区で検出した。3号周溝墓、9・10号住居址に北壁から北東隅隅を破壊されている。また、南壁と床面の一部を後世の攪乱により破壊されている。長軸5.9m、短軸5.2mの不整隅九方形を呈する。主軸はN-85°-Wを示す。壁残高は27cm~6cmである。周溝は検出できなかった。

床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、全体的に締まりはたいへん良好である。支柱穴はP₁~P₃と思われ、P₄は位置的にみて支柱穴と関連のあることが考えられる。また、東壁に接するP₅・P₆は入口施設であることが考えられる。

炉址は炉石を有する土器埋設炉でP₁・P₃の間の中央より西壁側に位置し、長軸81cm、短軸48cmの不整方形に掘りくぼめた内部に甕型土器(図103-1)の下部を欠いたものを埋設している。

遺物は少なく、東壁付近の床直上より小型甕型土器(図103-2)が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。

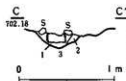
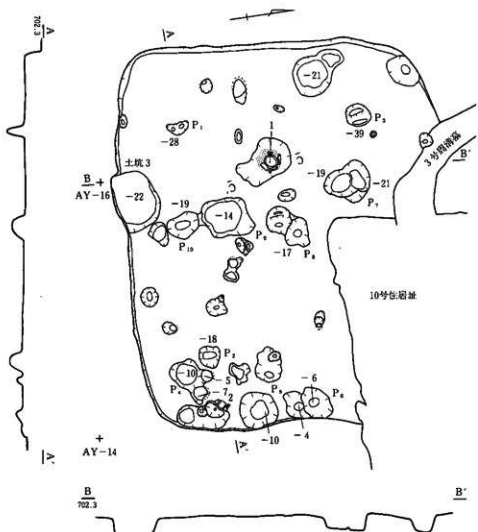


第103図 4号住居址出土遺物実測図

16号住居址 (第106図)

B地区で検出した。35号住居址の南側壁の一部を破壊している。長軸5.6m、短軸5.1mの隅九方形を呈する。主軸はN-17°-Wを示す。壁残高は43cm~33cmを測る。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩きしめられており、締まりは良好であるが住居址全体の壁下部分には貼り床は認められなかった。

ピットは9基検出した。支柱穴はP₁~P₄と思われ、P₃・P₄の形状から割り材を使用した柱であったことが考えられる。支柱穴と思われるピットのそれぞれの東西軸の間には浅いピット状のくぼみがあり、間仕切りであることが考えられる。また、東壁下に位置するP₅・P₆は入口施設で



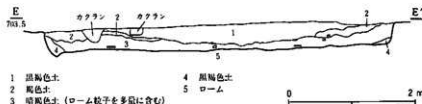
- 1 褐色土 (ローム粒子を多量に含む)
- 2 焼土
- 3 ローム

第104図 4号住居址実測図

あることが考えられる。

炉址は長軸42cm、短軸33cmの不整楕円形で、深さ7cmに掘りくぼめた地床炉である。炉の周囲及び内部には焼土がわずかにみられる。

遺物は少なく、床面より甕型土器の底部(図107-1・2)、北壁付近の覆土中層より紡垂車(図107-3)、覆土中層より石斧(図107-4・7)が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。



第105図 16号住居址土層断面図

18号住居址 (第108図)

B地区で検出した。長軸4.2m、短軸3.9mの隅丸方形を呈する。主軸はN-20°-Wを示す。壁残高は20cm~16cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ叩き締められている。おおむね締まりは良好であるが、住居全域の壁下は全体的に軟弱である。住居址西壁下の一部は、貼り床はみられない。ピットは4基検出した。これらが主柱穴であると思われる。いずれも深さが11cm~12cmと浅い。

炉址は土器埋設炉で、炉石を伴わないが、炉址周囲の床面にみられる石が部分的に火熱を受けていることから、炉石であることが考えられる。焼土は炉址の周囲及び埋設土器内部の覆土上面にわずかに認められる。

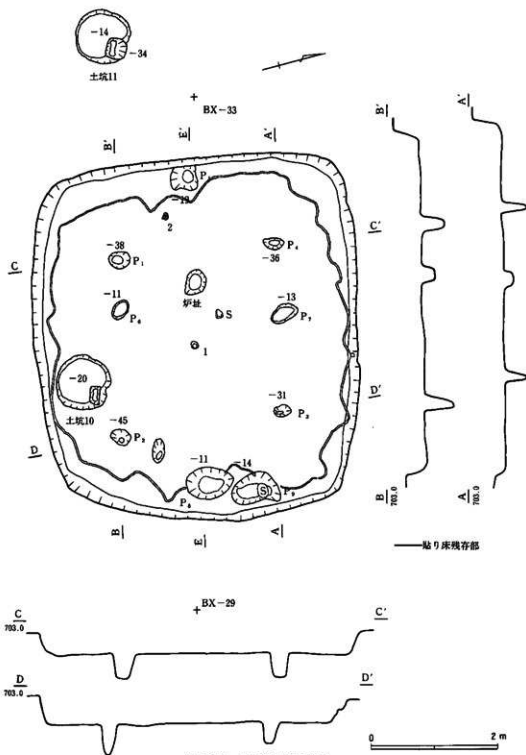
遺物はP₃付近の床面より甕型土器(図109-1・2・4)、壺型土器の口縁部(図109-5)、石器(図109-6)等が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。

19号住居址 (第116図)

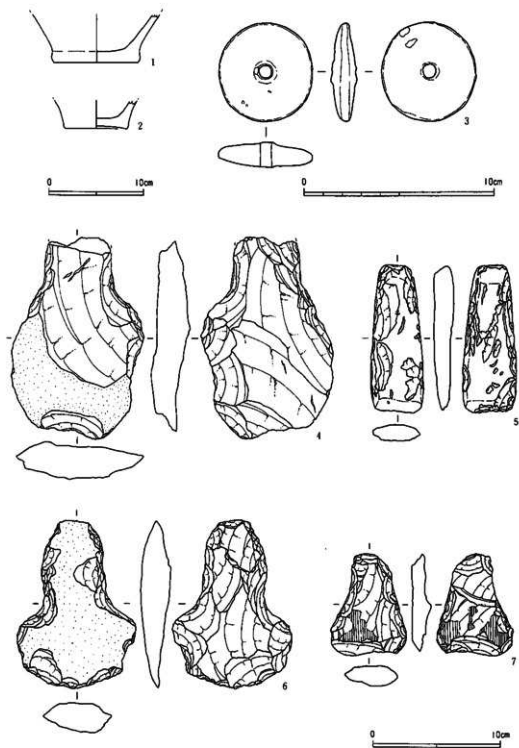
B区で検出した。長軸5.5m、短軸4.8mの隅丸方形を呈する。主軸はN-13°-Wを示す。壁残高は57cm~21cmである。床面はローム層まで掘り込まれ強く叩き締められており、締まりは全体的に良好であるが、東壁周辺の一部には貼り床はみられない。周溝は西壁下、南壁下、北壁下に部分的に掘り込まれている。東壁下は検出できなかった。

ピットは4基検出した。主柱穴はP₁~P₄であると思われる。主柱穴のそれぞれの形状から割り材を使用した柱であったことが考えられる。

炉は土器埋設炉で、住居址中央より西壁側のP₁とP₄の間に位置している。炉址の周囲および埋設土器内部に堆積している土層上面に焼土がみられる。

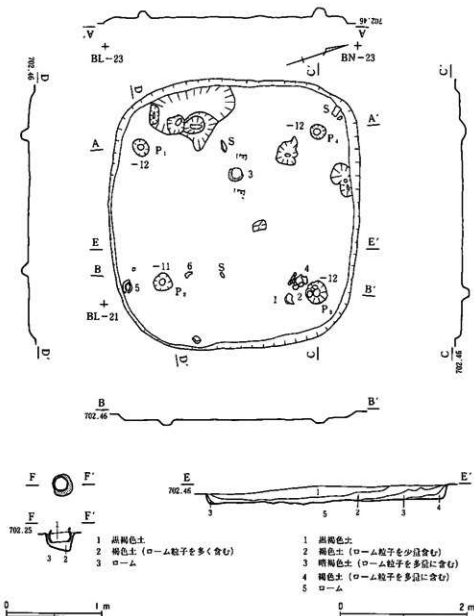


第106图 16号住居址实测图

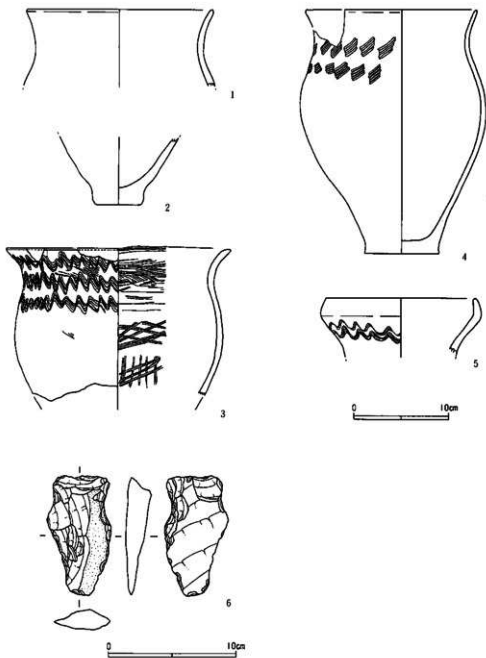


第107图 16号住居址出土遺物実測図

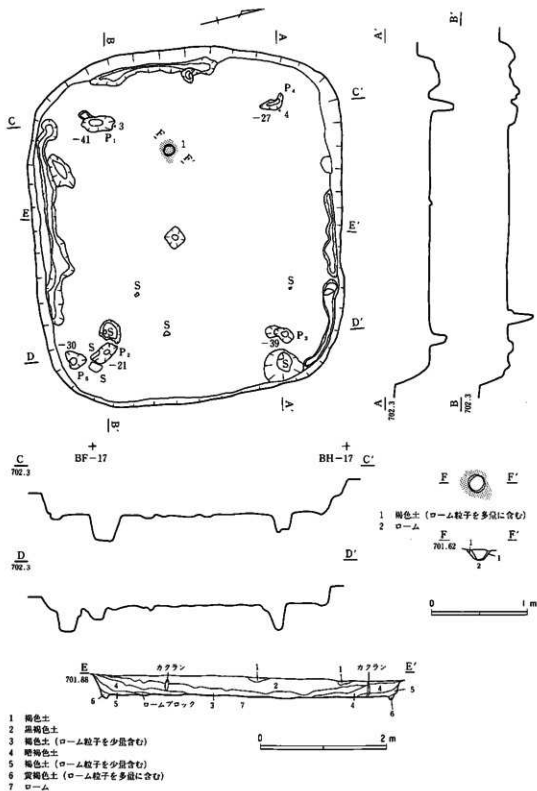
遺物は少なく、P₁とP₄付近の床面より磨製石鏃（図111-3・4）、また本址に伴うものか判然としませんが覆土中層より鉄製品（図111-2）が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。



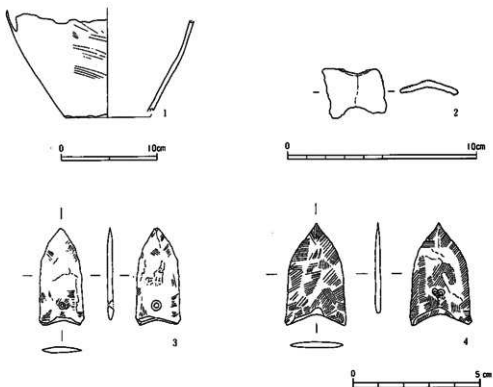
第108図 18号住居址実測図



第109图 18号住居址出土遺物実測図



第110図 19号住居址実測図



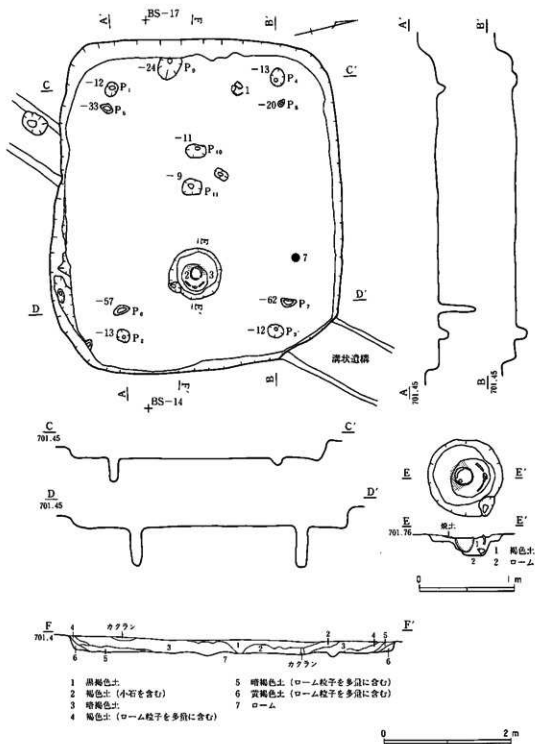
第111図 19号住居址出土遺物実測図

23号住居址 (第112図)

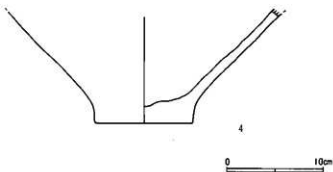
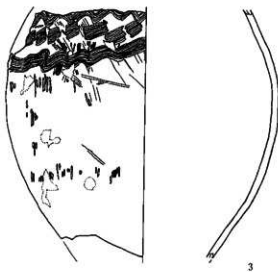
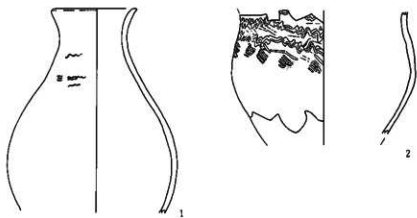
B地区で検出した。溝状遺構に南壁及び北東側隅の壁の一部を破壊されている。長軸5.2m、短軸4.6mであり、隅丸方形を呈する。主軸はN-15°-Wを示す。壁残高は27cm~16cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは11基検出した。位置的にみて主柱穴には新旧関係があると思われる。新しい主柱穴はP₁~P₄、旧主柱穴はP₅~P₈であると思われる。ピット、炉址の状態から本址は拡張されたことが考えられる。また、南壁と北壁の間の中心と炉址を結ぶ軸線上に深さ11cm~12cmに掘りくぼめたピット状の部分があり、間仕切りであることが考えられる。

炉址は土器埋設炉で、住居址中央より西壁側のP₁とP₄の間に位置している。炉址は長軸85cm、短軸80cmの不整円形に掘りくぼめた中に甕型土器を2重に埋設している。埋設土器の周囲及び土層断面に焼土がみられる。炉址の掘り方が2段になっていることから、旧炉址を再度利用し再構築されたことが考えられる。

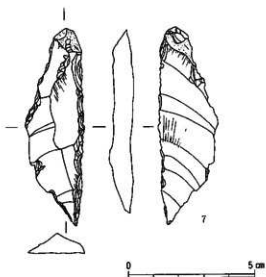
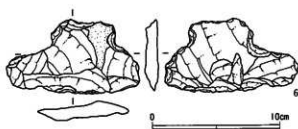
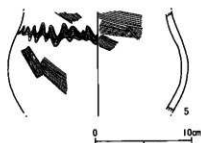
遺物は床面より甕型土器(図113-1)、覆土中層より甕型土器(図113-4)、甕型土器(図114-5)、石匙(図114-6)が出土している。床面直上より出土した黒曜石の異形石器(図114-7)は本住居址に伴うものか判然としない。本住居址の時期は遺物等から弥生時代後期であると思われる。



第112図 23号住居址実測図



第113图 23号住居址出土遺物実測図①



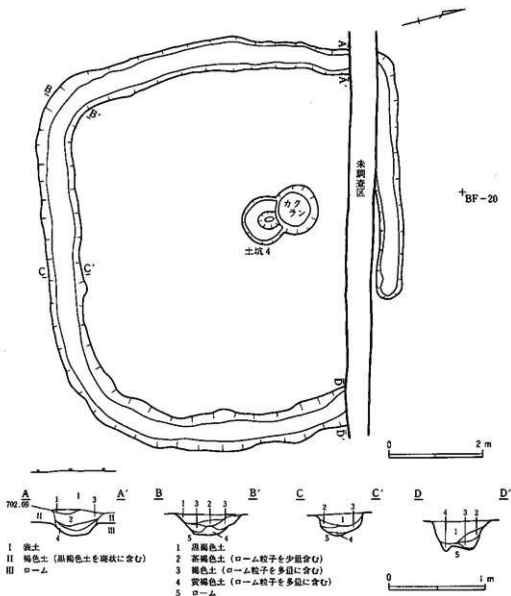
第114图 23号住居址出土遗物实测图②

(2)周溝墓

1号周溝墓 (第115図)

A地区及びB地区で検出した。一部、調査区外に入る。プランは長軸8.7m、短軸7.5mの不整方形に溝をめぐらせている。主軸はN-78°-Eを示す。周溝の幅は76cm-52cm、深さは32cm-30cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は平坦でなく全体的に凹凸がみられる。土橋は北東側にあるものと思われる。主体部は検出できなかった。遺物は周溝東側の覆土中層より弥生土器の破片が出土している。

本址の時期は遺物が少なく判然としないが、弥生時代後期になるとと思われる。

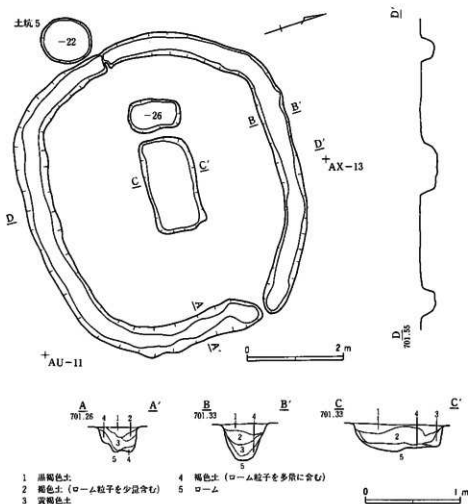


2号周溝墓 (第116図)

A地区で検出した。プランは長軸6.58m、短軸5.86mの不整隅丸方形に溝をめぐらせている。主軸はN-88°-Wを示す。周溝の幅は68cm~38cm、深さは38cm~32cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は平坦でなく、全体的に凹凸がみられる。土橋は北東側にみられ、幅12cmである。この土橋部分については検出時に掘り過ぎてしまったため、正確なことは判然としない。

主体部はほぼ中央にあり、長軸2.0m、短軸1.08m、深さ35cmの隅丸方形を呈する。この主体部の西側に長軸110cm、短軸72cm、深さ26cmの不整形を呈する掘り込みがみられるが、本址に伴うものかは判然としない。遺物は周溝及び主体部内には認められなかった。

本址の時期は遺物が認められず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。



第116図 2号周溝墓実測図

3号周溝墓（第117図）

A地区及びB地区より検出した。一部調査区外にはいる。9号住居址に周溝西側と10号住居址に周溝南側壁をそれぞれ破壊されている。プランは長軸9.8m、短軸7.5mの不整隅丸方形に溝をめぐらせている。主軸はN-87°-Wを示す。周溝の幅は104cm～24cm、深さは78cm～36cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は全体的に平坦な状態であるが、部分的に凹凸がみられる。周溝北東の一部は4号周溝墓の南西側の周溝に接している。土橋は北東側にみられる。主体部は検出できず、遺物も認められなかった。

本址の時期は遺物がみられず判然としなが、弥生時代後期になると思われる。

4号周溝墓（第118図）

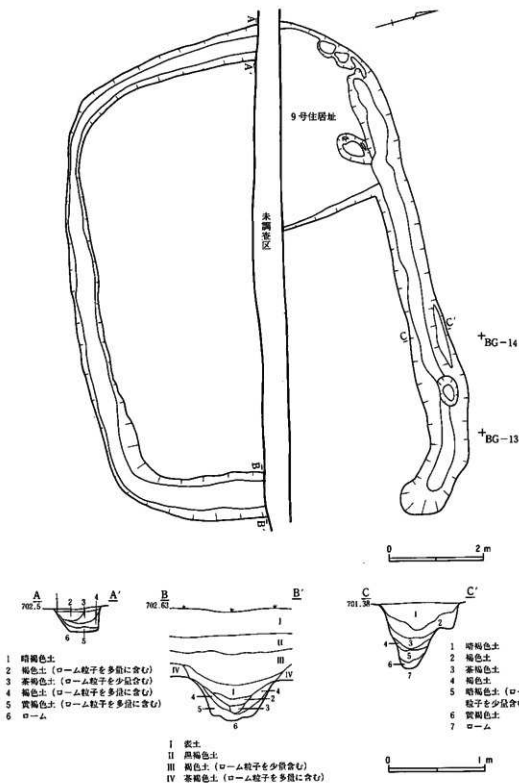
B地区で検出した。およそ2分の1程は調査区外になるため全容は不明であるが、隅丸方形に溝をめぐらせているものと思われる。主軸はN-85°-Wを示すものと思われる。検出した周溝の幅は100cm～60cm、深さは54cm～29cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部はほぼ平坦である。周溝南西の一部は3号周溝墓の北東側の周溝と接している。土橋は南側にみられ、幅65cmである。主体部は長軸2.2m、短軸1.5m、深さ26cmの不整隅丸方形を呈する。遺物は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としなが、弥生時代後期になると思われる。

5号周溝墓（第119図）

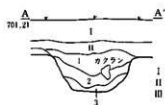
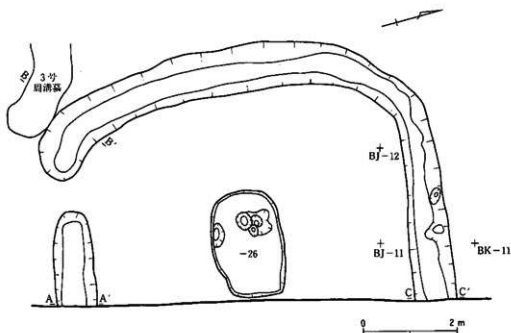
B地区で検出した。遺構の大部分は調査区外にはいるため全容は不明であるが、隅丸方形に溝をめぐらせているものと思われる。主軸はN-78°-Wを示すと思われる。検出した周溝の幅は156cm～80cm、深さは43cm～21cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は南側の周溝を除き、凹凸がみられる。土橋は南西側と北西側にみられ、南西側で幅150cm、北西側で幅84cmである。主体部は調査区外になると思われる。遺物は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としなが、弥生時代後期になると思われる。

6号周溝墓（第120図）

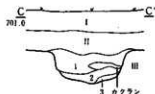
B地区で検出した。遺構の大部分は調査区外になるため全容は不明である。検出した周溝の幅は128cm～70cm、深さは40cm～36cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は全体的に平坦になっている。土橋及び主体部は検出できなかった。遺物は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としなが、弥生時代後期になると思われる。



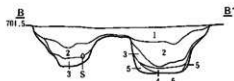
第117図 3号廣溝墓実測図



I 表土
II 茶褐色土
III ローム

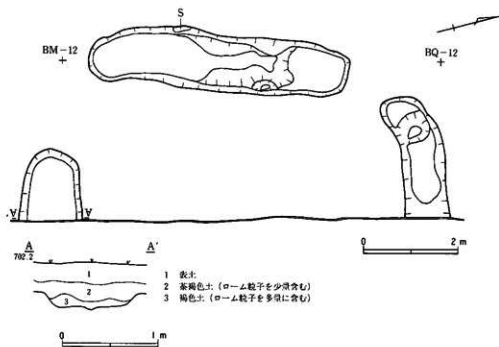


1 暗褐色土 (ローム粒子を少量含む)
2 褐色土 (ロームブロックを含む)
3 黄褐色土 (ローム粒子を多量に含む)

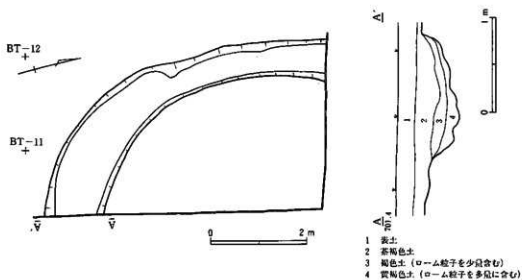


1 暗褐色土
2 褐色土 (ローム粒子を多量に含む)
3 黄褐色土 (ローム粒子を多量に含む)
4 褐色土 (ロームブロックを含む)
5 黄褐色土 (ローム粒子を多量に含む)
6 ローム

第118図 4号周溝墓実測図



第119図 5号周溝実測図



第120図 6号周溝実測図

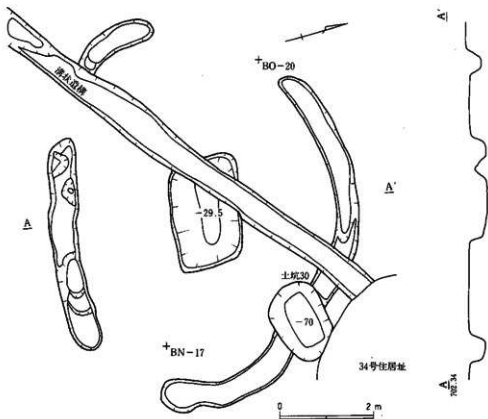
7号周溝墓 (第122図)

B地区で検出した。北東側の溝が土坑30の壁を破壊し、北東側の溝及び主体部の北側隅が溝状遺構に破壊されている。プランは長軸8.5m、短軸6.6mの不整楕円形に溝をめぐらせている。西側部分と南西部分で周溝が部分的に途切れる。主軸はN-80°-Wを示す。周溝の幅は68cm~44cm、深さは24cm~12cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝の底部はほぼ平坦だが、南側の周溝は凹凸がみられる。溝は西側で2箇所、南東側で1箇所途切れる部分があるが、土橋であるか判然としない。南東側隅の部分で幅1.62mである。

主体部はほぼ中央にあり、長軸2.28m、短軸1.48mの不整隅九方形を呈する。深さは29.5cmである。遺物は周溝覆土上層より鉄環(図121-1)が出土しているが、本址に伴うものであるか判然としない。主体部からの遺物の出土は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になるとと思われる。



第121図 7号周溝墓出土遺物実測図

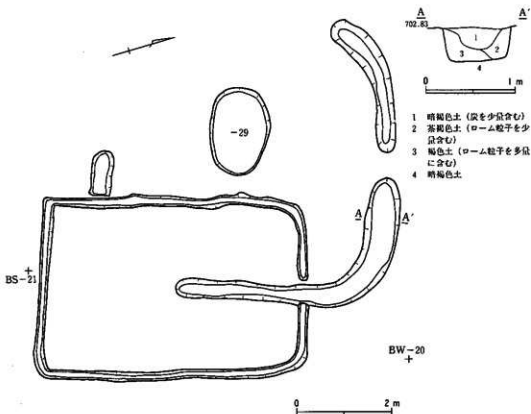


第122図 7号周溝墓実測図

8号周溝墓（第123図）

B地区で検出した。周溝址の北側の溝の一部を破壊している。また、配石遺構の一部を破壊していると思われる。検出できた周溝は北側と東側のみであり、南側及び西側では検出できなかったため全容は判然としない。主軸はN-65°-Wを示すと思われる。周溝の幅は72cm-32cm、深さは32cm-22cmである。溝の底部は暗褐色土層まで掘り込まれており周溝の底部はほぼ平坦となっている。周溝の一部が検出できなかったことから、部分的に暗褐色土層まで掘り込まれなかったところがあることが考えられる。土橋は判然としない。

主体部はほぼ中央に位置すると思われ、長軸182m、短軸128mの不整隅丸方形を呈する。深さは26cmである。遺物は主体部及び周溝からの出土は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になるとと思われる。



第123図 8号周溝墓・周溝址実測図

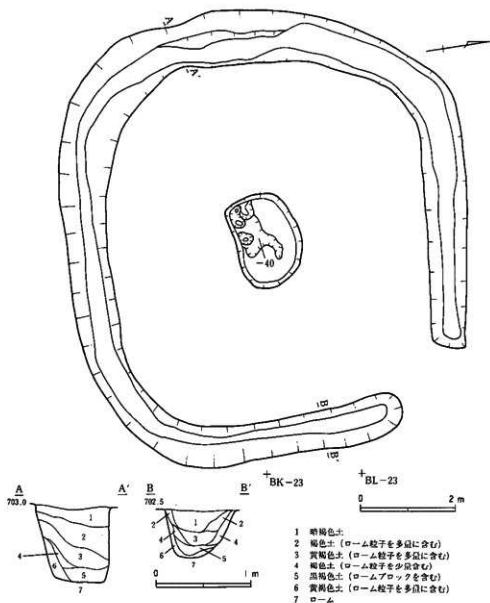
9号周溝墓（第124図）

B地区で検出した。プランは長軸9.3m、短軸8.5mの不整隅丸方形に溝をめぐらせている。主軸はN-89°-Wを示す。周溝の幅は128cm～72cm、深さ84cm～51cmである。ローム層まで掘り込まれ周溝底部は全体的にほぼ平坦となっている。土橋は北東側にみられ、幅は1.36mである。主体部はほぼ中央に位置し、長軸1.96m、短軸1.36mを測る不整隅丸方形を呈する。深さは40cmであり、底部には部分的に凹凸がみられる。

遺物は主体部及び周溝からの出土は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。

(3) 囲溝址（第123図）

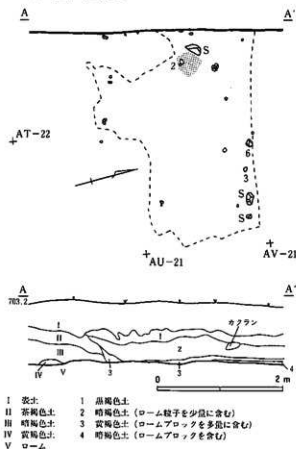
B地区で検出した。8号周溝墓に北側の溝の一部を破壊されている。長軸7.56m、短軸5.24mの隅丸方形に溝をめぐらせている。溝の幅は28cm～12cm、ローム層まで掘り込まれた溝の深さは17cm～13cmである。溝は北側の中央部分で一部途切れると思われる。溝で囲った内側及び、溝の外側においてピットは検出できなかった。また、遺物の出土もみられなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、8号周溝墓との切り合い関係から弥生時代後期になるものと思われる。



第124図 9号円溝墓実測図

第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居址



第125図 1号住居址実測図

2号住居址（第127図）

A区で検出した。住居址のほとんどは調査区外になると思われる。重機での表土掘削時に床面まで掘り込んでしまったため、プランは不明である。床面は暗褐色土層まで掘り込まれており、ロームブロックを含んだ暗褐色土による貼り床となっている。締まりは検出できた部分では堅く叩き締められており、締まりは良好である。また、床面の一部に焼土及び灰褐色粘質土がみられる。ピット、カマドは確認できなかった。

遺物は少なく、床面より土師器環（図128-1）、覆土中層より土師器内黒環（図128-2・3）、環（図128-4）が出土している。

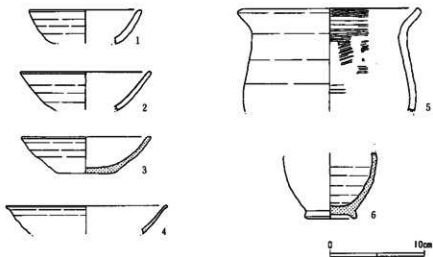
本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

1号住居址（第125図）

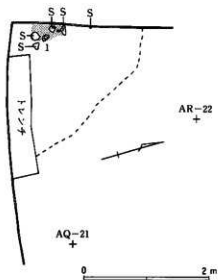
A地区で検出した。重機での表土掘削時に壁を掘り崩してしまったため、プランは不明である。床面は暗褐色土層まで掘り込まれており、ロームブロックを含んだ暗褐色土による貼り床となっている。この貼り床は部分的にしか検出できなかったが、全体的に締まりはあまり良くない。床面の一部にはわずかに焼土がみられる。ピット、カマドは確認できなかった。

遺物は土師器内黒環（図126-2）、須恵器環（図126-3）、小型短頸壺（126-6）、覆土下層より土師器内黒環（図126-1）、灰粘陶器碗（図126-4）、長胴甕（図126-5）が出土している。

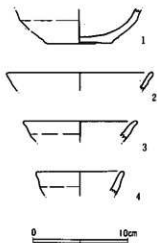
本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



第126图 1号住居址出土遺物実測図



第127图 2号住居址実測図



第128图 2号住居址出土遺物実測図

6号住居址 (第133図)

A区で検出した。覆土及び床面直上において多量の炭化物と焼土がみられたため、火災により廃屋となり、埋没した住居址と思われる。長軸5.5m、短軸5.2mの隅丸方形を呈する。

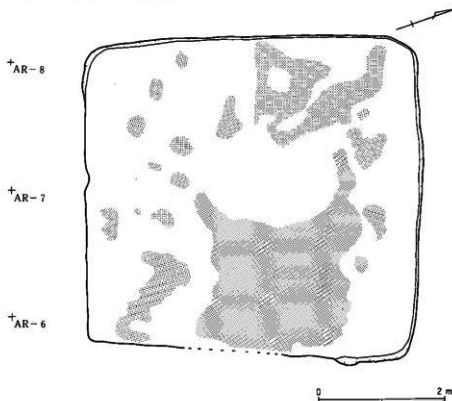
主軸はN-72°-Wを示す。壁残高は33cm～5cmである。周溝は認められなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締めりは全体的に良好である。住居址南東部の一部の床面は攪乱により破壊されている。

ピットは5基検出し、そのうちP₁～P₃が主柱穴と思われる。南東部に主柱穴の存在が想定されたが、検出できなかった。西壁中央部のカマドのほぼ対角線上に長軸129cm、短軸63cm、深さ14cmに掘り込まれた方形のくぼみがあり、入口施設であることが考えられる。この方形のくぼみ部分にはまとまった焼土と灰褐色粘質土がみられる。

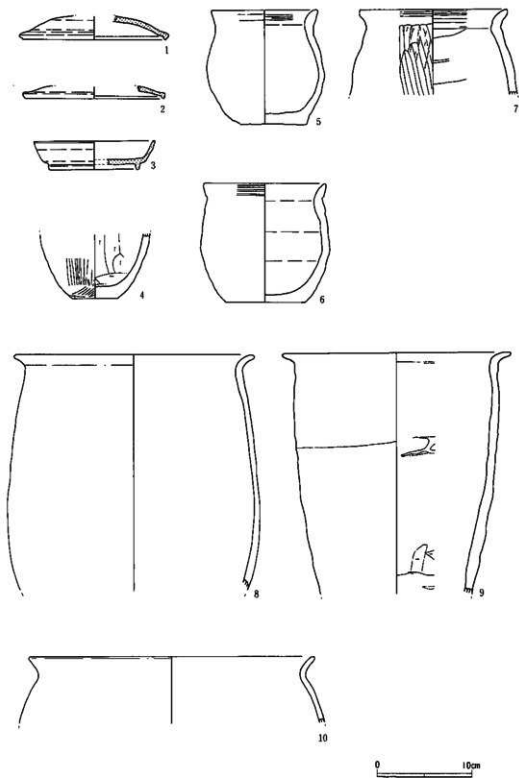
カマドは東壁のほぼ中央に構築されているが、攪乱により掘削されているためカマド袖の一部と床面を除きほとんど残っていない。カマド床面の焼土は厚く、カマドの使用が長期間であったことが考えられる。

遺物は土師器長胴甕(図131-8～10)、小型甕(図131-4～7)、須恵器環(図131-3)、坏蓋(図131-1・2)のほか、鉄器(図132-11)、鉄滓1個が床面及び床面直上より出土している。

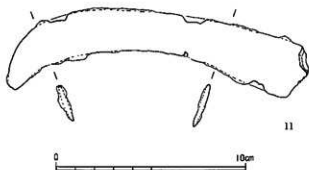
本址の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。



第129図 6号住居址焼土範囲図



第131图 6号住居址出土遺物実測図①



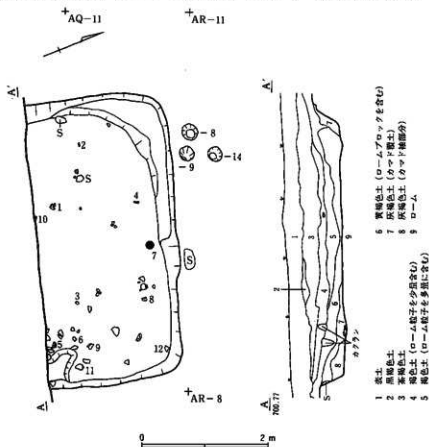
第132図 6号住居址出土遺物実測図②

周溝及びピットは認められなかった。住居址北西部分の床面より12cm程上に張り出し部分がみられる。この張り出し部分において貼り床はみられないが、他の住居址が重複している可能性がある。北壁の外側にピット状のくぼみがみられるが、本住居址に伴うものかは判然としない。

カマドは袖部分のみの検出で全容は不明である。カマド袖部分は灰褐色粘質土で構築されている。遺物は床面より土師器環 (図134-1)、内黒環 (図134-2・3)、長胴甕 (図134-11・12)、小

8号住居址 (第133図)

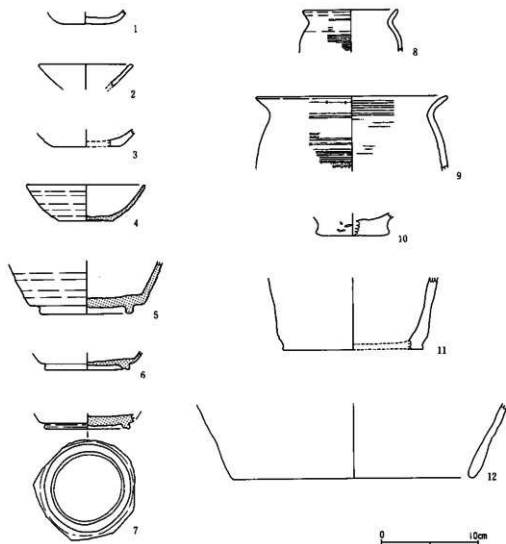
A地区で検出した。住居址の2分の1程は調査区外になるためプランは判然としないが、長軸4.5mの隅丸方形を呈していると思われる。主軸はN-69°-Wを示すと思われる。壁残高は44cm~36cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。



第133図 8号住居址実測図

型甕 (図134-8・9・12)、須恵器環 (図134-4～6)、転用碗 (図134-7) などが、床面より出土しているが、遺物の多くはカマド付近に集中している。

本住居址の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。



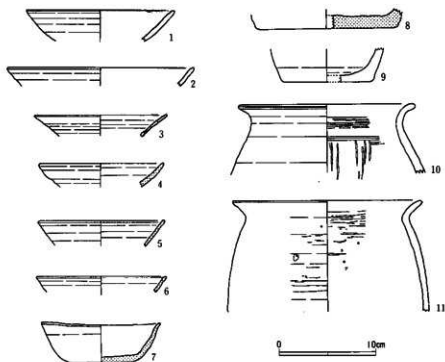
第134図 8号住居址出土遺物実測図

9号住居址（第136図）

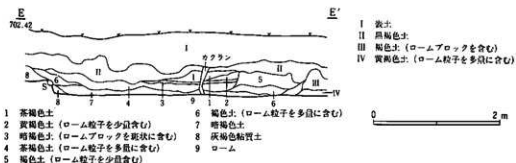
A地区とB地区にかけて検出した。10号住居址に東壁及び南壁を破壊され、3号周溝墓の北側の周溝を破壊している。住居址の西壁及び北壁と東壁の一部のみの検出であるためプランは判然としないが、不整隅丸方形を呈しているものと思われる。壁残高は西壁で22cm、東壁で1cmである。周溝は位置的にみて3号周溝墓の周溝の一部を再利用している可能性が考えられる。ピットは確認できなかった。カマドは西壁に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドであるが、そのほとんどは調査区外になるため、全容は不明である。

出土遺物は覆土上層より鉄滓が1個、土師器内黒環（図135-1・2）、長胴甕（図135-9～11）、須恵器壺破片（図135-8）、環（図135-3・7）がカマド周辺の床面及び床面直上より出土している。

本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



第135図 9号住居址出土遺物実測図

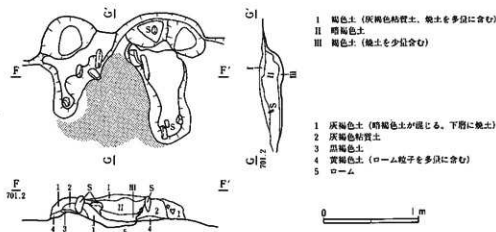


第137図 7・9号住居土層断面図

10号住居 (第136図)

A地区で検出した。4号住居の北東隅と9号住居の南壁及び床面を破壊している。また、3号周溝墓の南側溝の覆土上に黒褐色土にロームブロックを少量含んだ貼り床を施している。長軸4.8m、短軸4.5mの隅丸方形を呈する。主軸はN-72°-Wを示す。壁残高は12cm～5cmである。周溝は幅15cm～5cm、深さ15cm～7cmで、カマド周辺を除き壁下全域にめぐらされている。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ビットは8基検出した。主柱穴はP₁～P₄であると思われる。北西壁下に長軸66cm、短軸64cm、深さ10cmの土坑状の掘り込みがみられる。用途については判然としないが、貯蔵穴の可能性が考えられる。西壁下のP₅・P₆は入口施設になると思われる。また、カマド東側にビット状の掘りくぼみがみられるが、本住居に伴うものであるかは判然としない。カマドは東壁のほぼ中央に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマド床面の焼土は厚く、長期間火熱をうけていたことが考えられる。

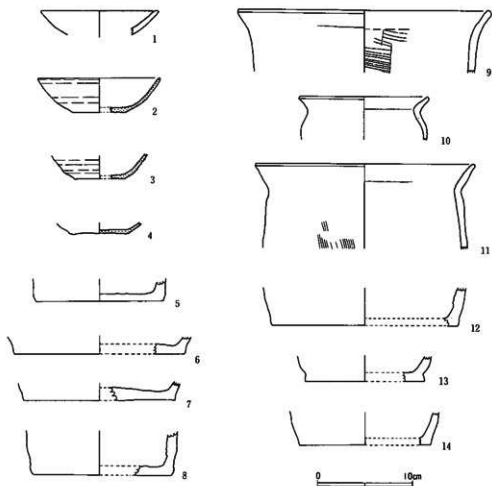
出土遺物は、土師器内黒環 (図139-1)、長胴甕 (図139-5～9・11～14)、須恵器環 (図139-2～4)が出土している。主にカマド周辺に集中しているが、覆土上層及び中層からの破片の出土も



第138図 10号住居カマド実測図

多い。

本址の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。



第139図 10号住居址出土遺物実測図

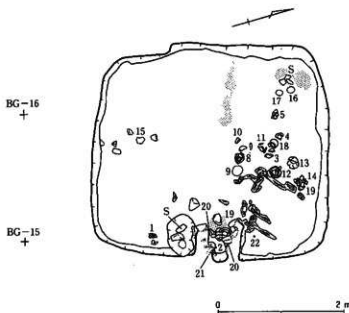
11号住居址 (第140図・第141図)

B地区で検出した。覆土及び床面に多量の炭化物・焼土がみられることから、火災により廃屋となり、埋没した住居址であると考えられる。

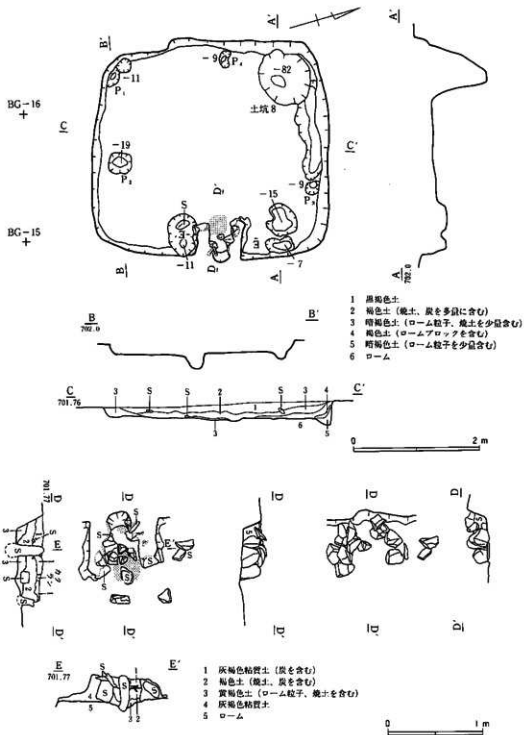
長軸3.8m、短軸3.4mの隅丸方形を呈する比較的小型の住居址である。主軸はN-19°-Wを示す。壁残高は20cm～18cmである。北壁下に幅33～23cm、深さ4cmの掘り込みがみられるが、周溝であるか判然としない。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは4基検出したが、支柱穴は位置的にみてP₁～P₃と考えられる。北西側に支柱穴の存在が想定されたが検出できなかった。住居址北西部の隅に長軸93cm、短軸78cm、深さ82cmの土坑状の掘り込みがみられる。用途は判然としないが貯蔵穴の可能性が考えられる。

カマドは東壁のほぼ中央に構築されている。保存状態は極めて良好で、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。保存状態の良さから支脚石は立った状態で出土した。支脚石は長さ42cmの縦長の砂岩を用いている。カマド床面に焼土があまりみられず、袖部においても火焼の影響がほとんどみられないことから、使用期間の短かったことが考えられる。

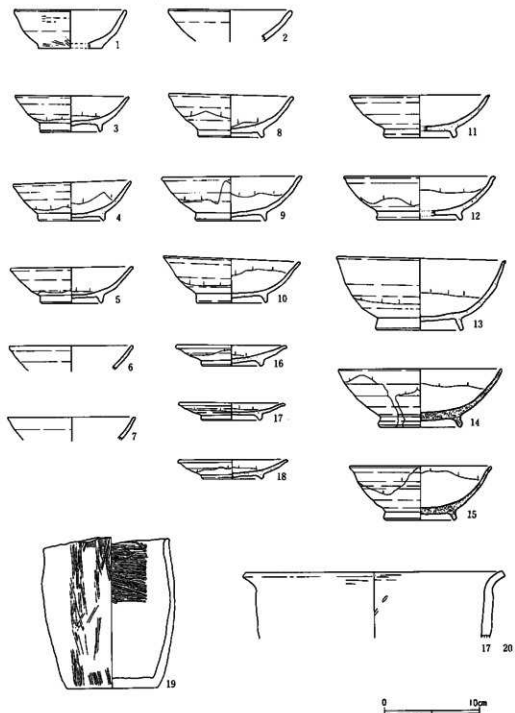
遺物は本址が火災住居であることから、保存状態はたいへん良好で、土師器坏 (図142-1・2) 小型甕 (図142-18、図143-20・21)、灰釉陶器碗 (図142-3～15)、皿 (図142-16～17) と鉄器 (図143-24) がカマド周辺の床面及び床面直上より出土している。本址の時期は遺物等から、平安時代中期であると思われる。



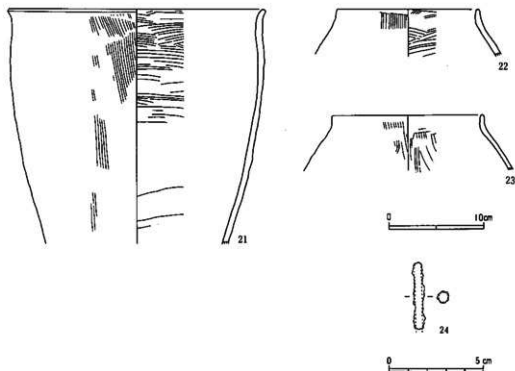
第140図 11号住居址出土遺物位置図



第141図 11号住居址実測図



第142图 11号住居址出土遗物实测图①



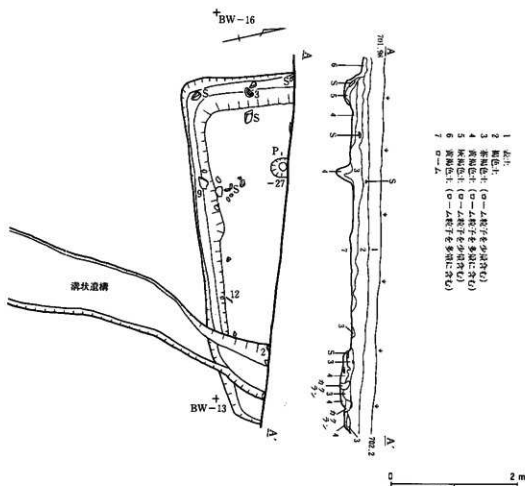
第143図 11号住居址出土遺物実測図②

12号住居址 (第144図)

B地区で検出した。住居址のほとんどは調査区外に入っているため、4分の1程の検出となった。調査地B区の北東側から南西に延びる溝状遺構に南壁及び床面を破壊されている。プランは判然としないが、長軸4.7m程の隅丸方形を呈すると思われる。壁残高は14cm～12cmである。周溝は幅48cm～29cm、深さ12cm～6cmで、東壁付近を除く検出した範囲の壁下全域にめぐらされている。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的に良好であるが、東壁では貼り床はみられない。ピットは1基検出した。位置的にみて主柱穴の1つになると思われる。

遺物は土師器長胴甕 (図145-9・10)、小型甕 (図145-6・11)、須恵器坏 (図145-7・10)、坏蓋 (図145-1・2)、長頸壺口縁部 (図145-7)、鉢 (図145-8)、刀子 (図145-12) が床面及び床面直上より出土している。

本址の時期は遺物等から、奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



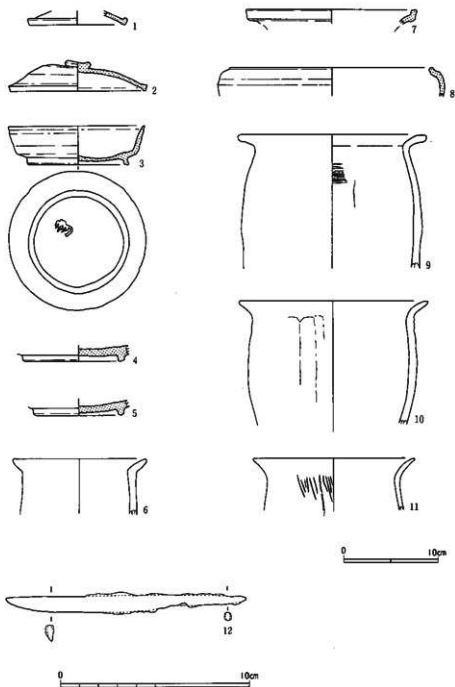
第144図 12号住居址実測図

15号住居址 (第146図)

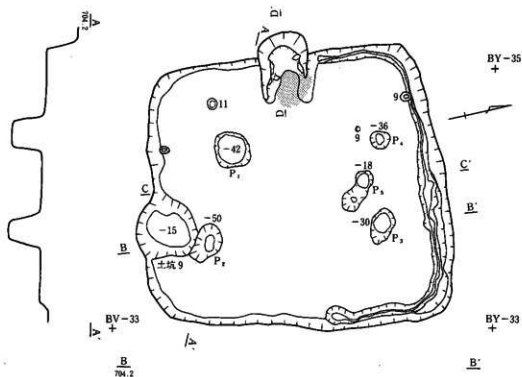
B地区で検出した。長軸4.62m、短軸4.6mの不整隅丸方形を呈する。主軸はN-83°-Wを示す。壁残高は西壁で54cm、東壁で9cmである。周溝は住居址の主軸より北側部分の西壁カマド部分から北壁下全域と東壁下のほぼ中央部の間にめぐらされている。幅は27cm~7.5cm、深さは10cm~4cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締めりは全体的に良好である。住居址南東側、南西側、北東側の一部で貼り床のみられないところがある。ピットは5基検出した。主柱穴はP₁~P₄であると思われる。P₂と南壁の間に長軸99cm、短軸90cmの不整円形を呈する土坑状の掘り込みがみられる。用途については判然としないが貯蔵穴の可能性が考えられる。

カマドは西壁のほぼ中央に構築されており、黄褐色粘質土と転石による石芯転石カマドである。カマド床面と袖部分には焼土がみられる。

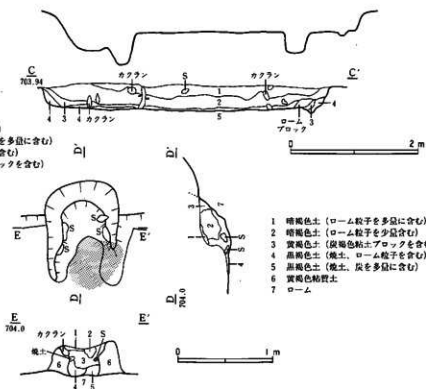
遺物は覆土中層及び下層からの出土が多く、土師器環 (図147-1)、内黒環 (図147-2)、灰釉



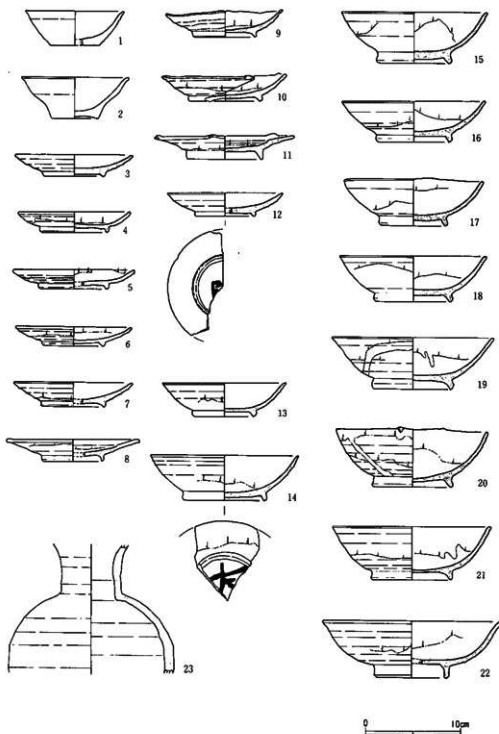
第145图 12号住居址出土遺物実測図



- 1 暗褐色土 (炭を含む)
- 2 褐色土 (ローム粒子を多量に含む)
- 3 暗褐色土 (炭を多く含む)
- 4 褐色土 (ロームブロックを含む)
- 5 ローム



第146図 15号住居址実測図



第147图 15号住居址出土器物实测图

陶器碗(図147-13~22)、皿(図147-3~8・10・12)、長頸壺(図147-23)が出土している。カマド周辺の床面及び床面直上より出土している遺物は灰釉陶器皿(図147-9・11)がある。

本址の時期は出土遺物等から、平安時代中期であると思われる。

17号住居址(第148図)

B区で検出した。縄文時代の土器廃棄場内に構築されているため、覆土より大量の縄文土器片が出土している。長軸6.57m、短軸5.99mの不整隅九方形を呈する比較的大型の住居址である。主軸はN-82°-Wを示す。壁残高は37cm~8.5cmである。周溝は検出できなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれ、ロームブロックを含んだ暗褐色土を叩き締めた貼り床となっているが、締まりは全体的に軟弱である。ピットは5基検出した。主柱穴はP₁~P₄であると思われる。P₁・P₄は重複関係があると思われるため、本址は拡張された住居址である可能性がある。

カマドは東壁のはば中央に構築されているが、攪乱により完全に破壊されている。カマド周辺の床面にはカマドを構築していたと思われる灰褐色粘質土と転石がみられる。

遺物は覆土中層及び下層より土師器内黒坏(図149-1~5)、内黒碗(図149-6)、小型甕(図149-11~15)、須恵器坏(図149-7~10)、坏蓋(図149-12・13・16)、カマド北側床面より須恵器長頸壺の底部(図149-14)の他、覆土上層及び中層より鉄滓が4個出土している。また、覆土中より出土している遺物の中で、須恵器破片の出土量は特に多い。

本住居址の時期は遺物等から、奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

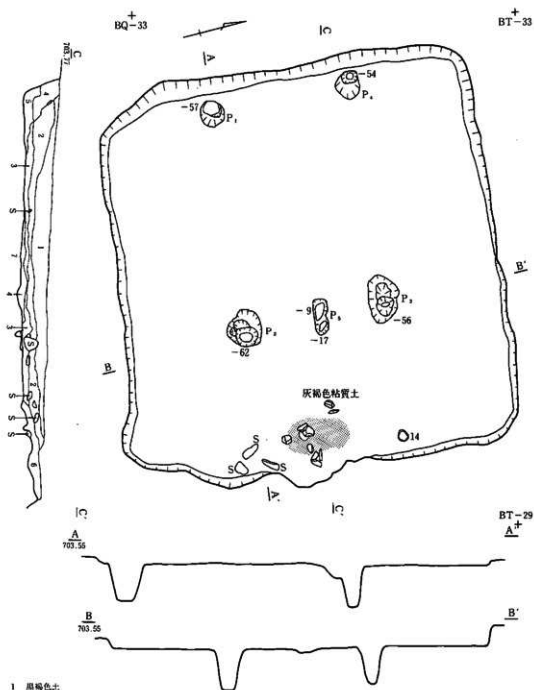
20号住居址(第150図)

B地区で検出した。24号住居址の東側の壁と床面の一部を破壊している。長軸4.08m、短軸4.02mの不整隅九方形を呈する。主軸はS-88°-Wを示す。壁残高は28cm~25cmである。周溝は住居址西側壁下から南壁下にかけてめぐらされている。幅は25.5cm、深さは12~5cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは4基検出した。これらが主柱穴と思われる。西壁下に深さ5cm~3cmの浅いくぼみがみられるが、入口施設の可能性が考えられる。

カマドは東壁の中央よりやや北側に構築されているが、残存している部分はわずかで、袖部分がわずかにみられる。カマド付近の床面からはカマドを構築していたとみられる砂岩及び灰褐色粘質土が出土していることから石芯粘土カマドと考える。カマド床面には厚さ3cmの焼土がみられる。

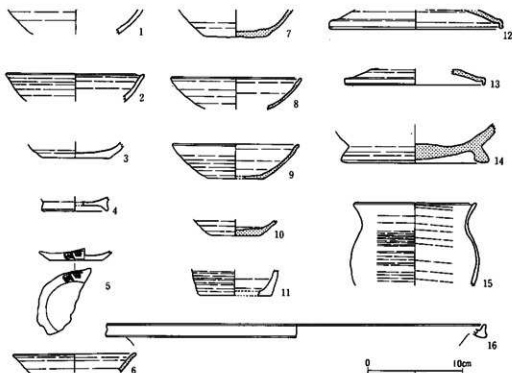
遺物はカマド周辺より土師器小型甕(図151-2・3)、住居址中央の床面より須恵器坏(図151-1)、住居址南西隅の床面直上より鉄器(図151-4)が出土している。

本址の時期は遺物などから奈良時代末から平安時代であると思われる。



- 1 黒褐色土
- 2 褐色土
- 3 暗褐色土 (ローム粒子を少量含む)
- 4 褐色土 (ローム粒子を多量に含む)
- 5 質褐色土 (ローム粒子を多量に含む)
- 6 灰褐色粘質土 (焼土を含む)
- 7 ローム

第148図 17号住居址実測図



第149図 17号住居址出土遺物実測図

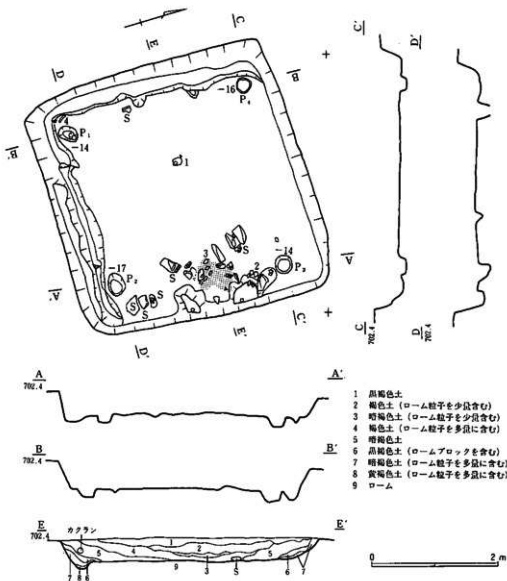
21号住居址 (第153図)

B地区で検出した。22号住居址の北東側部分を破壊している。西壁の一部と南壁を検出できなかったためプランは判然としなが、長軸4.08m、短軸4.05mの隅丸方形を呈していると思われる。主軸はN-79°-Wを示す。壁残高は35cm~15cmである。周溝はカマド部分を除く西壁下と北壁及び東壁下隅にめぐらされており、幅24~12cm、深さ12cmである。また南壁の位置すると思われる部分に長さ1.8m、幅30~12cm、深さ12cmの溝状の掘り込みがみられ、本址に伴う周溝と思われる。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは検出できなかった。

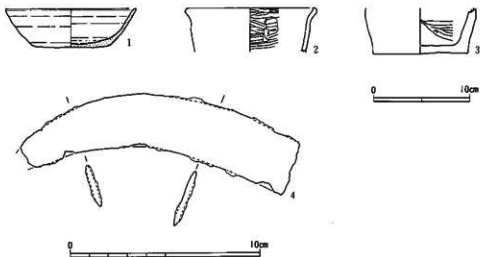
カマドは西壁のほぼ中央に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマドを構築している転石は多く密に組まれている。これらはすべて砂岩である。カマドの主軸は南東方向へ傾く形となっている。カマドの床面とその南側及び、東壁下の一部に焼土がみられる。

遺物はカマド内部より土師器長胴甕 (図154-10・12-14)、内黒杯 (図154-1~3・5・6)、カマド南側袖付近より内黒碗 (図154-4)、カマド北側の床面より須恵器長頸壺の (図154-11) が出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。



第150図 20号住居址実測図



第151図 20号住居址出土遺物実測図

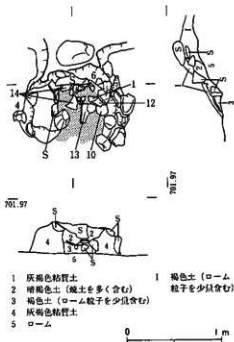
22号住居址 (第153図)

B地区で検出した。21号住居址に北東側部分を破壊されているためプランは判然としないが、不整隅丸形を呈していると思われる。主軸はN-87°-Eを示すと思われる。壁残高は30cm-24cmである。周溝は検出した壁の東壁下を除く全域にめぐらされている。幅は30-12cm、深さは11-8cmである。床面はローム層まで掘り込まれている。貼り床はロームを叩き締めたものであるが、住居址中央より西側の一部にしかみられない。ピットは検出できなかった。

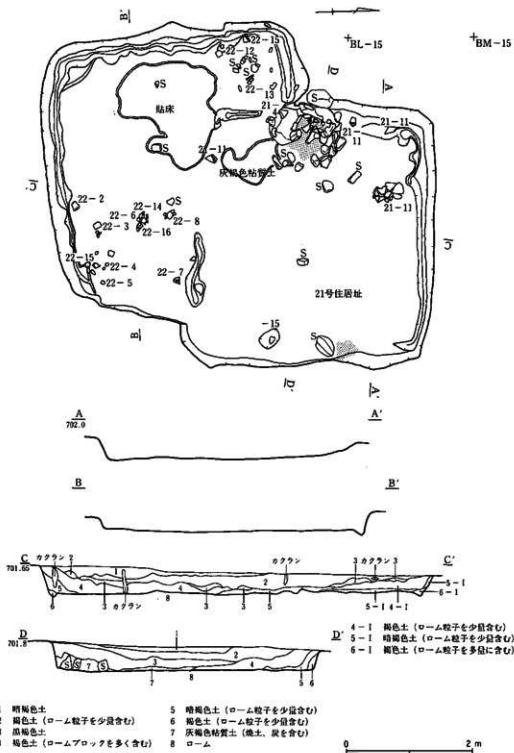
カマドは東壁下にわずかであるが焼土と灰褐色粘質土が認められたことから、東壁に構築されていたと思われるが、消滅しているため確認できなかった。21号住居址が構築された際に破壊されたものと考えられる。

遺物は床面及び床面直上より土師器杯 (図155-9)、長胴甕 (図155-12・13)、小型甕 (図155-11・14・15)、須恵器杯 (図155-1-8)、鉢 (図155-16) の他、覆土上層より鉄滓が3個出土している。

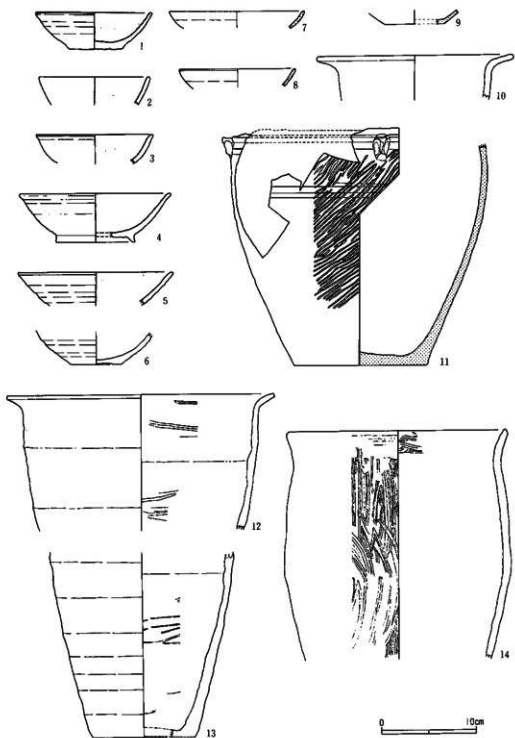
本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。



- 1 灰褐色粘質土
- 2 増褐色土 (焼土を多く含む)
- 3 褐色土 (ローム粒を少量含む)
- 4 灰褐色粘質土
- 5 ローム
- 6 褐色土 (ローム粒を少量含む)



第153図 21・22号住居址実測図

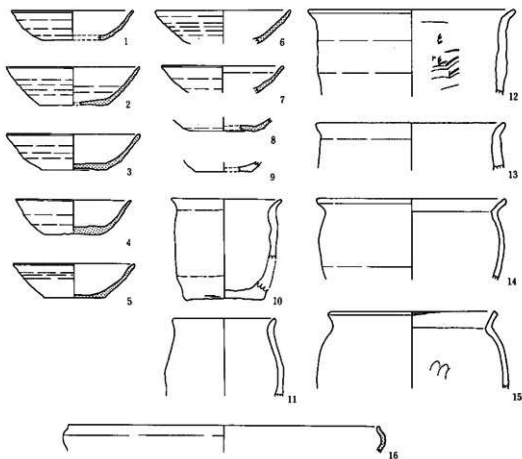


第154图 21号住居址出土物実測図

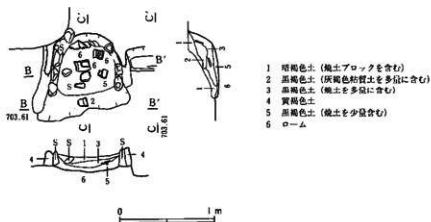
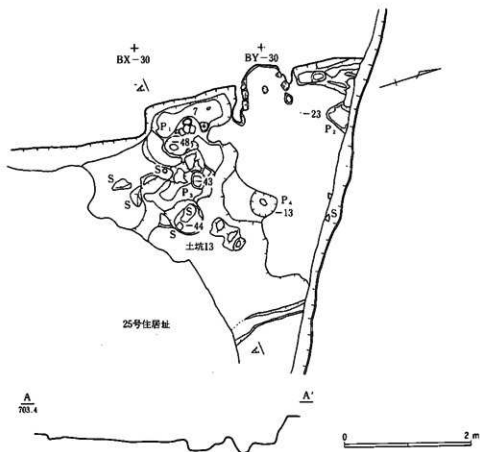
26号住居址 (第156図)

B地区で検出した。住居址の南側の一部は25号住居址の覆土上に構築されている。住居址北側が調査区外に入る。25号住居址を検出する際、南壁を掘削してしまったためプランは判然としなが、長軸3.93mの隅丸方形を呈しているものと思われる。主軸はN-84°-Wを示すと思われる。壁残高は西壁で17cm、東壁で15cmである。周溝は西壁下及び東壁下より検出した。西側で幅15cm～6cm、深さ16cm、東側で幅21cm～15cm、深さ4cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており締まりは全体的に良好であるが、東壁付近には貼り床はみられない。ピットは4基検出した。支柱穴は P_1 ・ P_2 になるとと思われる。カマドは西壁に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマド床面及び袖部分には焼土はあまりみられない。

遺物は覆土中層より土師器長胴甕 (図157-1・3・4)、床面及びカマド内部より土師器長胴甕



第155図 22号住居址出土遺物実測図



第156図 26号住居址実測図

(図157-2・5・6)、須恵器長頸壺(図157-7)が出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。

36号住居址(第158図)

B地区で検出した。39号住居址の大部分を破壊している。また、41号住居址の覆土上に構築されている。長軸6.1m、短軸5.7mの不整隅丸方形を呈する。主軸はN-83°-Wを示す。壁残高は45cm-25cmである。南壁は検出できなかった。また、周溝は認められなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれているが、住居址の北側一部はローム層まで掘り込まれている。貼り床はカマドから北側部分はロームブロックを多量に含んだ暗褐色土を叩き締め、締まりは良好であるが、カマドから南部分は貼り床がみられない。ピットは4基検出した。これらが主柱穴であると思われる。位置的にみて全体的に北側によった形となっている。カマドは西壁の中央よりやや北側によったところに構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマドの主軸は住居址中央を向くように斜めに構築されている。カマド床面の焼土は厚く、長期間火熱を受けていたことが考えられる。

遺物は覆土中層及び下層から土師器内黒坏(図161-1~3)、長胴甕(図162-21~23)、小型甕(図161-11~16、図162-17~20)、灰釉陶器椀(図161-5~10)が出土している。また、カマド左側袖部より灰釉陶器椀(図161-4)が完形で出土している他、刀子(図162-24)が出土している。

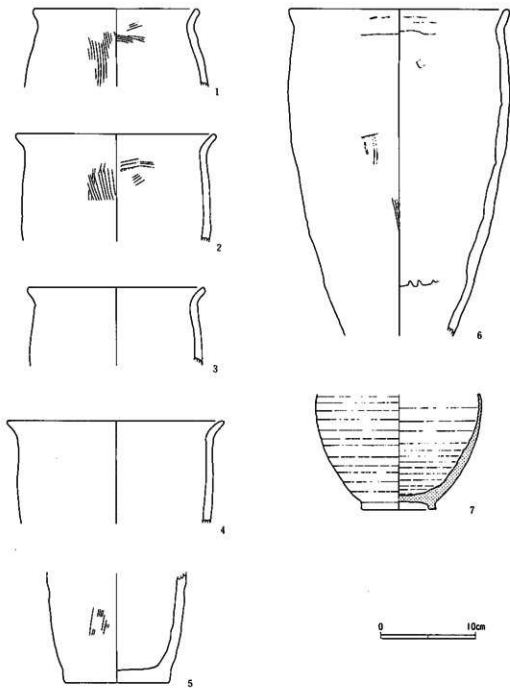
本址の時期は遺物などから平安時代中期であると思われる。

39号住居址(第158図)

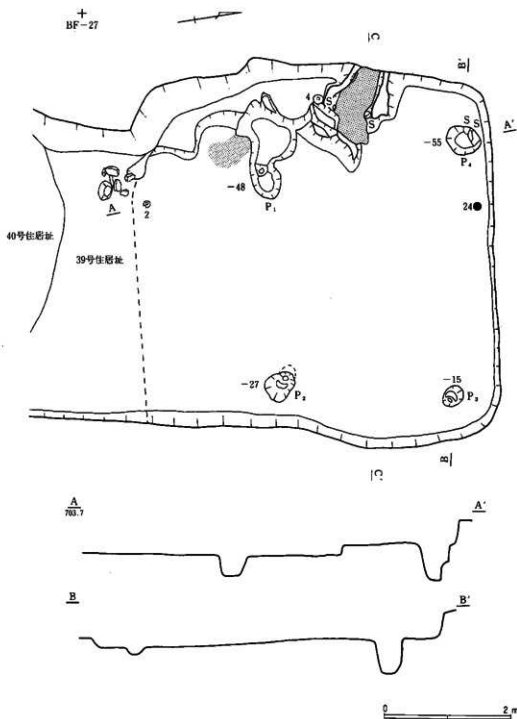
B地区で検出した。40号住居址の北側壁を破壊している。また、36号住居址にその大部分を破壊され、検出できた壁は西壁の一部のみであるためプランは判然としない。西壁の壁残高は39cmである。周溝は検出できなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれ、ロームブロックを多く含んだ暗褐色土を叩き締められているが、締まりは全体的に軟弱である。ピットは検出できなかった。カマドは36号住居址にほとんどが破壊され、西壁下に転石しか残っておらず全容は不明であるが、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドであると思われる。転石の下層にはわずかに焼土が認められた。

遺物は覆土中層より土師器内黒坏(図163-1)、長胴甕(図163-4~7)、須恵器坏(図163-3)、坏蓋(図163-2)、刀子(図163-8・9)が出土している。

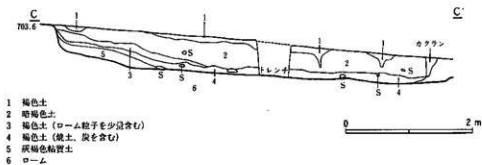
本址の時期は遺物などから奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



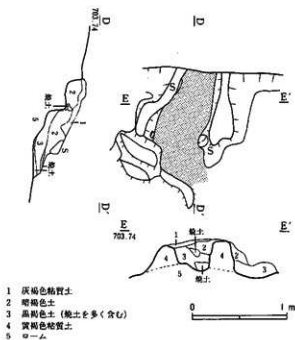
第157图 26号住居址出土遗物实测图



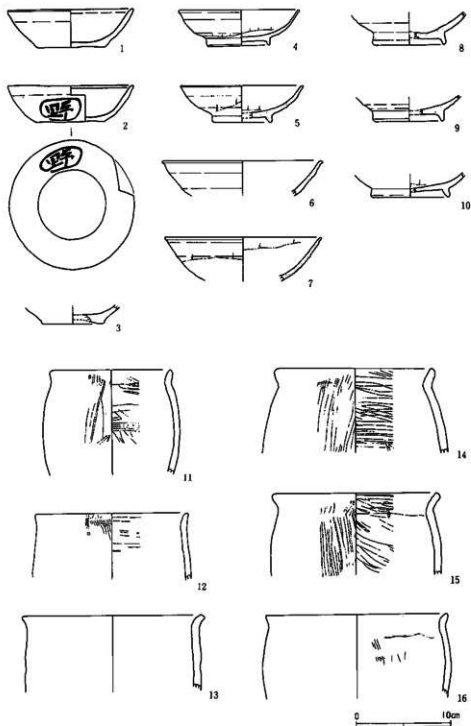
第158图 36·39号住居址实测图



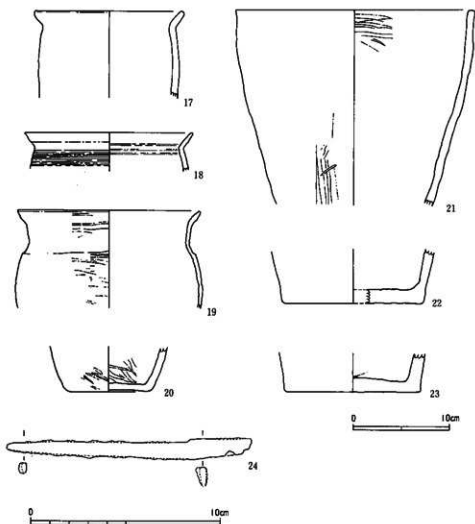
第159図 36号住居址土層断面図



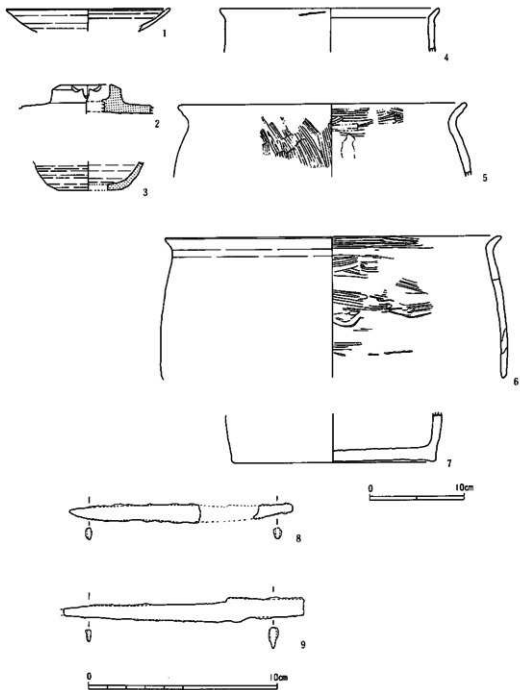
第160図 36号住居址カマド実測図



第161圖 36号住居址出土遺物実測図①



第162図 36号住居址出土遺物実測図②



第163图 39号住居址出土遺物実測図

第4節 その他の遺構と遺物

(1) 竪穴住居址

7号住居址 (第137図)

A地区で検出した。A地区側で検出した9号住居址覆土においてわずかに床面を確認した。プランは表土を掘削する際に掘り崩してしまったため不明である。土層断面では東壁の立ち上がりは確認できたが、西壁は確認できなかった。これは近世の乱瓦により破壊されていることが考えられる。また、B地区側での9号住居址覆土の土層断面では貼り床は認められなかった。貼り床は黒褐色土にロームブロックが少量混じるものである。

出土遺物がみられず、時期は判然としないが平安時代前期以降の住居址であると思われる。

14号住居址

B地区北西部の調査区外との境で検出した。貼り床の一部を検出したのみであるため、プランは不明である。壁・ピット・炉またはカマド等は確認できず、遺物の出土もなかったため本址の時期は不明である。

(2) 掘立柱建物址

1号掘立柱建物址 (第164図)

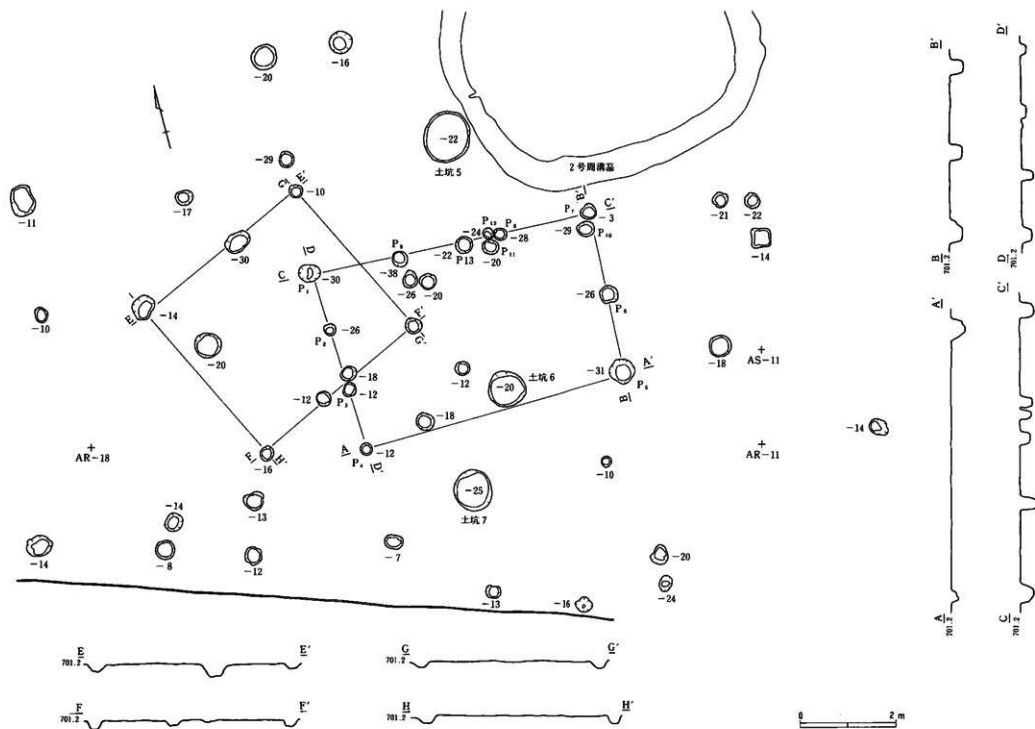
A地区で検出した。2号周溝墓の南側に位置する。長軸5.9m、短軸3.5mの長方形を呈し、長軸方向はN-89°-Wを示す。柱穴は不規則な配置となっており、P₁は北側へずれている。また、柱間においても東列を除いて不規則で、東列で北方向から180cm-180cm、西列で北方より116cm-132cm-132cm、南列で564cm、北列で西方向より176cm-215cm-188cmである。規模はおおよそ3間×2間である。P₁₀~P₁₃は補助的な支柱であることが考えられる。

柱穴の平面形は円形を呈し、覆土は黒褐色土とローム粒子を多量に含む褐色土の2層を基本としている。遺物は柱穴内及びその周辺からの出土はみられなかった。本址の時期は、判断する材料が乏しいため不明である。

2号掘立柱建物址 (第164図)

A地区で検出した。2号周溝墓の西側に位置する。長軸4.08m、短軸3.9mの長方形を呈し、長軸方向はN-64°-Eを示す。柱間は東列で3.84m、西列で3.9m、南北列で西方向より244cm-164cmを測る。規模はおおよそ2間×2間となる。

柱穴の平面形は円形を呈し、覆土は黒褐色土とローム粒子を多量に含む褐色土の2層を基本としている。遺物は柱穴及びその周辺からの出土はみられなかった。本址の時期は、判断する材料



第164图 1·2号孤立柱建物址、柱穴遺構実測図

が乏しいため不明である。

(3) 柱穴遺構 (第164図)

A地区で検出した。掘立柱建物址の周囲及び内側に26個を数える。全体的に掘立柱建物址の西側と南側に集中している。全てローム層まで掘り込まれているが、平面形及び底部の掘り方、深さなど共通性はみられない。覆土は黒褐色土とローム粒子を多量に含む褐色土の2層を基本としている。遺物は出土しておらず、本址の性格・時期等は不明である。

(4) 溝状遺構 (第6図)

B地区で検出した。12号住居址東側一部、23号住居址の南壁及び北壁の一部、24号住居址の南壁及び北壁の一部、7号周溝墓の溝及び主体部の一部をそれぞれ破壊している。検出した溝の長さは57.3m、幅は195cm～115cmであり、N-46°-E方向に延びている。遺物は覆土上面より流入した縄文土器片がわずかに出土している。本址の時期は遺構に伴う遺物がみられず判然としないが、12号住居址との切り合い関係から、平安時代前期以降のものであると思われる。

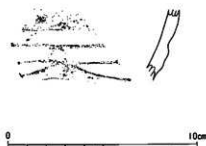
(5) 遺構外出土遺物

トレンチ調査及び上面確認を実施した際、出土した遺物のなかで本遺跡より検出した遺構の時期に該当しないもの、または特徴的なものをまとめた。

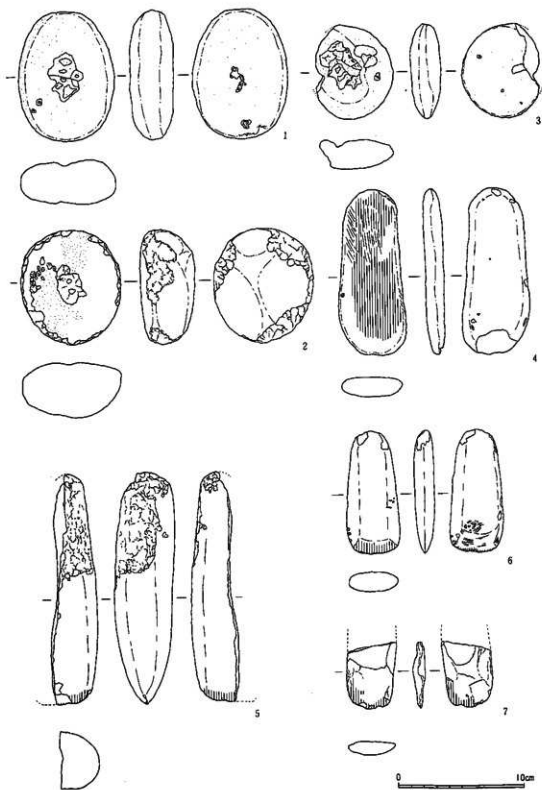
縄文時代では密度に差異のあるものの、調査地全域より縄文中期中葉から後葉にかけての土器片が出土しているが、1点のみ晩期の土器片(図165-1)が認められた。また、磨製石斧(図166-5-7)、凹石(図166-1-3)、砥石(図166-4)、黒曜石のチップ等が出土している。

弥生時代のは遺構外より遺物の出土は認められなかった。そのほか、時代は判然としないが、鉄器(図167-1-5)・鉄滓(第13表)が出土している。

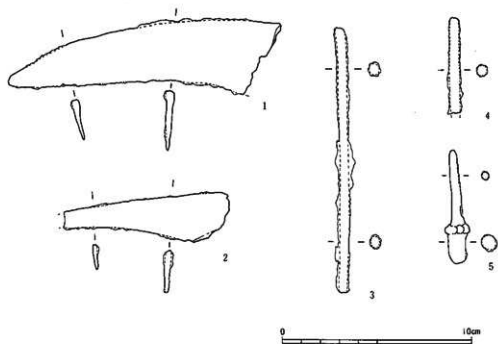
中世以降では撚鉢・染付けの小皿等、陶磁器の破片が少量出土している。



第165図 遺構外出土土器拓影図



第166圖 遼構外出土遺物実測図①



第167図 遺構外出土遺物実測図②

第4章 総 括

今回の調査は予想を遙かに上回る遺構、遺物の量と内容であり、諸々の事情によりこれらを完全に整理、検討を加えることはできなかったため本報告書では資料の提示を主とするにとどまったが、現段階での成果と、今後の課題を上げてみたい。

縄文時代では、中期中葉から後葉にかけての住居址18軒と土器廃棄場、土器を配列した特殊遺構、配石址等を検出した。住居址は調査区の北側に集中していることから、集落の中心は調査地北側になると思われる。中期中葉の住居址の配置は全体的に弧状となっていることから、環状ないし馬蹄形の集落構造となっていることが考えられる。住居址の規模としても比較的大型のものと小型のものがあることに注意しなければならない。

中期後葉になると環状ないし馬蹄形の集落形態から次第に周囲に拡散していく傾向になると思われるが、調査範囲内の検出した住居址のみでは結論を出すには不十分である。

土器廃棄場は時間的な制約によりその範囲を示すのみとなってしまった。廃棄土器が特殊遺構の周辺に集中していることから、土器の配列から廃棄行為へと変化していったことが考えられるが、廃棄された土器片の分類整理が不完全であるため、はっきりとこの流れをつかむことは現段階ではできない。今後の課題として取り組んでいきたい。

土器を配列した特殊遺構の検出は、今回の調査の中で大きな成果の一つであったといえる。台付浅鉢型土器を取り巻くように半月状に配置された土器はいずれも口縁が南方を向いており、立っていたものが自然に倒れたとは考えられず、意識的に方向性をもたせて横倒しにしたものと思われる。周囲に配置された土器についても1個体のものと2個体のものがみられ、2個体のものはいずれも並列した状態であり、なんらかの意味をもつものと考えられる。台付浅鉢型土器の設置状況及び周囲の土器の配置からみて、明らかに祭祀的行為の行われたことが推定されるが、それがどのような意味をもつものかははっきりしない。配置された土器の周囲から火熱を受けた石及び土器片が出土していることから、何らかの形で火を伴うものであったことが想起される。

配石址は保存状態があまり良好でなかったことから、帰属時期・用途など問題と課題が多く残るものである。

遺物では人体文の付いた有孔銅付土器、5本の指に爪・関節部が表現された土器破片、裏に渦巻状の文様をもつ器台など特異なものがあり、集落を構成していた集団の特徴を表すものであると思われる。特に人体文付有孔銅付土器は両腕の肘より先が欠落しているものの、人体の五肢がはっきりと表現されており、肩部から離されて付けられている奇異な表現がされた顔など有孔銅付土器だけでなく、集落を構成していた人々の精神性を考察する上でたいへん意義の大きいものとする。土器類では祭祀色の強いものが多く見られるのに対し、石器類では石棒の出土がまったくみられなかったことは偶然と考えるべきであろうか。

今回の調査では集落の一部の検出であったため全体像ははっきりとしないものの、その規模、

内容ともに周囲の遺跡を圧倒するものである。久保上ノ平遺跡の南に位置する天伯遺跡の調査においても、量的にみて中期中葉の遺構、遺物が多いことから、この周辺に幾つかの集落が帯状に点在し、その中でも本遺跡が拠点的な役割を果たしていたことが推測されるが、村内での天竜川右岸段丘上の縄文集落の発掘調査は今回が3件目であり、検討資料が不十分であるため、今後の資料の追加を待ちたい。

弥生時代では、後期の住居址5軒と周溝墓9基を検出した。4号住居址と3号周溝墓の切り合い関係が判然としなため住居址と周溝墓との前後関係ははっきりとしなが、居住域から墓域に移行していったと考えた方が妥当と思われる。段丘下に広がる沖積地には水田遺跡である箕輪遺跡がひろがっており、沖積地に接する段丘上に位置する集落はこれを生産基盤に構成されていたことが考えられ、沖積地の利用範囲の広がりとともに集落もより低地に近い、広い段丘面に移行していったことが考えられる。また、検出した周溝墓には比較的小型で周溝が円形に近いものがみられることから方形周溝墓との造営時期等、差異の検討を要するところである。周溝墓の検出は村内初の事例であり、その検出数から本遺跡より下の段丘面、もしくはその周辺にさらに大規模な集落が埋蔵されていることが予想される。

奈良・平安時代では住居址15軒を検出した。保存状態が良好であったことから転用硯、墨書土器のほか、火災住居址より出土した灰釉陶器類の遺物の出土があり、良好な資料となった。

本遺跡の集落の性格は、各住居址の明確な時期区分ができなため即断できないが、奈良時代末から平安時代前期にかけての住居址群には比較的大型の住居址がみられることから、ある程度まとまりのある集落を形成していたと思われる。A区で検出した掘立柱建物址においてもこれに付随していたものであることが考えられる。

また、中期では灰釉陶器の出土がみられた住居址は2軒で、これらはいずれも比較的小型の住居址であり、それぞれの住居址間には距離があることからみて、この頃になると居住域が拡散し、数件の住居が点在するようになったものと思われるが、集落形成の変遷及び規模については不明な点が多く、今後の周辺の調査による資料の追加を必要とする。

以上、調査の結果と課題・問題を述べたが、調査地の地形がほぼ自然の状態に近く、遺跡の保存状態が良好であること、また遺跡の規模及び内容から、周辺一帯においても同様の状態で遺跡が埋蔵されている可能性が強く、今後の保存対策が大きな課題になると考える。

なお、最後になったが調査及び本書の作成にあたり、ご理解と多大なご尽力を頂いた関係諸機関をはじめ、発掘調査団の皆様、ご指導、ご協力を頂いた先輩諸氏に深く感謝するとともに、ご教示を頂きながら担当者の力不足によりそれを生かしきれなかったことをお詫びしてまとめたい。

引用参考文献

- | | | |
|--------------|------|--|
| 長野県教育委員会 | 1972 | 『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
上伊那郡南箕輪村その1・その2』 |
| 長野県教育委員会 | 1990 | 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4 一松本市
内その1— 総論編』 |
| 長野県史刊行会 | 1981 | 『長野県史 考古資料編 全1巻(3) 遺構・遺物』 |
| 長野県建設協会 | 1985 | 『天竜川上流域地質図』 |
| 日本道路公団名古屋建設局 | 1986 | 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3 一塩尻市
内その2— 吉田川西遺跡』 |
| 長野県埋蔵文化財センター | | |
| 岡谷市教育委員会 | 1986 | 『梨久保遺跡 一中部山岳地の縄文時代集落址—梨久保遺跡第
5次～第11次発掘調査報告書』 |
| 箕輪町教育委員会 | 1995 | 『堂地中遺跡 一平成4～6年度県営畑地帯総合土地改良事
業伊那西部地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 駒ヶ根市教育委員会 | 1990 | 『反目・遊光・殿村・小林遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1986 | 『恒川遺跡群 一一般国道153号座光寺バイパス用地内埋蔵文化
財発掘調査報告書—』 |
| 飯田市教育委員会 | 1987 | 『殿原遺跡 一一般国道153号飯田バイパス(1工区)用地内埋
蔵文化財発掘調査報告書—』 |
| 南箕輪村村誌編纂委員会 | 1990 | 『南箕輪村誌 上巻 自然編・遺跡編・信仰生活編民俗編』 |
| 南箕輪村村誌編纂委員会 | 1990 | 『南箕輪村誌 下巻 歴史編』 |
| 南箕輪村教育委員会 | 1967 | 『天伯遺跡緊急発掘調査概報』 |
| 南箕輪村教育委員会 | 1969 | 『神子柴遺跡緊急発掘調査報告書(第3次発掘調査)』 |
| 南箕輪村教育委員会 | 1973 | 『高根遺跡』 |
| 南箕輪村教育委員会 | 1975 | 『大芝東遺跡』 |
| 南箕輪村教育委員会 | 1992 | 『北垣外遺跡 宅地造成事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報
告書』 |
| 南箕輪村教育委員会 | 1993 | 『箕輪遺跡 上伊那郡南箕輪村塩ノ井中田地区』 |
| 南箕輪村教育委員会 | 1994 | 『宮ノ上墳墓 宮ノ上遺跡発掘調査報告書』 |

第3表 土坑一覧表

No	位 置	規 模 (cm)			平 面 形	断面形	出 土 遺 物	備 考
		長軸	短軸	深さ				
1	AV-21	109.8	95.0	43.0	不整楕円形	台 形	—	
2	5号住居址	125.0	106.7	56.0	〃	〃	黒曜石(1)	床面下で検出
3	4号住居址	113.5	66.0	22.0	不整隅丸方形	〃	—	
4	1号周溝墓	—	74.0	24.0	不整円形	〃	—	近代の擾乱により一部消滅
5	AV-14	107.0	96.0	22.0	楕円形	〃	—	
6	AR・S-13・14	80.0	76.0	19.0	不整円形	〃	—	
7	AQ・R-14	79.6	78.0	25.0	〃	〃	—	
8	11号住居址	91.8	77.4	82.0	不整楕円形	〃	—	
9	15号住居址	98.1	88.8	15.0	〃	〃	—	
10	16号住居址	93.0	87.0	20.0	不整円形	〃	—	
11	BW・X-33・34	84.0	81.0	14.0	〃	〃	—	
12	BW・X-29	78.0	68.4	40.0	不整隅丸方形	〃	—	25号住居址北壁の一部を破壊
13	26号住居址	57.0	51.9	19.0	不整円形	〃	砂岩(2)	
14	27号住居址	69.0	41.7	29.0	不整楕円形	〃	深鉢型土器(1)	
15	〃	(75.0)	48.0	24.0	〃	〃	—	一部P ₄ と重複
16	32号住居址	153.9	87.0	56.0	〃	〃	—	32号住居址北壁の一部を破壊
17	33号住居址	63.6	56.4	60.0	〃	袋 状	深鉢型土器(1)	
18	34号住居址	93.2	65.7	11.0	〃	台 形	〃	
19	〃	87.0	47.4	30.0	〃	袋 状	—	
20	35号住居址	90.0	67.2	17.0	〃	台 形	—	
21	〃	75.0	49.2	13.0	〃	〃	—	
22	〃	90.0	68.0	22.0	〃	〃	—	
23	〃	93.6	57.0	53.0	〃	袋 状	—	
24	〃	(69.0)	73.5	18.0	〃	台 形	—	土坑23と重複
25	BY・CA-34	102.0	77.0	15.0	〃	〃	—	
26	CA・B-34・35	78.0	66.0	35.0	〃	〃	—	
27	CA・C-34	—	—	10.0	〃	〃	深鉢型土器上部(1) 底部(1)	2個重複か?
28	7号周溝墓	123.0	84.0	70.0	不整隅丸方形	〃	—	34号住居址、7号周溝墓と重複
29	BF・G-25・26	88.0	48	21.0	不整楕円形	〃	—	土坑30と重複
30	〃	—	—	29	〃	〃	—	41号住居址と重複
31	7号周溝墓	167.0	110	70	不整隅丸方形	〃	—	7号周溝墓の溝に北側及び南側の壁の一部を破壊されている
32	配 石 址	121.5	(75.0)	42	不整楕円形	〃	—	配石址P ₂ と重複する

第4表 縄文時代の遺構出土土器観察表(1)

遺構	図面	形状	法	尺 (cm)	内面	外面	土	構成	外	色	内	面	出土位置	備	考
13号住	13-1	図面	(18.4)	—	ナデ	ナデ	ナデ	良好	褐色(7.5YR6/4)	褐色(7.5YR6/4)	褐色(7.5YR6/4)	2/5	床面上	彫形文4単位	
24号住	17-1	ナ	7.8	6.9	14.65	ナデ	ナデ	普通	褐色(10YR6/4)	褐色(10YR6/4)	褐色(10YR6/4)	2/3	床面上	彫形文4単位	
	17-1	ナ	22.9	—	ナ	ナ	ナ	ナ	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	4/5	ナ	彫形文4単位	
	19-1	ナ	32.7	—	ナ	ナ	ナ	ナ	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	1/3	ナ	彫形文4単位	
20号住	20-2	ナ	21.5	12.9	34.1	ナデ (部分ナ)	ナデ	良好	褐色(7.5YR7/6)	褐色(7.5YR7/6)	褐色(7.5YR7/6)	9/10	床面上	2単位位の彫形文、内面に彫形文	
20号住	20-3	ナ	22.6	13.0	37.8	ナデ	ナデ	砂粒多い	上部に褐色(7.5YR6/3)下部に褐色(5YR6/6)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	4/5	ナ	内面に彫形文	
25号住	21-4	ナ	21.2	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	1/8	床面上	内面に彫形文	
	21-5	ナ	23.8	—	ナ	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	1/20	床面上	内面に彫形文	
	21-7	ナ	18.2	11.0	31.5	ナデ、彫形文ナ	ナデ	砂粒多い	上部に褐色(7.5YR6/3)下部に褐色(2.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	4/5	ナ	内面に彫形文	
	21-8	ナ	—	20.5	ナ	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(5YR7/6)	褐色(5YR7/6)	褐色(5YR7/6)	1/5	ナ	内面に彫形文	
29号住	29-10	ナ	(22.3)	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/20	床面上	口縁部内外面に彫形文、内面に彫形文	
26号住	26-1	ナ	(22.4)	9.6	28.7	ナデ	ナデ	砂粒多い	上部に褐色(7.5YR6/3)下部に褐色(5YR6/6)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	4/5	ナ	内面に彫形文	
26号住	26-2	ナ	—	10.4	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/4	床面上	内面に彫形文	
26号住	26-3	ナ	—	5.4	ナ	ナ	ナ	普通	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/20	床面上	内面に彫形文	
26号住	26-4	ナ	24.6	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(10YR6/3)	褐色(10YR6/3)	褐色(10YR6/3)	1/2	床面上	内面に彫形文	
27号住	26-5	ナ	13.3 (6.5)	17.6	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	4/5	ナ	1. 彫形文4単位、下部彫形文3単位	
26号住	26-6	ナ	—	7.7	ナ	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	1/2	床面上	彫形文6単位	
26号住	27-8	ナ	—	10.0	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(2.5YR7/6)	褐色(2.5YR7/6)	褐色(2.5YR7/6)	1/10	床面上	彫形文6単位	
27号住	27-9	ナ	36.9	11.8	25	ナ	ナ	良好	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	3/4	ナ	彫形文6単位	
28号住	28-11	ナ	41.0	14.6	61.7	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(10YR6/6)	褐色(10YR6/6)	褐色(10YR6/6)	9/10	ナ	彫形文6単位	
28号住	28-1	ナ	17.7	5.9	18.0	ナ	ナ	良好	上部に褐色(7.5YR6/3)下部に褐色(5YR6/6)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	3/5	ナ	彫形文6単位	
28号住	28-2	ナ	15.8	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	3/5	床面上	彫形文5単位	
30号住	30-1	ナ	27.4	13.9	44.3	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(7.5YR6/2)	褐色(7.5YR6/2)	褐色(7.5YR6/2)	3/4	ナ	彫形文6単位	
30号住	30-2	ナ	130.4	—	ナ	ナ	ナ	良好	上部に褐色(7.5YR6/3)下部に褐色(5YR6/6)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	1/20	床面上	彫形文6単位	
30号住	30-3	ナ	—	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	2/5	床面上	彫形文6単位	
30号住	30-4	ナ	31.1	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(7.5YR6/2)	褐色(7.5YR6/2)	褐色(7.5YR6/2)	3/5	床面上	彫形文6単位	
30号住	30-5	ナ	—	—	ナ	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(7.5YR6/2)	褐色(7.5YR6/2)	褐色(7.5YR6/2)	1/4	ナ	彫形文6単位	
31号住	40-1	ナ	(25.8)	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	1/20	床面上	彫形文6単位	
31号住	40-1	ナ	(27.3)	—	ナ	ナ	ナ	良好	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	1/2	床面上	彫形文6単位	
32号住	44-2	ナ	(25.7)	11.6	36.1	ナ	ナ	良好	上部に褐色(7.5YR6/3)下部に褐色(5YR6/6)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	3/5	ナ	彫形文6単位	
32号住	44-3	ナ	(21.5)	10.6	34.4	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	3/5	ナ	彫形文6単位	
32号住	45-4	ナ	20	—	ナ	ナ	ナ	砂粒多い	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/6)	1/2	ナ	彫形文6単位	
45号住	45-5	ナ	16.9	—	ナ	ナ	ナ	ナ	褐色(10YR6/3)	褐色(10YR6/3)	褐色(10YR6/3)	3/4	床面上	彫形文6単位	

第4表 縄文時代の遺構出土土器観察表(2)

位置	図面No.	形状	口径	高さ	底径	口縁径	外 径	内 径	土 質	土 色	内 面	外 面	厚 度	備 考
25号住	45-5	胴鉢	—	—	8.8	—	ナナ	ナナ	良好	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/3)	褐色(7.5YR6/3)	1/4	胴部直上
	45-7	浅鉢	15.2	6.9	9.3	1.7ナ	ナナ	不明	良好	明赤褐色(5YR5/6)	褐色(5.5YR6/6)	褐色(5.5YR6/6)	1/2	頸土中層
	45-8	胴鉢	13.5	7.5	21.7	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	9/10	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	45-9	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	2/3	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	46-10	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	2/3	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	46-11	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	2/3	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	46-12	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	2/3	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	46-13	胴鉢	19.8	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	47-14	浅鉢	(40.4)	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-1	胴鉢	(22.6)	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
33号住	53-2	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-3	胴鉢	13.5	15.5	6.56	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-4	浅鉢	43.0	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-5	浅鉢	15.6	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-6	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-7	浅鉢	11.6	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-8	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-9	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-10	浅鉢	14.0	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	53-11	浅鉢	21.4	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
35号住	64-1	胴鉢	21.4	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	64-2	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	67-1	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	67-2	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	68-1	浅鉢	11.6	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	68-2	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	68-3	胴鉢	32.0	13.4	65.0	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	68-4	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	70-5	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	70-6	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
37号住	70-7	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	70-8	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	70-9	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	70-10	浅鉢	39.0	12.9	25.36	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	71-11	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	71-12	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	71-13	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	71-14	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	71-15	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着
	71-16	ナ	—	—	—	ナナ	ナナ	ナナ	良好	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	1/2	胴部直上、内面に少量の灰化層付着

第4表 縄文時代の遺構出土土器観察表(3)

遺構	図面番号	器形	口徑	底徑	高さ	体高	口縁	外	内	土	組成	外	内	土	組成	出土位置	備	考
37号住	79-13	甕	22.7	11.1	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	砂粒多い	普通	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/4	甕土中層	甕状口縁と単位ナテ	
40号住	79-2	有孔罎	21.3	21.0	23.9	21.0	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/4	中層	甕状口縁に砂粒混入	
41号住	80-1	甕	15.6	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
95-1	95-1	甕	37.8	22.4	17.2	22.4	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	砂粒多い	普通	色(10R6/4)	色(10R6/4)	1/2	中層	甕状口縁と単位ナテ	
95-2	95-2	甕	25.5	13.2	30.6	30.6	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	9/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
96-3	96-3	甕	12.2	12.4	30.6	30.6	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
97-4	97-4	甕	20.5	11.6	29.2	29.2	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
97-5	97-5	甕	17.7	10.3	27.6	27.6	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
97-6	97-6	甕	—	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
97-7	97-7	甕	12.2	12.5	22.8	22.8	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
98-8	98-8	甕	21.3	12.9	30.0	30.0	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	4/5	中層	甕状口縁と単位ナテ	
99-9	99-9	甕	27.2	15.6	31.8	31.8	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	7/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
100-1	100-1	甕	3.7	2.9	2.35	2.35	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
100-2	100-2	甕	4.9	1.6	4.0	4.0	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	9/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
100-3	100-3	甕	6.8	4.35	4.0	4.0	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
100-4	100-4	甕	3.7	2.7	2.7	2.7	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	2/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
100-5	100-5	甕	33.6	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
土坑27	100-2	甕	—	15.5	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/20	中層	甕状口縁と単位ナテ	

第5表 弥生時代の遺構出土土器観察表

遺構	図面番号	器形	口徑	底徑	高さ	体高	口縁	外	内	土	組成	外	内	土	組成	出土位置	備	考
4号住	100-1	甕	22.7	11.1	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	砂粒少	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	2/5	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-2	甕	12.8	5.7	16.2	16.2	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
16号住	100-1	甕	—	8.9	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/20	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-1	甕	19.8	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/20	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-1	甕	—	5.25	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-3	甕	23.5	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/2	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-3	甕	17.9	7.9	25.4	25.4	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	3/5	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-5	甕	15.5	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/20	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-1	甕	—	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	
10号住	100-2	甕	8.3	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/2	中層	甕状口縁と単位ナテ	
25号住	100-3	甕	—	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	2/3	中層	甕状口縁と単位ナテ	
100-4	100-4	甕	—	10.4	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/10	中層	甕状口縁と単位ナテ	
100-5	100-5	甕	—	—	—	—	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	良好	良好	色(7.5YR6/4)	色(7.5YR6/4)	1/4	中層	甕状口縁と単位ナテ	

第6表 奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(1)

区画番号	地番	形状	面積(㎡)	外 面	内 面	地 主	地 区	色 質	内 容	備 考
1号住	D5-1	坪(土)	12.0	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	黒色(7.5YR1.7/1)	口縁のみ1/8
	D5-2	坪(土)	14.0	—	—	—	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-3	坪(土)	13.8	6.2	3.85	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-4	坪(土)	17.5	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-5	坪(土)	19.2	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
2号住	D5-6	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-7	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-8	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-9	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-10	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
3号住	D5-11	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-12	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-13	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-14	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-15	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
4号住	D5-16	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-17	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-18	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-19	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-20	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
5号住	D5-21	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-22	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-23	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-24	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8
	D5-25	坪(土)	—	—	—	黒色地盤、横へタミガキ	良好	明褐色(7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR6/4)	口縁のみ1/8

第6表 奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(2)

[illegible]

第6表 奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(3)

通称	図面No	品名	積算(公定)		調査		土質	生成	色		調査	観察	出土地	備考
			口徑	底径	外	内			外	内				
11号産	10-14	桃(灰)	17.1	8.2	8.0	ロコナテ、最層部から少降り、灰付灰白	ロコナテ	粘良	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)、重ねあり	
	10-15	"	14.8	7.05	5.6	"	"	"	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)、重ねあり	
	10-16	面(灰)	11.9	6.6	2.2	"	"	"	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)	
	10-17	"	11.4	6.4	1.9	"	"	"	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)	
	10-18	"	11.8	6.7	2.5	"	"	"	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)	
	10-19	小笠(土)	13.3	9.5	18.5	ハテ	ハテ	砂砂多し	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	4/5	灰白色(5Y7/1)	
	10-20	土(灰)	24.2	—	—	ヘラナテ	ヘラナテ	粘良、砂砂少量	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/20	灰白色(5Y7/1)	
	10-21	"	27.4	—	—	ハテ	ハテ	粘良、砂砂少量	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/4	灰白色(5Y7/1)	
	10-22	土(灰)	15.2	—	—	"	"	"	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/20	灰白色(5Y7/1)	
	10-23	"	16.2	—	—	"	"	"	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/20	灰白色(5Y7/1)	
12号産	10-1	面(灰)	11.2	—	—	ロコナテ	ロコナテ	粘良、砂砂多し	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/10	灰白色(5Y7/1)	
	10-2	"	14.3	—	3.8	ロコナテ、最層部から少降り	"	砂砂多し	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)	
	10-3	灰(灰)	14.4	10.8	4.2	ロコナテ、最層部から少降り、灰付灰白	ロコナテ	粘良、小砂少量	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)	
	10-4	"	—	—	11.7	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/5	灰白色(5Y7/1)	
	10-5	"	—	9.5	—	ハテ	口徑部ハテ、最層部から少降り	粘良、砂砂少量	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/5	灰白色(5Y7/1)	
	10-6	小笠(土)	15.3	—	—	ハテ	口徑部ハテ、最層部から少降り	粘良	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/5	灰白色(5Y7/1)	
	10-7	面(灰)	18.1	—	—	ロコナテ	ロコナテ	粘良	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/20	灰白色(5Y7/1)	
	10-8	面(灰)	21.5	—	—	"	"	粘良	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/20	灰白色(5Y7/1)	
	10-9	面(土)	20.1	—	—	ハテ	口徑部ハテ、最層部から少降り	粘良、砂砂少量	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/20	灰白色(5Y7/1)	
	10-10	"	20.0	—	—	"	"	砂砂多し	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/20	灰白色(5Y7/1)	
15号産	10-11	"	17.1	—	—	ロコナテ	ロコナテ	粘良、砂砂少量	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/2	灰白色(5Y7/1)	
	10-12	土(土)	10.54	5.34	3.6	ロコナテ、最層部から少降り	ロコナテ	砂砂多し	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/4	灰白色(5Y7/1)	
	10-13	面(灰)	12.6	6.5	2.3	ロコナテ、最層部から少降り、灰付灰白	ロコナテ	粘良	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/4	灰白色(5Y7/1)	
	10-4	"	12.0	7.3	2.15	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/4	灰白色(5Y7/1)	
	10-5	"	12.6	6.9	2.0	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/4	灰白色(5Y7/1)	
	10-6	"	12.4	6.75	2.2	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/4	灰白色(5Y7/1)	
	10-7	"	12.74	6.92	2.5	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/5	灰白色(5Y7/1)	
	10-8	"	14.2	6.4	2.35	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	2/3	灰白色(5Y7/1)	
	10-9	"	12.45	6.75	2.75	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)	
	10-10	"	14.0	7.77	2.5	"	"	粘良	"	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰白色(5Y7/1)	

第6表 奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(4)

遺構	図面No	形状	口径	底径	高さ	外	内	土	地質	外	内	面	保存度	出土位置	備	考
15号館	10-11	皿(底)	14.85	8.1	2.75	ロクロナデ		釉面陶器	良好	灰白色(7.5Y7/1)	灰白色(7.5Y7/2)		9/10	甕下層	陶器片、釉面	?
	10-12	皿(底)	12.2	6.54	2.57				普通	灰白色(7.5Y6/1)	灰白色(7.5Y6/2)		1/3	甕土上層	陶器片、釉面	?
	10-13	碗(底)	13.1	6.86	3.6			釉面陶器	良好	灰白色(7.5Y7/1)	灰白色(N6/1)		1/3	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-14	?	15.76	9.04	4.8				*	灰白色(5Y7/2)	灰白色(5Y7/2)		1/5	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-15	?	15.5	7.4	5.3				*	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)		4/5	甕土下層	陶器片、釉面	?
	10-16	?	15.3	7.5	4.3				*	灰白色(5Y6/1)	灰白色(5Y7/1)		1/2	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-17	?	14.8	7.0	4.9				*	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)		9/10	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-18	?	15.6	7.8	4.8			釉面	*	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)		1/2	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-19	?	17.2	7.9	5.6			釉面	*	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y8/1)		1/3	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-20	?	16.01	8.6	6.13			釉面陶器	*	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)		9/10	甕土中層	陶器片、釉面	?
17号館	10-21	?	16.8	8.35	5.7				*	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)		1/3	甕土下層	陶器片、釉面	?
	10-22	?	18.5	8.0	5.9				*	灰白色(5Y6/1)	灰白色(5Y6/1)		1/6	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-23	長板(底)	—	—	—	ヘラズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	*	*	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y8/1)		1/10	甕土下層	陶器片、釉面	?
	10-1	杯(土)	15.4	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/10	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-2	?	14.8	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	*	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/10	甕土下層	陶器片、釉面	?
	10-3	?	—	7.2	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	*	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/5	甕土下層	陶器片、釉面	?
	10-4	?	—	7.1	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	*	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/10	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-5	?	—	5.9	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	*	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/6	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-6	杯(底)	13.0	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/10	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-7	?	13.1	6.8	3.8	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		2/3	甕土中層	陶器片、釉面	?
20号館	10-8	?	13.9	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/3	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-9	?	13.5	6.0	3.6	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/5	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-10	?	—	5.4	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/5	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-11	小型(土)	—	7.7	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/20	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-12	皿(底)	18.5	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/20	甕土下層	陶器片、釉面	?
	10-13	?	15.0	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/10	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-14	?	—	15.7	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/10	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-15	小型(土)	13.0	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/20	甕土中層	陶器片、釉面	?
	10-16	?	49.0	—	—	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/20	甕土中層	陶器片、釉面	?
	20号館 20-1	杯(底)	13.8	5.6	4.0	ロクロナデ	黒色釉面、ヘラミガキ	釉面	*	灰色(5Y6/6)	灰色(5Y1.7/1)		1/2	甕土中層	陶器片、釉面	?

第6表 奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(5)

遺構	図面	形状	法	深さ(m)	調査	内	外	土	組成	色	内	調	残存	出土位置	備考
20号柱	図-2 小型罐	14.0	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好、小石少量	良好	良好	にがい黄褐色(10YR6/2)	にがい黄褐色(10YR4/3)	1/20	灰土層上	口縁部のデザインが優れている。底面は平。	
	図-3 罐	10.2	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好、小石多い	普通	普通	にがい黄褐色(7.5YR6/4)	灰褐色土(7.5YR6/2)	1/20	カマド	—	
	図-4 灰(土)	12.35	5.5	3.88	ヘラナデ、底面は平、フタあり	ヘラナデ	良好	良好	良好	にがい黄褐色(7.5YR7/2)	黒色(7.5YR1.7/1)	9/10	—	—	
	図-5 灰(土)	11.8	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好、砂粒少量	良好	良好	にがい黄褐色(10YR7/2)	黒褐色土(10YR5/1)	1/20	灰土層上	—	
21号柱	図-6 灰(土)	12.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	良好	褐色(7.5YR7/6)	黒色(7.5YR1.7/1)	1/16	—	—	
	図-7 灰(土)	16.0	8.38	5.0	ヘラナデ、底面は平、フタあり、底面は平	ヘラナデ	砂粒少量	良好	普通	褐色(5YR6/6)	黒色(5YR1.7/1)	1/3	カマド	—	
	図-8 灰(土)	16.5	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	褐色(5YR7/6)	黒色(5YR1.7/1)	1/4	灰土層中層	—	
	図-9 灰(土)	5.34	—	—	ヘラナデ、底面は平、フタあり	ヘラナデ	良好	良好	良好	褐色(5YR7/6)	にがい黄褐色(7.5YR7/4)	1/4	灰土層上	内面は黄褐色、外層は黒色により調整。	
22号柱	図-10 灰(土)	14.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒少量	良好	良好	黒褐色土(10GY4/1)	黒褐色土(10GY6/2)	1/20	カマド	—	
	図-11 灰(土)	12.2	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	灰白色(10Y7)	灰白色(10YR6/2)	1/20	—	—	
	図-12 灰(土)	6.3	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	灰白色(10YR6/2)	灰白色(10YR6/2)	1/20	カマド	—	
	図-13 灰(土)	20.7	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	普通	にがい黄褐色(10YR6/2)	にがい黄褐色(7.5YR6/4)	1/20	カマド	—	
23号柱	図-14 灰(土)	14.3	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	良好	黒褐色土(10GY5/1)	黒褐色土(10GY6/2)	7/10	灰土層上	—	
	図-15 灰(土)	28.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒少量	良好	良好	灰褐色土(10YR6/2)	灰褐色土(10YR6/2)	1/20	カマド	—	
	図-16 灰(土)	22.8	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	にがい黄褐色(7.5YR6/2)	にがい黄褐色(7.5YR6/2)	1/10	—	—	
	図-17 灰(土)	13.9	6.45	3.1	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	灰白色(5YR7/2)	灰白色(5YR6/2)	1/10	灰土層中層	—	
24号柱	図-18 灰(土)	14.2	7.2	4.0	ヘラナデ、底面は平、フタあり	ヘラナデ	良好	良好	普通	灰白色(5YR6/2)	灰白色(5YR6/2)	1/5	灰土層上	—	
	図-19 灰(土)	14.4	6.85	3.8	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	灰白色(5YR7/2)	灰白色(5YR6/2)	1/2	—	—	
	図-20 灰(土)	12.34	5.9	3.15	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	灰土層上	—	
	図-21 灰(土)	12.9	6.4	3.65	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	良好	黒褐色土(10GY6/1)	黒褐色土(10GY6/1)	4/5	—	—	
25号柱	図-22 灰(土)	14.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/10	灰土層中層	—	
	図-23 灰(土)	13.0	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好、砂粒少量	普通	普通	灰白色(10YR6/2)	灰白色(10YR6/2)	1/10	—	—	
	図-24 灰(土)	6.8	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	灰褐色土(10GY5/1)	灰褐色土(10GY5/1)	1/10	—	—	
	図-25 灰(土)	6.1	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	黒褐色土(10GY6/4)	黒褐色土(10GY6/4)	1/10	—	—	
26号柱	図-26 灰(土)	11.7	8.36	10.78	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	普通	にがい黄褐色(10YR6/2)	にがい黄褐色(10YR6/2)	3/5	灰土層上	—	
	図-27 灰(土)	11.9	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	褐色土(7.5YR6/4)	褐色土(7.5YR6/4)	1/10	灰土層上	—	
	図-28 灰(土)	20.0	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	普通	にがい黄褐色(7.5YR6/2)	にがい黄褐色(7.5YR6/2)	1/20	—	—	
	図-29 灰(土)	21.5	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	普通	褐色土(7.5YR7/4)	褐色土(7.5YR7/4)	1/20	—	—	
27号柱	図-30 灰(土)	20.7	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	にがい黄褐色(7.5YR6/2)	にがい黄褐色(7.5YR6/2)	1/20	—	—	
	図-31 灰(土)	18.0	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	褐色土(7.5YR6/2)	褐色土(7.5YR6/2)	1/20	—	—	
	図-32 灰(土)	21.2	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	褐色土(7.5YR7/4)	褐色土(7.5YR7/4)	1/20	—	—	
	図-33 灰(土)	21.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	黒褐色土(10GY4/1)	黒褐色土(10GY4/1)	1/20	—	—	
28号柱	図-34 灰(土)	17.6	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	普通	にがい黄褐色(10YR5/2)	にがい黄褐色(10YR6/2)	1/20	灰土層中層	—	
	図-35 灰(土)	21.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	良好	普通	にがい黄褐色(10YR6/2)	にがい黄褐色(10YR6/2)	1/20	灰土層中層	—	
	図-36 灰(土)	15.3	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒少量	普通	普通	にがい黄褐色(10YR6/2)	にがい黄褐色(10YR6/2)	1/20	灰土層中層	—	
	図-37 灰(土)	20.0	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	普通	にがい黄褐色(10YR6/2)	にがい黄褐色(10YR6/2)	1/20	灰土層中層	—	

第7表 土偶観察表

遺 構	図版No.	残存部	法 量 (cm)			重量(g)	出 土 位 置	備 考
			長 さ	幅	厚 さ			
32号住	48-15	脚	10.6	4.9	5.6	220	覆土上層	つま先部分欠損
"	48-16	足	5.9	9.5	4.9	156	覆土中層	"
"	48-17	"	5.2	3.7	3.2	38	"	つま先部分一部欠損
34号住	60-12	上半身	10.6	10.5	5.9	186	"	頭部一部欠損、胸部折損面に芯棒の孔あり
"	60-13	足	3.5	3.7	2.0	19	"	
35号住	64-4	胸	3.8	4.4	1.8	20	"	折損面に芯棒の孔あり
土器廃棄場	86-2	頭	4.45	4.4	3.5	43	"	一部欠損、折損面に芯棒の孔あり
"	86-3	胴	8.3	6.9	2.5	52	"	左腕欠損、頭部折損面に芯棒の孔あり
"	86-4	"	7.4	6.9	4.3	129	"	表面は丁寧なミガキが施されている
"	86-5	尻	2.95	3.45	(2.05)	15	"	
"	87-9	足	8.45	5.6	3.0	118	"	破損面に芯棒の孔あり
"	87-10	脚	8.2	3.8	2.9	51	"	"

第8表 その他の土製品

遺 構	図版No.	種 類	法 量 (cm)			重量(g)	出 土 位 置	備 考
			長 さ	幅	厚 さ			
土器廃棄場	86-1	顔面把手	2.95	5.45	0.7	21	第4層 暗褐色土層中	
"	87-7	不明	6.0	7.2	0.95	78	第4層 暗褐色土層中	中空土偶か土器の一部か不明
"	87-8	"	8.5	6.1	1.05	99	"	中空土偶か土器の一部か不明、87-7と胎土・焼成が類似。腕部か？
16号住	81-3	紡錘車	5.2	4.95	1.3	32	覆土中層	完存

第9表 縄文時代の遺構出土石器観察表(1)

遺構	図版No	分類	石質	法 量 (cm)			重量(g)	出土位置	備 考
				長 寸	幅	厚 寸			
5号住	10-5	打製石斧	ホルンフェルス(砂質)	18.5	5.3	1.8	(309)	床面	円刀・短冊形、中央部付近で割れている
13号住	13-3	#	ホルンフェルス(粘質)	15.6	8.4	2.1	441	P ₂	円刀・楕形
	13-4	#	ホルンフェルス(砂質)	15.2	4.2	1.9	(215)	覆土中層	短冊形、刃部一部欠損
	13-5	#	砂 岩	9.6	4.15	1.5	70	#	円刀・短冊形
	14-6	#	ホルンフェルス(砂質)	11.6	4.0	1.9	90	#	円刀・楕形、刃部に磨減痕
	14-7	#	砂 岩	10.65	4.2	0.72	79	P ₁	偏刀・短冊形
	14-8	#	ホルンフェルス(砂質)	9.4	4.9	1.48	106	覆土中層	#
24号住	17-2	石 匙	砂 岩	7.0	5.8	1.3	52	#	
25号住	24-15	打製石斧	#	16.5	6.8	2.3	334	#	円刀・短冊形
	24-16	粗製刃器	ホルンフェルス(粘質)	10.9	5.0	0.7	50	床面直上	南側に刃部
	24-17	打製石斧	砂 岩	11.5	8.9	2.2	270	覆土中層	偏刀・楕形
	24-18	粗製刃器	#	9.5	3.9	0.78	41	#	
	24-19	打製石斧	#	12.3	8.4	2.0	274	#	偏刀・楕形
	24-20	石 匙	#	10.9	4.7	1.2	68	#	短型、刃部片割のみ調整
27号住	30-12	#	ホルンフェルス(砂質)	8.25	11.5	1.38	133	#	刃部未調整
	30-13	打製石斧	砂 岩	11.0	4.3	0.9	70	覆土上層	偏刀・楕形
	30-14	石 鉄	黒曜石	2.4	1.5	0.44	2	覆土下層	無茎
28号住	32-3	打製石斧	砂 岩	10.5	5.1	0.8	75	覆土中層	円刀、基部の一部調整
	32-4	#	ホルンフェルス(粘質)	12.7	3.75	0.7	70	#	円刀・短冊形、刃部に磨減痕
	32-5	#	砂 岩	10.6	3.3	1.6	76	#	円刀・分銅形
29号住	34-2	石 鉄	黒曜石	1.84	1.45	0.25	1	覆土上層	無茎
30号住	38-6	打製石斧	ホルンフェルス(砂質)	16.6	6.2	2.3	430	覆土中層	刃部欠損
	38-7	磨製石斧	#	(12.55)	3.9	3.1	(261)	覆土上層	基部より刃部欠損
	38-8	凹 石	軽 石	11.25	7.8	4.45	314	覆土中層	
	38-9	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(5.3)	3.1	1.2	2.6	覆土上層	直刀・楕形・基部欠損、刃部に磨減痕
32号住	49-18	打製石斧	#	17.5	8.1	2.7	413	覆土中層	偏刀・楕形
	49-19	#	#	11.0	4.2	1.5	126	#	円刀・短冊形、刃部に磨減痕
	49-20	#	#	9.5	7.0	1.5	114	覆土上層	
	49-21	#	砂 岩	14.3	6.8	1.8	206	覆土中層	偏刀・楕形
	49-22	#	#	10.7	4.1	1.4	87	#	偏刀・短冊形
	49-23	#	ホルンフェルス(粘質)	10.2	4.8	1.1	87	#	円刀・分銅形
	50-24	石 匙	砂 岩	7.1	8.5	1.3	86	床面直上	
	50-25	#	#	12.6	3.2	0.9	60	覆土上層	短型
	50-26	#	#	4.2	5.9	1.3	20	#	
	50-27	石 匙	ホルンフェルス(粘質)	11.6	6.8	1.1	202	覆土中層	廃棄土器に伴って出土
	50-28	横刃型石器	砂 岩	7.2	11.3	1.3	118	#	
	50-29	#	#	7.2	9.3	1.7	169	#	
	51-30	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(15.95)	5.22	(3.95)	(491)	床面直上	基部・基部・刃部欠損
	51-31	#	#	(8.3)	3.3	2.9	(140)	床面	基部・刃部一部欠損、刃部磨減痕
	51-32	凹 石	軽 石	15.1	19.15	3.3	286	#	

第9表 縄文時代の遺構出土石器観察表(2)

遺構	図版No.	分類	石質	法 量 (cm)			重量(g)	出土位置	備 考
				長さ	幅	厚さ			
33号住	54-3	打製石斧	ホルンフェルス(砂質)	10.8	5.5	1.3	125	覆土中層	偏刃・分銅形
	54-4	"	"	12.0	7.9	3.0	380	"	円刃・盤形
	54-5	横刃型石斧	砂 岩	7.4	11.2	2.2	198	"	
	54-6	石 匙	ホルンフェルス(砂質)	7.5	6.6	1.2	61	"	
34号住	61-14	打製石斧	砂 岩	12.5	7.6	1.8	186	"	円刃・盤形、刃部に磨減痕
	61-15	"	"	12.1	7.15	1.8	170	覆土上層	偏刃・盤形、刃部に磨減痕
	61-16	"	ホルンフェルス(砂質)	11.7	4.2	1.4	88	"	円刃・短冊形、刃部に磨減痕
	61-17	"	砂 岩	13.7	6.1	2.2	266	覆土中層	円刃・分銅形、刃部に磨減痕
	61-18	石 匙	"	10.25	5.1	1.0	56	"	
	61-19	"	ホルンフェルス(粘質)	11.8	2.4	0.9	28	"	縦型、刃部に磨減痕
	61-20	石 鏃	ホルンフェルス(砂質)	10.35	4.0	1.3	(85)	覆土上層	一部欠損
	61-21	"	黒曜石	3.8	1.35	0.6	1	覆土中層	先端部欠損
	61-22	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(14.3)	4.3	3.4	340	"	基端、刃部欠損
35号住	65-5	打製石斧	"	13.3	4.9	2.2	180	床面直上	円刃・盤形、刃部に磨減痕
	65-6	"	"	14.7	5.5	2.0	155	"	偏刃・短冊形
	65-7	"	"	11.0	3.8	1.2	64	覆土上層	偏刃・盤形
	65-8	石 鏃	黒曜石	2.13	1.65	0.42	2	"	無茎
37号住	74-14	打製石斧	ホルンフェルス(砂)	11.5	7.2	1.4	151	"	偏刃・盤形
	74-15	石 匙	砂 岩	6.5	7.4	0.8	37	覆土中層	
	74-16	"	ホルンフェルス(砂質)	4.2	6.6	0.5	12	"	
	74-17	"	砂 岩	9.9	4.5	0.75	42	覆土上層	
	74-18	横刃型石斧	"	4.8	9.0	1.2	74	覆土中層	
	74-19	石 匙	ホルンフェルス(粘質)	(11.5)	2.8	0.3	(14)	覆土上層	把手部欠損
	74-20	石 鏃	ホルンフェルス(砂質)	8.35	5.35	1.9	129	"	
	75-21	凹 石	砂 岩	9.1	7.25	4.65	409	"	磨減あり
	75-22	"	安山岩	9.9	7.4	2.7	274	覆土中層	
	75-23	"	花崗岩	10.0	9.7	4.9	(615)	"	一部欠損
	76-24	石 皿	安山岩	(23.5)	(18.0)	10.5	2,080	覆土下層	約1/2程欠損、敲打痕あり
	77-25	磨 石	花崗岩	(13.9)	13.9	6.1	1,400	覆土中層	両面に磨減あり
41号住	80-2	石 鏃	黒曜石	2.15	1.5	0.4	2	"	先端部に磨減痕あり
	80-3	打製石斧	ホルンフェルス(砂)	13.0	5.8	1.5	149	覆土上層	
	80-4	"	砂 岩	11.6	5.6	1.6	130	覆土中層	偏刃・盤形
廃棄場	88-1	"	"	19.1	8.4	3.5	562	BQ-26	円刃・盤形
	88-2	"	"	13.3	7.1	2.0	224	BQ-27	直刃・盤形
	88-3	"	ホルンフェルス(砂質)	9.7	4.5	1.2	66	BO-33	偏刃・盤形
	88-4	"	"	17.9	4.5	1.2	182	BP-32	円刃・短冊形
	88-5	"	ホルンフェルス(粘質)	13.8	5.7	1.3	166	BQ-27	偏刃・分銅形
	89-6	"	砂 岩	11.7	4.6	1.05	127	BQ-27	円刃・盤形
	89-7	"	"	13.7	6.8	1.6	(156)	BR-26	一部欠損
	89-8	石 匙	"	9.2	9.0	1.1	116	BQ-31	
	89-9	"	"	8.9	9.6	1.5	129	BQ-27	
	89-10	"	"	6.5	6.65	1.1	56	BQ-27	
	89-11	"	"	12.1	4.0	0.85	44	BQ-26	縦型

第9表 縄文時代の遺構出土石器観察表(3)

遺 構	図版No	分 類	石 質	法 量 (cm)			重量(g)	出土位置	備 考
				長 さ	幅	厚 さ			
麻薬場	89-12	石 匙	砂 岩	8.7	6.0	0.95	64	BQ-27	
	90-13	横刃形石器	#	6.2	10.2	1.5	99	BR-27	
	90-14	#	#	7.1	11.0	2.0	131	BP-27	
	90-15	#	#	8.3	11.0	1.8	170	BQ-33	
	90-16	石 匙	ホルンフェルス(砂質)	5.9	5.5	0.55	21	BV-30	
	90-17	#	ホルンフェルス(砂質)	5.8	3.7	1.1	19	BT-30	
	90-18	石 鏃	黒曜石	2.2	1.8	0.3	1	BQ-28	剥離石鏃、無茎
	90-19	#	#	2.4	1.45	0.3	2	BQ-27	無茎
	90-20	#	チャート	3.47	1.5	0.24	(2)	BQ-27	無茎、一部欠損
	90-21	不定形石器	黒曜石	2.25	0.75	0.45	0.4	BR-28	
	90-22	石 匙	#	5.2	1.7	0.8	(5)	BO-29	一部欠損
	91-23	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(14.8)	4.7	3.6	(418)	BR-26	刃部欠損、基部に敲打痕あり
	91-24	#	#	(15.8)	5.85	4.15	(495)	BO-33	#
	91-25	#	#	(8.48)	4.7	3.7	(200)	BQ-28	基部・刃部欠損
	91-26	#	#	(10.55)	4.28	3.1	(238)	BO-29	刃部欠損
	91-27	#	#	(12.6)	4.7	3.55	(337)	BP-31	基部欠損、刃部磨減痕あり
	91-28	#	#	(6.52)	4.25	1.5	(50)	BO-25	#
	92-29	石 鏃	ホルンフェルス(粘質)	6.95	5.2	1.2	102	BN-30	二分割したものをそれぞれ調整している(2個体を図化)
	92-30	#	ホルンフェルス(砂質)	6.7	4.1	1.35	42	BQ-26	

第10表 弥生時代の遺構出土石器観察表

遺 構	図版No	分 類	石 質	法 量 (cm)			重量(g)	出土位置	備 考
				長 さ	幅	厚 さ			
16号住	Ⅷ-4	打製石斧	砂 岩	15.8	10.5	2.4	506	覆土中層	刃部縁辺に磨減痕あり
	Ⅷ-5	#	ホルンフェルス(砂質)	11.6	4.2	1.3	119	#	側面に新磨痕あり
	Ⅷ-6	#	砂 岩	13.3	9.4	2.1	255	#	
	Ⅷ-7	#	#	8.05	6.0	1.5	72	#	基部に磨減痕あり
18号住	Ⅷ-6	石 匙	#	9.5	5.6	1.65	86	#	廃棄場よりの流入か?
19号住	Ⅲ-3	石 鏃	ホルンフェルス(砂質)	3.8	1.7	0.2	3	床面	
	Ⅲ-4	#	#	3.95	2.5	0.2	4	#	未完成品か?
23号住	Ⅲ-6	石 匙	砂 岩	5.7	10.6	0.9	76	床面直上	流入したものか?
	Ⅲ-7	不定形石器	黒曜石	7.8	2.9	0.95	14	#	#

第11表 弥生時代の遺構出土鉄器観察表

遺 構	図版No	分 類	法 量 (cm)			重量(g)	出土位置	備 考
			長 さ	幅	厚 さ			
19号住	Ⅲ-2	不 明	2.6	3.85	0.6	6	覆土中層	流入したものか?
7号周	Ⅲ-1	鉄 環	2.45	2.6		4	覆土中層	流入したものか?

第12表 奈良・平安時代の遺構出土鉄器観察表

遺構	図版No	分類	法 量(cm)			重量(g)	出土位置	備 考
			長 さ	幅	厚 さ			
6号住	12-11	鎌	16.1	3.1	0.4	34.0	床面直上	左側に「返し」が付く
11号住	10-24	不明	3.55	0.6	—	1.0	カマド	
12号住	16-12	刀子	12.8	1.0	0.5	7.0	床面	
20号住	15-4	鎌	14.7	3.05	0.5	36.0	床面直上	
36号住	18-24	刀子	13.0	1.1	0.5	10	覆土中層	
39号住	18-8	—	—	1.0	0.45	(3)	—	一部欠損
	18-9	—	12.3	1.2	0.5	10	—	

第13表 出土鉄滓一覧表

No	法 量(cm)			重量(g)	出 土 位 置	備 考
	長 さ	幅	厚 さ			
1	3.0	2.1	1.7	9	6住床面直上	
2	7.0	5.6	2.9	140	9住覆土(上)	
3	2.7	2.0	2.0	11	17住覆土(上)	
4	7.2	6.5	2.6	100	—	
5	6.8	5.1	2.7	54	—	
6	8.6	5.9	4.4	214	—	
7	5.9	5.9	4.1	152	BQ-32	17住西側
8	6.8	6.7	2.7	69	BS-30	17住北側
9	6.5	4.6	3.5	139	22住覆土(上)	
10	5.1	4.9	2.4	35	—	
11	5.5	5.1	3.8	99	—	
12	3.4	3.0	1.3	14	BE・F-29・30	

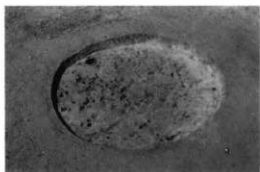
第14表 遺構外出土石器観察表

図版No	分 類	石 質	法 量(cm)			重量(g)	出 土 位 置	備 考
			長 さ	幅	厚 さ			
18-1	凹石	砂岩	9.9	7.4	2.75	351	BW-34	
18-2	—	—	9.0	8.0	14.4	396	BT-24	
18-3	—	—	7.46	(7.2)	2.4	(204)	BS-33	一部欠損
18-4	砥石	ホルンフェルス(結質)	13.0	5.35	1.65	(165)	BN-19	—
18-5	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	18.1	(3.7)	4.5	(463)	BA-20	1/2程欠損、刃部磨減痕あり
18-6	—	—	9.65	4.2	1.55	(115)	BL-18	基端一部欠損、刃部磨減痕あり
18-7	—	—	(5.2)	(4.1)	(1.2)	(24)	BJ-15	基端欠損、刃部磨減痕あり

第15表 遺構外出土鉄器観察表

図版No	分 類	法 量(cm)			重量(g)	出 土 位 置	備 考
		長 さ	幅	厚 さ			
18-1	鎌	14.6	4.1	0.5	42	BQ・R-27・28	
18-2	—	8.8	2.8	0.4	10	BN・O-30・31	「返し」が付く
18-3	鉄棒	13.85	0.6	—	16	BO・P-24・25	
18-4	—	5.1	0.6	—	4	BO・P-24・25	
18-5	—	6.0	1.5	—	5	BD・E-7・8	

圖 版



3号住居址（東方より）



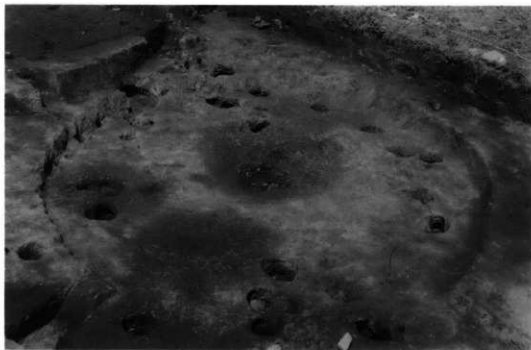
5号住居址（南方より）



24号住居址（北方より）



24号住居址 炉址



25号住居址 (南方より)



25号住居址 土層断面 (南方より)



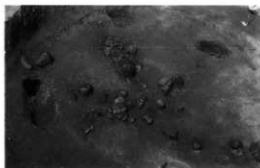
25号住居址 遺物出土状態



25号住居址 炉址



27号住居址 (南方より)



27号住居址 遺物出土状態



27号住居址 土坑14 遺物出土状態



28号住居址



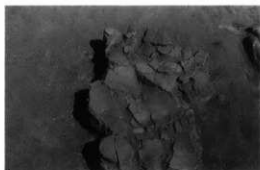
28号住居址 遺物出土状態



30号住居址 (南方より)



30号住居址 炉址



30号住居址 遺物出土状態



31号住居址 (南方より)



31号住居址 炉址



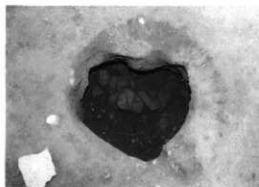
32・33号住居址（南方より）



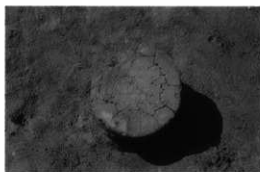
32号住居址 炉址



32号住居址 遺物出土状態



33号住居址 土坑17 遺物出土状態



33号住居址 遺物出土状態



34号住居址 (東方より)



34号住居址 炉址

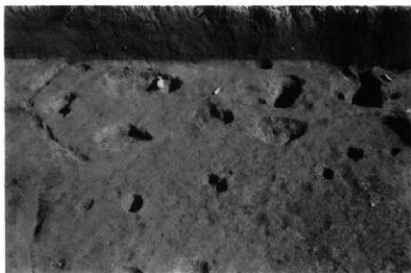


34号住居址 遺物出土状態



34号住居址 遺物出土状態





35号住居址（南方より）



37号住居址（東方より）



37号住居址 遺物出土状態



36・39・40号住居址（東方より）



40号住居址 遺物出土状態



40号住居址 土層断面



41号住居址（東方より）



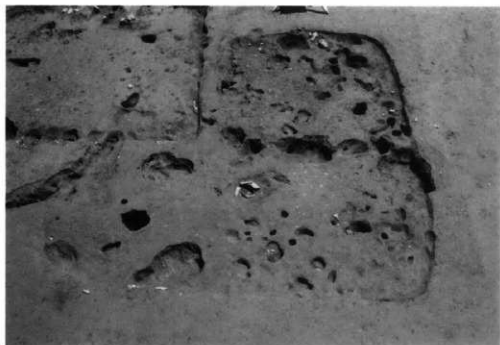
特殊遺構（東方より）



特殊遺構 遺物出土状態



配石址



4号住居址（西方より）



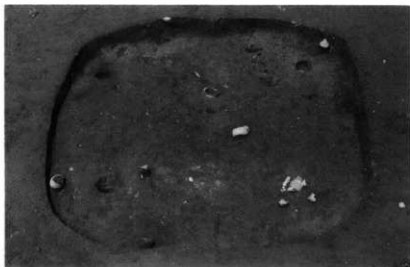
4号住居址 炉址



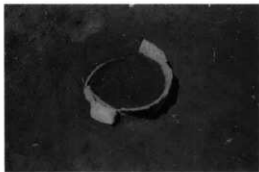
4号住居址 遺物出土状態



16号住居址（西方より）



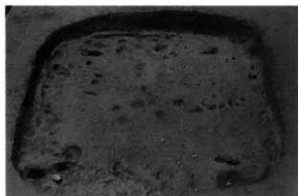
18号住居址（東方より）



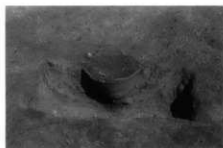
18号住居址 炉址



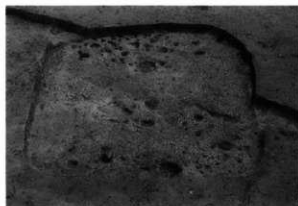
18号住居址 遺物出土状態



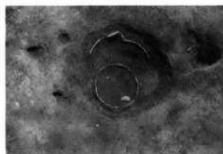
19号住居址 (東方より)



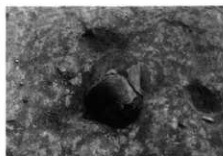
19号住居址 炉址



23号住居址 (西方より)



23号住居址 炉址



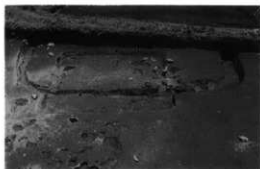
23号住居址 遺物出土状態



1号周溝墓 (南方より)



2号周溝墓 (東方より)



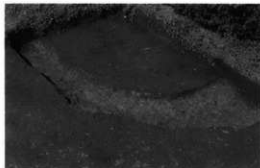
3号周溝墓 (A地区南方より)



4号周溝墓



5号周溝墓 (西方より)



6号周溝墓 (西方より)



7号周溝墓 (東方より)



9号周溝墓



1号住居 (東方より)



2号住居 (東方より)



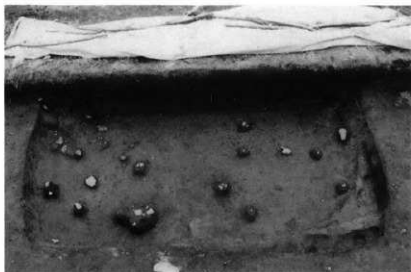
6号住居 (西方より)



6号住居 カマド周辺 遺物出土状態 (東方より)



6号住居 遺物出土状態



8号住居址 (北方より)



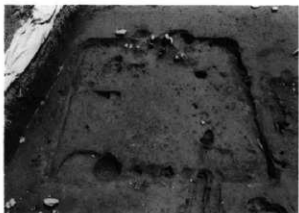
9号住居址 (西方より)



9号住居址 カマド袖部分



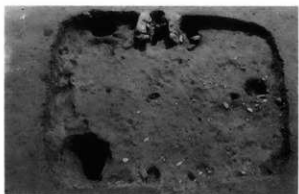
9号住居址 遺物出土状態



10号住居址 (西方より)



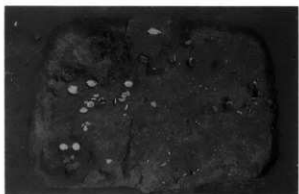
10号住居址 カマド



11号住居址 (西方より)



11号住居址 カマド



11号住居址 遺物出土状態



11号住居址 カマド



11号住居址 カマド (上方より)



12号住居址（南方より）



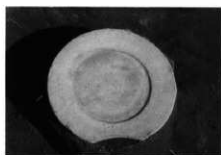
15号住居址（東方より）



15号住居址 カマド



15号住居址 カマド断面



15号住居址 遺物出土状態



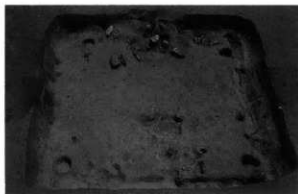
15号住居址.遺物出土状態



17号住居址 (西方より)



17号住居址 カマド



20号住居址 (西方より)



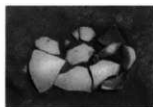
20号住居址 カマド



21・22号住居址 (東方より)



20号住居址 遺物出土状態



21号住居址 遺物出土状態



21号住居址 カマド



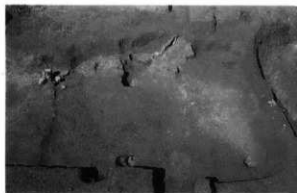
21号住居址 カマド



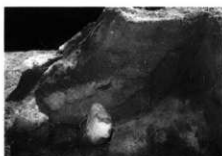
26号住居址 (東方より)



26号住居址 カマド



36・39号住居址 (東方より)



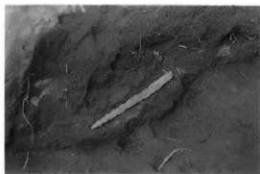
36号住居址 カマド断面



36号住居址 カマド



36号住居址 遺物出土状態



36号住居址 遺物出土状態



39号住居址 カマド



土坑1



土坑1 土層断面



A区 掘立柱建物址 柱穴遺構



1, 13号住居址 出土土器 2, 24号住居址 炉址埋設土器
3, 25号住居址 炉址埋設土器 4.~8, 25号住居址 出土土器



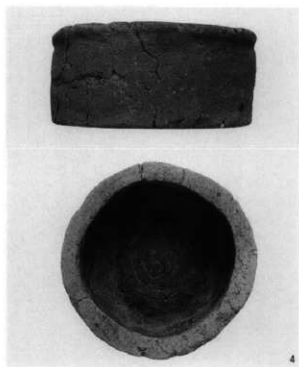
1.~6, 27号住居址 出土土器 8.~9, 28号住居址 出土土器



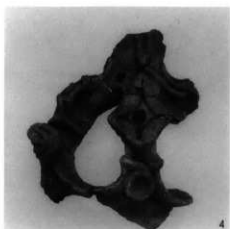
1.~3. 30号住居址 出土土器 4. 30号住居址 炉址埋設土器 5.~6. 32号住居址 出土土器



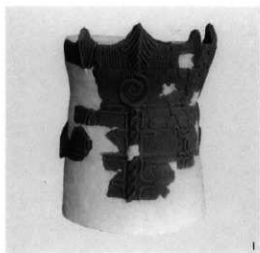
1.~8. 32号住居址 出土土器 9. 32号住居址 炉址埋設土器



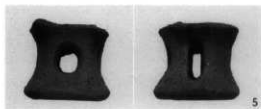
1, 32号住居址 出土土器 2, 3, 33号住居址 出土土器
4, 33号住居址 出土土器 5, 7, 34号住居址 出土土器



1, 34号住居址 炉址埋設土器 2~3, 34号住居址 出土土器
4~5, 35号住居址 出土土器 6, 37号住居址 出土土器



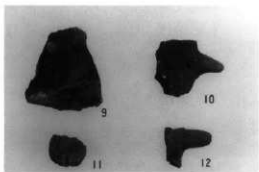
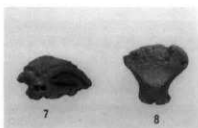
1.~8. 37号住居址 出土土器



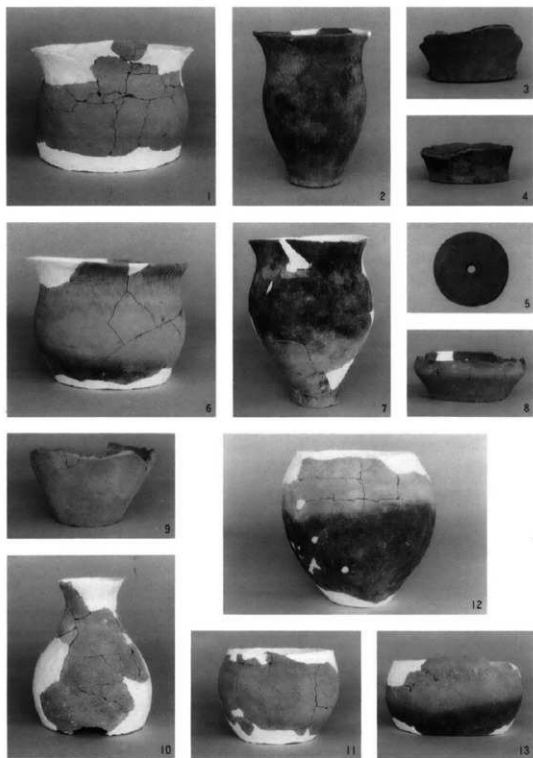
1.~5. 40号住居址 出土土器 6. 41号住居址 出土土器 7.~8. 特殊遺構 出土土器



1.~7. 特殊遺構 出土土器 8.~11. 配石址 出土土器



1. 土坑27 出土土器 2. 25号住居址 出土顔面把手 3. 34号住居址 顔面把手 4. 34号住居址 出土土偶 5.~6. 土器廃棄場 出土土製品 7.~8. 土器廃棄場 出土土偶(頭部) 9.~11. 土器廃棄場 出土土偶(胸部) 12. 35号住居址 出土土偶(腕部) 13.~15. 32号住居址 出土土偶(脚部) 16. 34号住居址 出土土偶(脚部) 17.~18. 土器廃棄場 出土土偶(脚部)



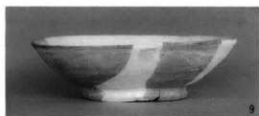
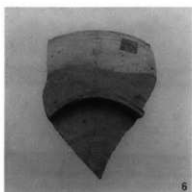
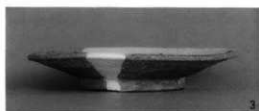
1, 4号住居址 炉址埋設土器 2, 4号住居址 出土土器 3, 4, 16号住居址 出土土器 5, 16号住居址出土土製品 6, 18号住居址 炉址埋設土器 7, 8, 18号住居址 出土土器 9, 19号住居址 炉址埋設土器 10, 11, 23号住居址 出土土器 12, 13, 23号住居址 炉址埋設土器



1. 1号住居址 出土土器 2.~3. 6号住居址 出土土器 4. 8号住居址 出土土器 5. 8号住居址 出土転用碗 6. 9号住居址 出土土器 7. 11号住居址 出土土器 8.~11. 11号住居址 出土陶器



1.~8, 11号住居址 出土陶器 9, 11号住居址 出土土器 10.~12, 12号住居址 出土土器



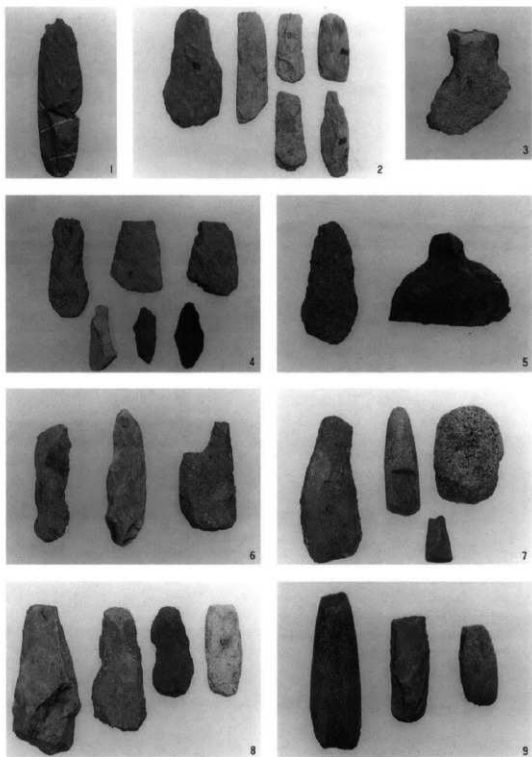
1, 15号住居址 出土土器 2~11, 15号住居址 出土陶器



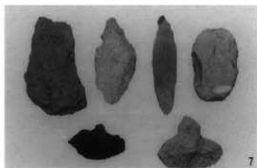
1~2, 17号住居址 出土土器 3, 20号住居址 出土土器
4~7, 21号住居址 出土土器 8~11, 22号住居址 出土土器



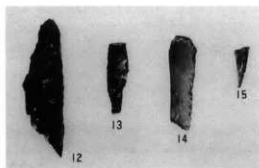
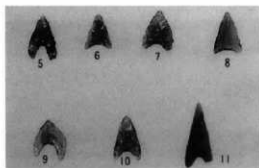
1.~2. 26号住居址 出土土器 3. 36号住居址 出土陶器 4.~6. 36号住居址 出土土器



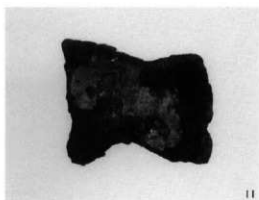
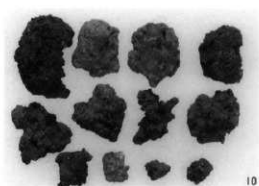
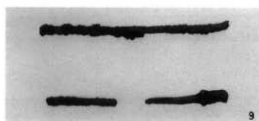
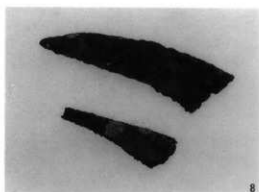
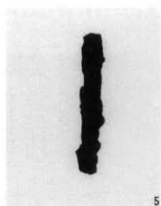
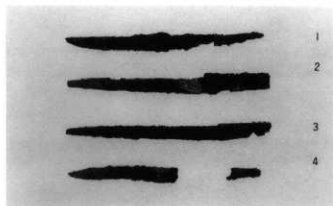
1. 5号住居址 出土石器 2. 13号住居址 出土石器 3. 24号住居址 出土石器
4. 25号住居址 出土石器 5. 27号住居址出土石器 6. 28号住居址 出土石器
7. 30号住居址 出土石器 8.-9. 32号住居址 出土石器



1.~2. 32号住居址 出土石器 3. 33号住居址 出土石器 4.~5. 34号住居址 出土石器
6. 35号住居址 出土石器 7.~8. 37号住居址 出土石器 9.~10. 41号住居址出土石器



1.~4. 土器廃棄場 出土石器 5. 27号住居址 出土石鏃 6. 29号住居址 出土石鏃 7. 41号住居址 出土石鏃 8.~11. 土器廃棄場 出土石鏃 12. 23号住居址 出土不定形石器 13. 34号住居址 出土石鏃 14. 土器廃棄場 出土石匙 15. 土器廃棄場 出土不定形石器 16. 16号住居址 出土石器 17. 18号住居址 出土石器 18. 19号住居址 出土石鏃10 19. 23号住居址 出土石器



1, 12号住居址 出土鉄製品 2~3, 36号住居址 出土鉄製品 4, 39号住居址 出土鉄製品 5, 11号住居址 出土鉄製品 6, 20号住居址 出土鉄製品 7, 6号住居址 出土鉄製品 8~9, 遺構外 出土鉄製品 10, 調査地内 出土鉄滓 11, 19号住居址 出土鉄製品 12, 7号周溝墓 出土鉄製品

報告書抄録

ふりがな	くぼうえのたいらいせき							
書名	久保上ノ平遺跡							
副書名	墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	南箕輪村埋蔵文化財緊急発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	友松 諭							
編集機関	南箕輪村教育委員会							
所在地	〒399-45 長野県上伊那郡南箕輪村4840番地1 TEL (0265) 76-7007							
発行年月日	1997年9月1日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
くぼうえのたいらいせき 久保上ノ平遺跡	ながのけんいづなぐら 長野県上伊那郡 南箕輪村1164- 1他7筆	20385	25	35° 53' 28"	137° 58' 59"	19940406 1 19940920	3,000㎡	墓地公園及び宅地造成に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
久保上ノ平	集落址	縄文 弥生 奈良・平安		縄文 竪穴住居址 18軒 特殊遺構 配石遺構 土器廃棄場 弥生 竪穴住居址 5軒 周溝墓 9基 奈良・平安 竪穴住居址 16軒		深鉢型土器 浅鉢型土器 ミニチュア土器 有孔銅付土器 台付浅鉢型土器 手を表現した土器片 転用硯 墨書土器 土師器 須恵器 灰輪陶器 鉄器		縄文時代中期中葉の土器が配列された特殊な屋外遺構を検出した。また住居址内より人体の全身が表現された有孔銅付土器が出土する。 周溝墓9基を検出。

墓地公園及び宅地造成に伴う雄鷹文化財発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

平成9年9月1日 発行

編集 長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

発行 長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

印刷 ほおずき書籍株式会社

